

當リテハ第三「インターナショナル」及共產黨ノ支持ヲ得サル可ラズ。青年共產「インターナショナル」ハ又反宗教的運動ヲ開始セサル可ラズ。(Ve Congrès de l'Internationale Communiste, P.P. 444 et s.)

第二款 青年共產「インターナショナル」ノ帝國主義ニ對スル活動方針

青年共產「インターナショナル」ハ理論的共產主義ノ宣傳ノミナラス、帝國主義的戰爭反對ノ宣傳ヲナシツツアリ。今其ノ宣傳要綱ヲ見ルニ、青年共產「インターナショナル」ニ加入セル青年ニ對シ軍事技術ヲ教ヘ、戰爭勃發ニ當リテハ彼等ヲシテ先ツ自國ノ「ブルジョア」ヲ攻撃セシメ決シテ對手國ノ「プロレタリア」ヲ攻撃セシメス。又國家間ノ戰爭ヲ轉シテ階級間ノ戰爭ニ、換言スレハ全「プロレタリア」對「ブルジョア」ノ戰爭ニ化セシムル様努力セシム。此ノ點ニ關シ嘗テ「レーニン」ハ青年共產黨ノ任務トシテ左ノ如ク指示セリ

汝ニ銃器ヲ與ヘン、之ヲ用ヒテ軍事ヲ習得セヨ、習得シタル智識ハ他國ニ於ケル卿等ノ兄弟勞働者ニ向ツテ用ヒラルルモノニ非スシテ卿等ノ國ニアル「ブルジョア」トノ爭鬪ニ用ヒラル可キナリ。妥協スルコトナクシテ「ブルジョア」ヲ完全ニ征服シ、其ノ武装ヲ解除シ、以テ搾取行爲ニ終局ヲ告ケシメヨ。斯クシテ始メテ全世界ノ青年共產黨員ハ勞働大衆ト共ニ帝國主義者

ノ武力ヲ破壊スルニ至ラン

之ヲ要スルニ青年ニ共產主義ヲ注入シテ、將來戰爭勃發スルニ際シテハ此等青年ヲシテ國家戰ヲ化シテ階級戰トナラシメ、彼等ノ有スル武器ヲ以テ國外ニ於ケル敵ヲ攻撃セシテ自國內ニ於ケル敵即チ「ブルジョア」ノ絶滅ニ向テ使用セシム。是レ青年共產「インターナショナル」ノ帝國主義ニ對スル政策ナリ

第三款 青年共產「インターナショナル」ノ朝鮮ニ對スル活動方針

一九二四年京城ニ於テ開催サレタル朝鮮青年共產聯盟第二回大會ノ議決セル「プログラム」ハ青年共產「インターナショナル」ノ對朝鮮政策ヲ示スモノナルヲ以テ左ニ之ヲ要譯ス可シ。(註)

(註) 右大會ハ二百二十ノ機關ノ合一セルモノニシテ約三千人ノ會員ヲ有セリ

(一) 政治問題

- (1) 朝鮮ノ完全ナル獨立獲得ノ爲メ戰フコト
- (2) 勞働大衆ノ利益増進ヲ目的トスル機關ヲ設立スルコト

(二) 青年ノ民族運動問題

- (1) 民族運動ヲ支持スルコト

- (2) 鞏固ナル中央集権的民族革命機關ヲ設立スルコト
 - (3) 民族運動ヲ世界勞働青年ノ運動及日本勞働青年ノ革命運動ニ合一セシムルコト
 - (4) 日本ノ帝國主義ヲ支持スル一切ノ機關ト戰フコト
- (三) 經濟問題

- (1) 勞働者及小作青年ノ賃銀値上ニ努ムルコト
- (2) 日本人勞働者ト鮮人勞働者トノ賃金ヲ平等ナラシムルコト
- (3) 勞働賃銀ニ關係ナク、十六歳以下ノ青年ノ勞働時間ヲ六時間以内トシ十八歳以下ヲ八時間トスル制度ヲ確立スルコト
- (4) 勞働者及小作青年ヲ勞働組合ニ加入セシムルヤウ努力スルコト
- (5) 勞働組合ノ組織ヲ確立スルコト

(四) 教化問題

- (1) 小、中、大學ニ於テ鮮語ヲ教授スルコト
- (2) 同化政策ヲ基礎トスル教育方針ニ極力反對スルコト
- (3) 普通教育ヲ無料トスルコト

- (4) 勞働者及農村青年ヲ完全ニ教化シ得ル學校網ヲ作ルコト
 - (5) 學校管理ヲ民主化シ且被教育者代表ヲ學校ノ監理ニ參加セシムルコト
- (五) 政治教育問題

- (1) 青年ノ精神的束縛ノ除去ニ努ムルコト
- (2) 青年大衆ニ政治的教育ヲ施スコト
- (3) 勞働者並農村青年ノ爲獨修機關ヲ設立スルコト
- (4) 政治批判講演ノ機關ヲ設立スルコト
- (5) 新聞、雜誌、「パンフレット」ヲ發行スルコト

第四款 青年共産「インターナショナル」ノ支那ニ對スル活動方針

青年共産「インターナショナル」執行委員會ハ今春ノ總會ニ於テ支那青年共産聯盟ノ過去ニ於ケル業績及將來ニ於ケル其ノ任務ニ關シ十七ヶ條ヨリ成ル一ノ決議文ヲ採擇セル處、右ハ青年共産「インターナショナル」ノ支那革命ニ對スル見解並態度ヲ知ルニ適格ナル資料ナルニ就キ其ノ要點ヲ左ニ摘録ス可シ

- (一) 支那最近ニ於ケル反動革命ハ支那革命ノ一大障害ニシテ支那青年共産聯盟ニ對シ重大ナル損

害ヲ與ヘタリ。其ノ原因ハ種々アル可キモ、就中

(1) 從來共產運動ニ從事セル小「ブルジョア」カ反動的勢力ノ爲メニ脅威サレテ共產運動ヲ拋棄セルコト

(2) 支那共產聯盟ノ新幹部ノ活動カ不十分ナリシト、又一ニハ聯盟内部ニ於ケル教育カ不完全ナリシトノ爲ニ聯盟加入人員ノ團結力薄弱ナリシコト

(3) 支那青年共產聯盟ノ大衆、就中工場労働者ニ對スル活動不十分ナリシコト、而シテ工場労働者ニ對スル活動思ハシカラサリシハ細胞制度ノ組織カ不完全ナリシニ基クモノトス

(4) 支那青年共產聯盟機關ノ組織カ不完全ナリシト、又外部ノ事情ニ順應スル政策ヲ講シ得サリシコト

等ノ原因ニ基クモノトス

(二) 支那青年共產聯盟ハ今尙ホ其ノ發達ノ初期ニアリ。殊ニ右聯盟ハ此ノ際新手段ヲ採用スルヲ要ス。其ノ組織ノ薄弱ニシテ且幹部ノ素質宜カラサリシコトハ實ニ過去ニ於テ聯盟ノ活動ヲ妨クル主要原因ナリキ

聯盟ノ現會員殊ニ幹部ノ素質ハ極メテ不良ナリ。(會員ノ五〇「バーセント」及幹部ノ九〇「バ

「セント」ハ學生ナリ)

聯盟ノ青年労働者ニ對スル努力モ亦不十分ナリト云ハサル可ラス。職業細胞ハ聯盟内ニ於テ何等必要ノ活動ヲナサス。聯盟會員相互間ノ聯絡亦宜シカラス。聯盟ノ陰謀政策モ亦不完全タルヲ免カレス。政治教育モ不十分ニシテ聯盟會員亦必要ナル政治智識ヲ有セズ。

此等諸般ノ缺點ヲ見ル時ハ最近支那青年共產聯盟ノ振ハサルハ寧ロ當然ト云フ可シ。然レトモ聯盟ハ今ヤ四圍ノ狀況ノ變化ニ順應シテ其ノ陣容ヲ改メ新ニ活動ヲ開始セントシツアルハ事實ナリ

(三) 支那青年共產聯盟ハ共產「インターナショナル」執行委員會第九回總會ノ對支決議ヲ遵守セサル可ラス

右決議ヲ實行スル爲ニハ支那青年共產聯盟ハ先ツ支那共產黨ヲ擁護スルヲ第一ノ任務トナササル可ラズ。即チ青年労働者並農民ノ大衆ヲ動員シテ之ヲ組織シ青年共產聯盟自ラ中心トナリテ自己ノ周圍ニ職業組合、農民組合等ヲ糾合セサル可ラス。是ガ爲ニハ支那青年共產聯盟ハ先ツ自己ノ内部ニ介在スル「オポルチュニスト」ヲ排撃シ且從來ノ脫線行爲ヲ停止セサル可ラズ

(四) 支那青年共產聯盟ハ共產黨ノ争闘ニ參加シ、從來ノ缺點ヲ改メ青年ニ對スル活動ノ誤謬ヲ是

正シ、左記ノ三點ニ其ノ全力ヲ集中セサル可ラス

- (1) 都市ニ於ケル活動ヲ益々ニ盛ニスルコト（同盟罷業ヲ企ツルコト民衆ヲシテ諸種ノ要求ヲナサシムルコト）、而シテ此等ノ争闘ニ於テハ常ニ青年ヲシテ其ノ中心勢力タラシムルコト
- (2) 村落ニ於テ細胞ヲ組織スルコト、農村青年ヲ教育シ彼等ヲシテ農村組合、「ソヴェエト」、武装「バルチザン」ヲ組織セシムルコト
- (3) 支那革命達成上ノ最良策ハ反動的軍閥ノ軍隊ニ革命思想ヲ注入シテ之ヲ内部ヨリ崩解セシメ、支那青年共産聯盟會員並勤勞青年ノ大衆ニ軍事教育ヲ施スコトナリ

上記ノ事業遂行ノ爲メニ支那青年共産聯盟ハ職業組合及農民組合内ニ青年委員會ヲ組織シ、又徒弟ニ向テ活動スルヲ要ス。「ソヴェエト」制度ノ既ニ樹立セラレタル地方ニ於テハ、支那青年共産聯盟ハ村落ノ最モ貧困ナル階級者間ニ「ソヴェエト」的組織ヲ擴充スルト同時ニ、又青年ヲ基礎トスル各種ノ團體ヲ組織スルヲ要ス

革命軍隊内ニ於テハ聯盟青年ノ團體ヲ組織シ、共産黨ノ細胞ヲ擁護スルヲ要ス。反動軍隊内ニ於テハ聯盟ハ青年ノミノ細胞ヲ組織セスシテ共産黨ト共通ナル細胞ヲ組織スルヲ要ス。聯盟ハ陰謀ニ必要ナル注意ヲ怠ラス、又常ニ勤勞青年ノ糾合ニ努力スルヲ要ス。而シテ其ノ順

序ハ先ツ都市ノ「プロレタリア」青年間ニ次ニ青年農業勞働者間ニ其ノ組織ヲ擴張セサル可ラス

- (五) 支那青年共産聯盟ハ勤勞青年ノ糾合ト組織ニ全力ヲ傾注セサルヘカラス。此ノ目的達成ノ爲ニハ現存ノ各種團體ニ接近シ、社會主義的職業組合ニ加入シ、以テ内部ヨリ此等團體ノ幹部カ資本家ノ走狗ナルコトヲ暴露セシムヘシ。又反動的學生ノ團體ニモ人ヲ加入セシメテ以テ之ヲ内部ヨリ崩解セシメサル可ラス

- (六) 支那青年共産聯盟ハ學生ノ反動團體ニ對抗シテ學生ノ革命團體ヲ組織スルヲ要ス。支那青年共産聯盟ノ最大任務ノ一ハ共産黨ト相提携スルニ在リ。從ツテ從來青年共産聯盟及共産黨ノ内部ニ存在セル誤レル見解ヲ消滅セシメサル可ラス。換言スレハ從來一部ノ人士ハ支那青年共産聯盟ヲ共産黨ヨリ分離セシメントシ、又或ル者ハ青年共産聯盟ト共産黨トノ合同ヲ策セルモ、此ノ兩運動ハ共ニ不可ナルヲ以テ極力之カ排除ニ努メサル可ラス。支那共産黨ハ共産「インターナショナル」ノ支持ヲ受ク。故ニ支那青年共産聯盟ハ常ニ支那共産黨ノ指導ヲ仰キ之ニ從ツテ行動セサル可ラス。斯クノ如ク青年共産聯盟ハ共産黨ノ指導下ニ立ツヲ要スルモ、但シ共産黨ノ政策ニ對シテ批判スルノ權利ヲ有セサル可ラス。斯クノ如クシテ

始メテ支那青年共產聯盟ハ政治教育ヲ充實シ又其ノ争闘力ヲ發達セシムルヲ得可シ

(七) 支那青年共產聯盟ノ内部問題トシテハ其ノ組織ヲ鞏固ニスルコト最モ緊要ナリ。更ニ之ヲ具體的ニ云ヘハ

- (1) 支那青年共產聯盟ノ基礎タル職業細胞ヲ鞏固ニスルヲ要ス。即チ共產聯盟ノ會員ヲ既存ノ細胞ニ加入セシムルノミナラス、大工場又ハ工業中心地ニ於テ新會員ヲ募集スルヲ要ス。而シテ成ル可ク相當ノ年配ニ達セル者(二十三歳迄)ヲ募集スルヲ要ス。是レ現在ノ支那青年共產聯盟ノ會員ガ若キニ過グルヲ以テナリ。
- (2) 支那青年共產聯盟ノ各種ノ委員會ノ能率ヲ増進シ、労働者ノ募集ヲ益々盛ニシ、青年ノ組織スル諸種ノ團體ト密接ナル關係ヲ保持セザル可ラズ
- (3) 支那青年共產聯盟ハ合法機關ノ外ニ鞏固ナル不合法機關ヲ創設シ會員ニ對シテ陰謀ニ關スル智識ヲ授ケサル可ラズ。斯クシテ從來ノ惡弊タリシ「リスト」ノ作成癖乃至不必要ナル文書ノ收藏ヲ已メテ一日モ早ク實際運動ニ入ラザル可ラズ
- (4) 支那青年共產聯盟ノ會員ニ系統的ニ政治教育ヲ施シ、政治智識ノ最低限ヲ定メ(特ニ孫逸仙ノ學說ニ關シ)且支那共產黨並支那青年共產聯盟ノ活動問題ハ總テ之ヲ青年共產聯盟ノ會

員ノ一般討議ニ附セザル可ラズ

(八) 青年共產「インターナショナル」ト其ノ支部タル支那青年共產聯盟トノ提携ハ支那青年共產聯盟カ其ノ任務ヲ遂行スル上ニ於テ絶對的ニ必要ナリ。然ルニ目下兩者ノ提携ヲ困難ナラシムル或種ノ事情存ス。支那共產青年聯盟ハ此等ノ事情ヲ排除スルニ最善ノ努力ヲ拂ハザル可ラズ

青年共產「インターナショナル」ハ其ノ支那支部タル支那青年共產聯盟カ「プロレタリア」争闘ノ第一線ニ立チ、支那労働者並農民ノ革命運動ニ於テ指導的地位ニ立テラルヲ大ニ誇トスルモノナリ

青年共產「インターナショナル」及各國ニ於ケル其ノ支部ハ支那青年共產聯盟ヲ援助シ其ノ「ボルシェウィズム」運動ヲ容易ナラシムルヲ其ノ義務ト信ズ。青年共產「インターナショナル」ハ支那青年共產聯盟ガ世界各國ニ於ケル勤勞青年ノ間ニ好評ヲ博スル様努力ス可ク、且各國ニ於テハ其ノ支部ヲシテ帝國主義諸國ノ對支干涉ヲ防遏シ以テ支那青年共產聯盟ヲ援助セシムルニ努力ス。

(La Correspondance Internationale, 7 août 1928, P.P. 463-466.)

第四章 革命闘士國際救援協會(略稱「モブル」)

Международное Общество Помощи Борцам Революции (Мопр)
 Secours Rouge International (S.R.I.)
 Die Internationale Rote Hilfe. (I.R.H.)

第一節 概 說

革命闘士國際救援協會(露語ニテ Международное Общество Борцам Помощи Революции ト謂ヒ簡譯シテ Мопр ト稱ス)ハ「ソヴィエト」聯邦人ノ發起ニ係リ千九百二十二年十一月共產「インターナショナル」第四回會議ニ於テ其ノ贊同ヲ得テ設立セラレ其ノ本部即チ執行委員會ハ莫斯科市ニ在リテ同市「アガリョフ」街ノ宏壯ナル五階建築物内ニ事務所ヲ有ス右協會ノ組織、目的等ヲ説明スル爲ニハ千九百二十四年七月第一回「モブル」ノ國際大會ニ於テ採用シタル同協會ノ組織ニ關スル綱要ヲ要譯スレバ足ル

「モブル」ノ組織ニ關スル綱要ノ拔萃

(一) 「モブル」ハ世界各國ニ於ケル階級の革命闘争ノ犠牲者ニ對スル國際的連帯心意ヲ勞働民衆間ニ其政黨別ニ關係ナク振興セシメ右犠牲者ニ物質的、精神的、政治的及法律的援助ヲ與フルコ

トヲ以テ使命トス

(二) 「モブル」ハ會員組織ニシテ獨立的團體トシ其ノ事業遂行ノ爲其ノ會員ヨリ成ル機關及勞働者ノ凡ユル階級の革命團體ニ依リ支持セラレヘキヲ期ス

(三) 「モブル」ノ使命ニ賛成シ其ノ定款ニ服シ會費ヲ納付スル者ハ何人ト雖モ「モブル」會員タルコトヲ得

(四) 「モブル」事業ニ對スル一般的指揮ハ「モブル」執行委員會ニ之ヲ集中ス

(五) 「モブル」執行委員會ハ各國代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

「モブル」執行委員會ハ「モブル」國際會議ニ於テ之ヲ選舉ス

「モブル」執行委員會ノ總會ハ一年二回トス

執行委員會ノ所在地ハ莫斯科トス

執行委員會ノ事業ヲ監督セシムル爲、前記會議ニ於テ監督委員會ヲ選舉ス。監督委員會委員ハ之ヲ五名トス

(六) 執行委員會ハ會議閉會中ニ於ケル「モブル」ノ事業ヲ指揮ス

(七) 「モブル」支部ノ定款及組織の原則ハ執行委員會ノ認可ヲ受クヘシ

- (八) 前記事業執行ノ爲各國ニ「モブル」支部ヲ置ク
- (九) 支部ノ事業ハ當該國ノ「モブル」中央委員會ノ指揮並執行委員會ノ一般の指揮及監督ノ下ニ行ハルヘシ
- (十) 支部ハ區及地方委員會並右委員會ト聯絡ヲ持チ、其ノ指揮及監督ヲ承クヘキ地方の會員團體ヲ設置ス
- (十一) 各國ノ中央委員會ハ革命的無產政黨、職業組合、産業組合青年及女子團體ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織シ且革命的農民及「モブル」ノ使命ニ賛成シタルモ其ノ他ノ公共事業界ノ代表者ヲ参加セシムヘシ
- 前記團體又ハ右團體ニ緣故アル團體ハ各當該國ノ中央委員會ニ對シ一名宛ノ代表者ヲ選出スヘシ
- 「モブル」執行委員會ハ前記團體ノ代表者ヲ忌避スルコトヲ得。此ノ場合ニ於テ右團體ハ他ノ代表者ヲ指名スヘシ
- (十二) 各國ニ於ケル本協會ノ團體的單位ハ企業、工場、事務所其ノ他ニ於ケル労働者又ハ農民若ハ農業ニ從事セル労働者ヨリ成ル下級細胞トス

- (十三) 階級的革命闘争ノ犠牲者援助ニ要スル物質的手段ハ會費、特別徴收金並各種企業及宣傳的材料ノ出版ヨリノ收入、労働者及農民ノ革命的團體ノ繼續的又ハ臨時的寄附ヲ以テ之ヲ組織ス
- 右綱要ニ依リ「モブル」ノ目的ハ大體明白ナルガ「モブル」幹部員ハ革命達成ヲ目的トスル有力ナル團體トシテハ第三「インターナショナル」、職業組合「インターナショナル」及農民「インターナショナル」等アリ。而シテ「モブル」ハ右三團體ニ對スル補助的ノモノナルヲ以テ若シ右三團體ヲ世界的革命ニ對スル前衛ナリトセハ「モブル」ハ實際ニ其ノ後衛ナリトシ其ノ目的トシテ左ノ通例示シ居レリ
- (一) 世界ノ現勢ハ未タ世界的革命ヲ成スヲ許ササルモ各國ニ於テ無數ノ革命的闘士ハ支配階級乃至資本主義ノ犠牲トナリテ困苦ヲ嘗メ居ルニ付右犠牲者及其ノ家族ノ救済ノ爲物質的援助ヲ與フルノ要アリ。右救済ハ慈善家ノ手ニ委スヘキニ非サルヲ以テ無產階級ハ自ラ零細ナル金ヲ齎出シテ極力援助ニ當ルヘシ
- (二) 政治的啓蒙運動ヲ爲スヘシ。例ヘハ如何ナル闘士ニ對シ援助ヲ與フヘキヤ、何人カ何人ト闘ヒツツアルカ、何故ニ闘争カ發生シタルカ、闘争ノ結果ヤ如何、何故ニ労働者及貧農カ闘争ノ經過ニ付利害關係ヲ有スヘキカ、又何故ニ前顯闘士ヲ支援スヘキヤニ付會員及無產階級ニ對シ

説明及宣傳ヲ爲スヘシ

五八四

(三) 労働者ノ間ニ國際的連帯心意ヲ涵養スヘシ。之カ爲ニハ援助者ト被援助者トノ間ニ密接ナル聯絡ヲ保タシメ以テ民衆ノ間ニ他ノ民族及人種ノ革命的闘士ニ對スル同情ヲ喚起スヘシ。而シテ右目的達成ノ方法ハ「モブル」ノ廣ク實行シ居ル監獄名譽保護者任命ノ制度トス

(四) 組織的方面ニ於テハ無數ノ軍隊ヲ組織シ、之ヲ部隊及細胞ニ分チ且細胞内ニハ事業遂行ノ爲「アクチーブ」即チ將校ヲ置キテ不斷積極的活動ヲ爲スヘシ

右軍隊ノ任務ハ「モブル」ノ庶幾スル世界の革命勃發ノ際革命軍ニ對シ軍需品、食糧、飼料、醫療品等ヲ供給シ又衛生勤務ニ服シテ直接間接ノ援助ヲ與フルコトニ在リ

尙千九百二十四年六月開催サレタル第三「インターナショナル」第五回會議決議中「モブル」ノ目的ニ關スルモノアリ。右ハ「モブル」ノ性質目的ヲ闡明スヘキ一助タルヘキニ付其ノ一部ヲ左ニ譯出スヘシ

爾來(第三「インターナショナル」第四回會議以來)國際的反革命運動ハ革命的労働者農民ニ對スル未聞ノ迫害ヲ伴フコトナレリ即チ無産者團體、職業組合、労働者ノ新聞、俱樂部及產業組合等ハ絶ヘス世界ノ資本家及其ノ傭人タル「ファシスト」團ノ爲迫害ヲ被リ、無産者革命ニ

對シ最モ積極的ナル闘士ハ裁判手續ニ由ラスシテ殺戮セラレ、多少ナリトモ革命運動又ハ共產主義ニ同情ヲ有スル嫌疑アル者ハ直ニ逮捕セラレ、逮捕セラレタル者ハ侮辱拷問ヲ忍ハサルヘカラス。殊ニ拷問ハ民主主義的ナル「ブルジョア」國ノ多數ニ於ケル常習的現象トナリ、監獄制度ハ逮捕者ニ對スル肉體的及精神的壓迫其ノ物ト化シ、「ブルジョア」ノ裁判所ハ「ブルジョア」裁判所構成ノ基本サヘ蹂躪シタル喜劇ト化セリ

斯ノ如キ反革命的狂暴カ國際的労働階級及労働的農民ヲシテ其ノ民主主義的幻想ヨリ覺醒セシメ、國際的無産階級連帯心意ヲ鞏固ナラシムルニ屈竟刺戟タルハ言フ迄モナシ、而シテ右連帯心意ノ増進ハ「モブル」ノ急進的發達及成功トシテ發露スルニ至ルヘキヤ必セリ

「モブル」ハ政黨ニ關係ナキ團體ニシテ、其ノ使命ハ拘禁サレタル革命闘士、其ノ家族、子女及死亡シタル戦友ノ遺族ニ對シ法律上、精神上及物質上ノ援助ヲ與フルニ在リ「モブル」ハ労働者農民及下級使用人ナル民衆ヲ其ノ黨籍ニ關係ナク又資本主義ノ搾取及民族的迫害ノ爲苦シメル者並労働ノ資本ニ對スル勝利ヲ庶幾スル者ヲ包擁スルモノナリ

斯クテ「モブル」ハ其ノ事業ヲ擴張スルニ從ヒ、單一線戰ナル戰略實行ノ重要ナル具ノ一タルヘク、又國際的連帯心意實現ノ具體的事實トシテハ無産階級ノ革命的戰鬥ニ直接干與シ得ヘキ

五八五

新シキ勢力ヲ多々益々組織スルコトナルヘシ。而シテ「モブル」ノ事業即チ勞働階級ノ退却ニ際シテモ又進軍ニ當リテモ不斷ノ戰鬥ヲ爲スニ必要ナル無産階級戰鬥部隊ノ組織カ如何ニ政治的ニ重要ナルカ、將又拘禁セラレタル革命闘士ヲ戰友ノ同情アル雰圍氣ヲ以テ庇護シ、以テ闘士ノ將來ノ戰鬥ニ對スル勇氣ト用意ヲ支持スルコトカ如何ニ肝要ナルカハ贅言ヲ俟タスシテ明ナリ

尙本協會ハ千九百二十七年四月莫斯科ニ於テ第二回國際大會ヲ開催シ其ノ際左記執行委員會會員ヲ互選セリ

- 會長 片山 潛 (獨逸婦人)
- 會長代理 片山 潛 (日本人)
- 同 「アンドレ、マルチ」 (佛蘭西人)
- 同 「スターツワ」 (「ソヴェト」聯邦人)
- 同 「アベリ」
- 同 「ドラブキーナ」
- 同 「トブウノフ」

- 「ペレネツ」 (以上「ソ」聯邦人)
- 「シレエル」 (獨逸人)
- 「ビク」 (同)
- 「コルチエ」 (佛蘭西人)
- 「ロウエリ」 (英吉利人)
- 「チュン、イ」 (支那人)
- 「ドインクリ」 (蘭領印度人)
- 「ウエレフ」 (巴爾幹人)
- 「マラビニ」 (伊太利人)
- 「トロスタリ」 (瑞西人)

外四十二人

以下項ヲ分チテ「モブル」ノ組織現狀等ニ付敘述スル所アルヘシ

第二節 「ソヴェト」聯邦革命闘士國際救援協會支部

第一款 特別ノ地位

上述ノ如ク本協會ハ千九百二十二年十一月「ソヴィエト」聯邦ニ於テ先ツ設立セラレ、爾來各國ニ於テ贊同者ヲ増加シ、千九百二十六年七月本協會國際會議ノ際ハ「ソヴィエト」聯邦以外三十五ヶ國ニ其ノ支部及會員約百萬ヲ有スルニ至リタルカ「ソヴィエト」聯邦カ本協會發生ノ沿革ヨリモ又國情ヨリモ其ノ合法的發達ヲ遂クルニ最モ有利ナル條件ヲ備ヘ居リ、從テ現時該聯邦ニ於ケル本協會ハ多數ノ會員ト、比較的多額ノ資力トヲ擁シ、他ノ國際的革命團體ト共ニ重要ナル地位ヲ占メ居ルヲ以テ、先ヅ同國ニ於ケル本協會ニ付敍説シタル後、各國ニ於ケル本協會ニ付概説スル所アルヘシ

敍上ノ如ク「ソヴィエト」聯邦ニ於ケル本協會支部ハ、他ノ諸國ニ於ケル支部ニ比シ、特殊且重要ナル地位ヲ占ムルニ鑑ミ、常ニ其ノ事業遂行上主動的態度ニ出ツルハ當然ナルカ、右支部カ其ノ主動的任務トシテ舉ケ居ルモノハ凡ソ左ノ如シ

- 一、他ノ諸國ニ於ケル本協會支部ハ人的及資力のニ微弱ニ付「ソヴィエト」聯邦支部ハ本協會ノ本部タル覺悟ヲ以テ他ノ各國支部ニ對シ援助ヲ與フルコト
- 二、「ソヴィエト」聯邦支部ハ外國ニ於ケル革命家ニ對シ自國ニ於ケル革命ノ經驗ヲ教示シ本協

會ノ組織ニ付指導ノ任ニ當ルコト

- 一、「ソヴィエト」聯邦支部ハ同聯邦ニ於ケル國際的革命思想ノ養成ニ努ムルコト
- 二、「ソヴィエト」聯邦支部ハ外國ヨリ亡命シ來ル革命家ニ對シ可成援助ヲ與フルコト

第二款 會則及構成

本支部會則ハ上述シタルトコロト多少重複ノ嫌アルモ其ノ要領ヲ左ニ掲クヘシ

「ソヴィエト」聯邦革命闘士國際救援協會支部會則拔萃

- 一、本部ハ資本主義國ニ於ケル革命的階級闘争及東方諸國ニ於ケル民族自由運動ノ犧牲者其ノ家族併政治的亡命者ニ對シ物質的精神的、政治的及法律的援助ヲ與フルヲ以テ目的トス
- 二、本支部ハ労働者ノ民衆的團體トシテ「ソヴィエト」的公共主義ノ下ニ其ノ事業ヲ行ヒ會員ノ活動性及自動性ヲ極力發揚スルコトニ努ムヘシ
- 三、本支部ハ資本主義ノ囚人ニ對シ援助ヲ與フル具體的事實ヲ以テ無産階級ノ國際的革命事業ニ對スル闘争ノ使命目的及本質ヲ會員ニ説示スルコトニ努メ以テ奮闘シ居ル世界ノ無産階級ト「ソヴィエト」聯邦労働者トノ連帶心意ヲ涵養シ及鞏固ナラシムヘシ
- 四、本支部ハ以上ノ使命遂行ノ爲各地ニ會員團體ヲ組織シ「モブル」ノ理想ノ宣傳及白色「テロ

ル」ニ對スル反抗戰ヲ行ヒ資金ヲ蒐集シ法律上ノ力ヲ蓄積シ拘禁セラレタル革命家ニ對シ以上團體ノ名譽監督ヲ行フ

五、「モブル」團體ハ政治的、職業的及其ノ他ノ公共的團體ト接觸及協調ヲ保チテ事業ヲ行フヘシ

六、勞働者及其ノ家族ニシテ選舉權及被選舉權ヲ有シ無產階級ノ獨裁ヲ承認シ會則ニ服シ本支部ノ何レカノ團體ニ加入シ會費ヲ納ムル者ハ何人ト雖モ「モブル」會員トナルコトヲ得

備考 十六歳ニ達シタル勞働者ハ會員タルコトヲ得

七、會員ノ加入ニ付テハ任意主義及單獨的加入ノ方法ニ依ルヘキモノトス

八、會員ハ「ソヴィエト」聯邦「モブル」支部中央委員會ノ定ムル金額ノ加入金及會費ヲ右委員會ノ定ムル期限ニ納ムヘシ

九、會員ハ其ノ屬スル團體ノ畫策ヲ支持シ其ノ事業ニ積極的ニ關與シ「モブル」ノ理想及使命ヲ宣傳シ新會員ノ加入ヲ勸誘スヘシ

次ニ本支部構成ニ關シテハ同支部大會ノ決議ニ依レハ左ノ如シ

本支部ハ民主的中央集權主義ニ依リ之ヲ組織シ本支部定款ニ從ヒテ事業ヲ行フ

本支部ノ最高指導機關ハ總會、地方會議及大會トス

總會、會議又ハ大會ハ委員會ヲ選出ス委員會ハ執行機關ニシテ其ノ所屬團體ノ通常事業ヲ指導ス

以上各機關ノ系統ハ左ノ如シ

- (イ) 聯邦全城ニ對シテハ全聯邦大會及中央委員會
 - (ロ) 州又ハ縣ニ對シテハ州又ハ縣地方會議及委員會
 - (ハ) 管區又ハ郡ニ對シテハ管區又ハ郡地方會議及委員會
 - (ニ) 分管區ニ對シテハ分管區會議及委員會
 - (ホ) 細胞ニ對シテハ細胞總會及任期六ヶ月ノ細胞「ビュロー」
- 尙本支部ハ月二回會報ヲ發行シ且宣傳用トシテ繪入雜誌ヲ隔週發行ス

第三款 會員數及財政狀態

本協會ハ千九百二十二年十一月創立セラレタルモ「ソヴィエト」聯邦ニ於テ其ノ細胞カ設立ノ緒ニ着キタルハ漸ク千九百二十三年中頃ニシテ、主トシテ地方民ノ自發的發起ニ係ルト共ニ地方ニ於ケル共產黨機關ノ指導ニ俟ツコトモ亦大ナリ。從テ其ノ指導援助アル地方ニ於テハ該細胞普及シ

且健實ナル發達ヲ遂ケ其ノ之ナキ地方ニ於テハ萎靡振ハス已ニ設立シタル細胞ニシテ閉鎖シタルモノモアリ。斯クテ千九百二十四年中頃迄ニハ聯邦内到處細胞設立セラレ上級ノ各機關モ完備シ且會員數モ年々増加シタルカ右發達ノ狀ヲ數字ヲ以テ示セハ左ノ如シ

年 月 日	會 員 數	細 胞 數
千九百二十四年一月一日	五〇〇、〇〇〇人	
同 七月一日	一、九四七、〇〇〇人	
千九百二十五年一月一日	三、七二七、〇三四人	二九、五四六
同 七月一日	五、〇四八、四八〇人	四二、五九六
千九百二十六年一月一日	四、九九七、六八四人	四一、八七三

尙會員ヲ職業別ニ示セハ左ノ如シ

會員總數五、〇五七、二六一人(千九百二十五年十月一日調)	
內 譯	
勞 働 者	一、九七二、三三二人(三九%)
農 民	一、一一二、五九七人(二二%)

官吏其ノ他ノ使用人 一、四六六、六〇六人(二九%)

其ノ他(内軍人軍屬、學生多數ヲ含ム) 五〇五、七二六人(一〇%)

次ニ地方ニ於ケル委員會ハ千九百二十五年末ニ於テ百二十九ヲ算シタルカ之ヲ地方別ニ示セハ左ノ如シ

(イ) 露西亞共和國及極東地方	縣委員會	四十
(ロ) 哥薩克自治共和國	同	八
(ハ) 其ノ他ノ自治共和國及州	州委員會	十七
(ニ) 聯邦ヲ構成スル共和國	中央委員會	七
(ホ) 西伯利及小露西亞(新行政區劃ニ依ルモノ)	管理委員會	五十七

備考

調査者曰ク右ニ依レハ第三款ニ述ヘタルカ如ク中央委員會ハ一個ニアラスシテ七個アリテ内露西亞共和國ノ中央委員會ハ聯邦中央委員會ニ併合セラレテ同一體ヲ爲シ聯邦ヲ構成セル他ノ四共和國及後高加索ノ三共和國ハ夫々其ノ中央委員會ヲ有スルモノト認メラル

本支部ノ收入ニ付テハ専ラ會員ノ會費ト其ノ寄附金トニ依ルコトトナリ居レルカ、本協會ノ目的

善及ノ爲會員ノ負擔ヲ可成輕カラシムル趣旨ヲ以テ會費ヲ低廉ナラシムルコトトシ當初ハ農民及
勞働者ノ區別ニ應シテ毎月約十哥及二十五哥ヲ課シタルモ其ノ後數回ニ之ヲ低下シ最近ハ右區別
ニ依リ二哥及五哥ト定メ尙右會費ノミニテハ事業經營上資金不足ナルニ付可成會員中ノ篤志者ヨ
リ寄附ヲ受クルコトトシ、一時ハ寄附金額ハ收入額ノ二割五分以上ニ達シタルコトアリタルモ、
最近ハ地方委員會及細胞ノ努力足ラサルカ爲寄附金額減少シタルノミナラス、會費亦怠納勝トナ
リ千九百二十五年下半年期以後著シク收入減ヲ來シタリト云フ尙參考ノ爲千九百二十三年來ノ收入
ヲ年別ニ示セハ左ノ如シ

千九百二十三年

二八二、三五二留

千九百二十四年

二、一五一、二五六留

千九百二十五年

二、九五五、一二一留

千九百二十六年(八月末)

一、一七四、七一五留

本支部ノ財政狀態右ノ如クナルヲ以テ其ノ首腦部ハ益々會員ノ加入及寄附ヲ勸誘シテ毎月ノ收入
ヲ少ナクトモ三十萬留ニ達セシムルト共ニ事務費ヲ節約セムトシ類ニ地方委員會及會員ヲ督勵シ
居レリ

第四款 救 援 事 業

本節第一款ニ述ヘタルカ如ク本支部ノ援助事業トシテハ外國ニ於ケル本協會支部及革命家及聯邦
内ニ於ケル外國亡命者ニ對シ物質的援助ヲ與フルコトヲ以テ主要ナルモノト爲シ居レルカ、本支
部ノ發表スル處ニ依リ拘禁中ノ外國革命家及其ノ家族ニ對シ援助ヲ與フルカ爲支出シタル金額ヲ
年別ニ示セハ左ノ如シ

千九百二十三年

二七九、二八六留

千九百二十四年

一、二九二、九二二留

千九百二十五年

一、八一四、六七三留

千九百二十六年(十月末)

六九九、三二二留

右ノ外以上ノ期間ニ於テ外國革命家ニ對スル法律的援助ノ爲支出シタル金額亦相當多額ニ上リ又
外國ヨリノ亡命者約八千人ニ對シ支出シタル金額ハ約五十萬留ヲ算スト云フ
尙本支部カ第三「インターナショナル」又「ソヴェエト」聯邦共產黨ト密接ナル連絡ヲ保チテ外國
ニ對スル革命的宣傳ヲ行ヒ特ニ外國革命家ニ對シ人的及精神的援助ヲ與ハ居ルコトハ言フ俟タサ
ルトコロニシテ、例ヘハ支那革命運動併米國ニ於ケル「サツコー」及「ヴァンセツチ」釋放運動

ニ對スル援助ノ如キ最近ニ於ケル著シキモノナリ

次ニ前記亡命家ニ對スル援取振リニ付述ヘンニ最近諸國ニ於ケル反動的政治ニ伴ヒ革命家ニシテ「ソヴェエト」聯邦ニ亡命シ來ル者年々多數ニ上レルカ右亡命者中ニハ救助ヲ要スヘキ政治的亡命者ノ外救助ヲ要セサル經濟的亡命者又ハ普通ノ遁走者等各種ノ分子混淆シ居ルニ付其ノ入國ノ際經歷、職業、健康、政治的素養、入國ノ目的各般ニ互リテ精査ヲ遂ケテ右ノ者ニ對シ救助ノ必要アルヤ否ヤ又救助ノ方法程度等ヲ決定ス而シテ右調査ニ當リ革命的活動及政治的信念ノ如何ニ依リテ亡命者ヲ大體二分シ一ハ職業的的革命家ノ組トシ他ハ革命運動ニ參加シタルモ未タ革命的精神ノ鍛鍊充分ナラサル者政治的自覺不充分ナル者又ハ無政府主義的傾向ヲ有スル者ノ組トス

前記調査ノ結果救助ヲ與フルコトニ決定シタル者ハ之ヲ亡命者救助部ニ引渡シテ救助ヲ加フルコトトス右救助ノ要旨ハ亡命者ニ對シ健康ヲ恢復シ其ノ生活ヲ保障スルコトニ在リトシ其ノ具體的方法トシテハ原則トシテ入國後最大限二週間以內物質的援助ト休養トヲ與ヘ其ノ後何等カ職業ニ就カシムルコトトス殊ニ前記亡命者ノ分類ニ依リ職業的的革命家ニ屬セサル一般亡命者ハ可成速ニ工場又ハ農業勞働ニ就カシムル方針ナリ而シテ右勞働割當ニ付テハ本支部ヨリハ當局ニ對シ細密ナル注意ト「タクト」ヲ用ユヘキヲ命ジ居レリ即チ亡命者ニ對シ不適當ナル勞働ヲ強スヘキニア

ラサルモ去リトテ勞働選擇ニ付絕對ノ自由ヲ認ムヘキニアラストシ特ニ亡命者ノ多クハ故國ニ於テ迫害又ハ死ヲ怖レテ遁レ來リタル者ニシテ鞏固ナル精神ト健全ナル思想ヲ有セサルニ付右ノ者ニ對シテハ戰友的愛護ト同情トヲ以テ接シ聯邦勞働者ノ指導ノ下ニ生活方法ヲ立ツル様仕向クヘキ旨ヲ訓示シ居レリ

尙前記二週間以內ノ物質的援助ハ主トシテ宿舍、食費又ハ被服代金等ノ給與ニシテ內宿舍（莫斯科「レニングラード」「ミンスク」「ハリコフ」及「オデツサ」ニ宿舍アリ）ニハ寢具付共同宿舍又ハ特別ノ住居ヲ以テ之ニ充テ食費ハ本人又ハ其ノ家族（配偶者及子女）ニシテ十六才以上ノ者ニハ一日一留十哥ヲ、右ノ者ニシテ病氣ナル場合ニハ右金額ノ十五割ヲ又十六才未滿ノ家族ニ對シテハ五十五哥ヲ支給シ又被服代ノ支給ハ特別ノ場合ノミニ限ルコトトシ前記十六才以上ノ者ニ對シ一時金トシテ六十留以下、十六才未滿者ニ對シ其ノ半額以下ヲ支給ス且又亡命者ニ對スル勞働紹介ノ爲亡命者救助部ニハ勞働紹介係ヲ設置シテ一面亡命者ノ職業希望等ノ調査ヲ爲シ他面各地方ト聯絡ヲ保チテ勞働市場ノ需要ノ調査ヲ行ヒ亡命者ノ就職ニ付援助ヲ與フルト共ニ就職ノ爲地方ニ赴ク者ニハ旅費ト食費トヲ支給スルコトトナリ居レリト云フ

以上ノ方法ニ依リ亡命者救助部ニ於テ取扱ヒタル亡命者ノ員數ヲ年別ニ表出セハ左ノ如シ

年次	死亡者	其ノ家族	計
千九百二十三年	三、七〇八人	三一人	三、七三九人
千九百二十四年	一、九四三人	二一八人	二、一六一人
千九百二十五年	二、一五八人	二八九人	二、四四七人
千九百二十六年	五二八人	一一九人	六四七人
合計	八、三三七人	六五七人	八、九九四人

右表ニヨレハ亡命者數ハ減少ノ傾向アルモ右ニ付本支部ニ於テハ地方委員會ニ於テ直接亡命者ニ對シ救助ヲ與フルモノアリ而シテ右亡命者員數ハ亡命者救助部ノ統計ニ上ラサルニ由ルモノナリト説明シ居レリ

尙前記千九百二十四年及千九百二十五年ニ於ケル亡命者及其ノ家族ヲ職業又ハ社會的地位ニ依リテ區別セハ左ノ如シ

年次	労働者	農民	智識階級	其ノ他	計
千九百二十四年	一〇四三人	六七八人	三一八人	一二二人	二、一六一人
千九百二十五年	一〇〇四人	九九五人	三三〇人	一二八人	二、四四七人

右千九百二十五年亡命者及其ノ家族二、四四七人中四月乃至十二月間ニ入國シタル者一、九五八人ニシテ内亡命者一、七四六人家族二二二人ナルトコロ右一、七四六人ヲ政黨別ニ示セハ左ノ如シ

政黨	死亡者	其ノ家族	計
共產黨員	九七六人	一五一人	一、一二七人
青年共產黨員	一七五人	四四四人	六一九人
其ノ他ノ政黨員	—	—	—
無所属	—	—	—
合計	二〇四七人	一六七三人	二、二二〇人

尙亡命者ノ九割二分乃至九割五分ハ病氣ニ罹リ居ルトコロ其ノ病種ヲ百分率ニ示セハ左ノ如シト云フ

病種	百分率
肺結核患者	三〇「パーセント」
心臟患者	二〇「パーセント」
神經衰弱	三〇「パーセント」
其ノ他ノ疾患	二〇「パーセント」

千九百二十五年亡命者及家族中温泉ニ靜養セシメタルモノ二二五人、醫療ヲ加ヘタルモノ二二一人

五〇〇人（内九、三〇〇人ハ醫療二回以上ニ互ルモノノ延數、二、二〇〇人ハ一回ハ醫療）ヲ算ス
亡命者ノ多數ハ勞働能力ヲ失ヒ居リ右喪失平均數ハ二乃至三割ニ達シ居リ就中職議的勞働者ハ五
割ノ能力ヲ失ヒ居レリト云フ

最後ニ本支部ノ斡旋ニ依リ亡命者ニシテ就職シタル者ハ約九割ニ達スト云フ

第五款 細胞ノ事業

本協會ハ其ノ資金カ専ラ會員ノ會費ト寄附金ヨリ成リ又其ノ事業カ主トシテ會員ノ自覺ト活動ニ
俟ツモノナルニ鑑ミ最下級ノ團體タル細胞ノ發達ヲ獎勵シ居レリ。依テ細胞ノ事業及組織ニ關ス
ル規則ノ大要ヲ左ニ舉クヘシ

一、細胞ハ「モブル」ノ下級團體トシテ會員ノ活動力及自助力ヲ振起スル方法ニ依リ革命闘士
ニ對シ物質的及精神的援助ヲ與フルコトヲ目的トスヘシ

二、前記目的ヲ達スル爲細胞ハ

- (イ) 新會員ヲ加入セシメ
- (ロ) 會員ノ間ニ國際的、階級的闘争ノ精神ヲ以テ誘掖事業ヲ行ヒ
- (ハ) 口頭又ハ印刷ノ方法ニ依リ宣傳事業ヲ行ヒ

(ニ) 抗議ヲ表スル示威運動ニ參加シ

(ホ) 「モブル」ノ資金増加ノ爲方法ヲ講シ

(ヘ) 「モブル」ノ活動ニ關スル資料ヲ蒐集シテ之ヲ上級機關ニ報告シ

(ト) 上級機關ノ指揮命令ヲ實行スヘシ

三、細胞ハ一切ノ企業、官公署、圖書閱覽所、學校、軍隊其ノ他團體ニ於テ「モブル」會員五
名ヲ超ユル場合ニ之ヲ組織ス

備考一、「モブル」會員ハ其ノ最寄ノ細胞ニ單獨加入スヘシ

備考二、大企業ニ於テハ技術別ノ班細胞ヲ組織シ右細胞ノ結合シタル企業「ビュロー」ヲ以テ統轄スルコトヲ得

本支部ハ右規則ノ趣旨ニ依リ細胞ノ發達活動ヲ獎勵シ居ル處都市ニ於テハ勞働者間ニ於ケル政治
思想ノ普及ト各種政治運動ノ機關ノ整頓ノ爲漸次成績ヲ舉ケ居ルモ農村ニ於テハ都市ト其ノ事情
ヲ異ニシ從テ其ノ成績充分ナラストテ地方ノ各機關ヲ督勵シ特ニ次款ノ活動員ヲ激勵シテ細胞ノ
普及發達ニ努力シ居レリ

第六款 活動員

前述ノ如ク本協會ハ其ノ發展上細胞ノ發達ニカテ傾注スルト共ニ又廣ク活動員（將校ト稱ス）ヲ

養成シ其ノ活動ヲ激勵シ居レリ依テ右ニ付左ニ概言スルトコロアルヘシ
 右活動員ナルモノハ義侠的ニ協會ノ組織事務又ハ宣傳事業ニ從事スルモノヲ謂ヒ右養成ノ爲ニハ
 會員中本協會ノ役員ニ非サル者又ハ業務繁忙ナル官公職ヲ帶ヒサルモノヨリ適當ナル者ヲ選ビ之
 ニ一定ノ會務ヲ授クルト共ニ右ノ者ヲ本協會ノ講習會ニ於テ講習ヲ受ケシメ又ハ協會ノ各種機關
 又ハ活動員ノ會議ニ參與セシメタル後右ノ者ノ執務振リ、能力及希望等ヲ參酌シテ活動員ヲ決定
 ス而シテ右ニ依リ決定シタル活動員ハ主トシテ左ノ目的ノ爲ニ使用ス

(イ) 本協會ノ實際的事務ヲ本活動員ニ委任シテ幹部員(主トシテ共產黨員)ノ事務ノ負擔ヲ輕
 カラシム

(ロ) 會員ヲシテ自ラ事務ヲ擔任セシメ有給事務員ニ對スル經費ヲ節約ス

(ハ) 共產黨員ニ非サル民衆ニ對シ「ソヴェト」的公共精神及國際的連帶心意ヲ注入シ以テ「モ
 ブル」ヲ共產黨ニモ又職業組合ニモ加入セサル民衆ノ公共的精神振興ノ先鋒タラシム
 右目的ノ爲活動員ノ實際ニ從事スヘキ事務ヲ大體左ノ通リトス

イ、本協會ノ各種委員會又ハ「セクシヨン」ノ事務

ロ、細胞ノ一團又ハ大細胞附指導者ノ事務

ハ、宣傳事務(會議ニ於ケル報告、談話、講話、俱樂部ノ組織、通信等)

尙前記活動員ヲ高級ト下級トニ別チ高級員ハ舊時隱密ニ革命運動ヲ爲シタル者ヲ充テ下級員ニハ
 青年共產黨員「モブル」普通會員又ハ非共產黨員ヲ以テ之ニ充ツルコトトシ又特ニ農村出身ノ軍
 人學生及勞働者ヨリ活動員ヲ選抜シテ其ノ除隊又ハ休暇ノ際ヲ利用シテ農村ニ於テ宣傳ニ從事セ
 シムルコトニ努メ居レリ

第七款 外國監獄ニ對スル名譽監督

第一節ニ述ヘタル外國監獄ニ對スル名譽監督ナルモノノ組織ニ付テハ之カ規則アルニ付左ニ譯出
 シ該組織ノ説明ニ代ユルコトトスヘシ

一、政治囚人ニ對スル名譽監督ハ「ソヴェト」聯邦ノ勞働民衆ノ「ブルジョア」國革命闘士ニ
 對スル階級的連帶心ノ具體的表現方法ナリ

名譽監督ニ依ル通信交換ハ檻房ニ於テ苦惱シツツアル革命闘士ノ精神ヲ激勵奮起セシムルノ
 ミナラス政黨員ニアラサル「ソヴェト」聯邦ノ民衆ヲシテ諸外國ニ於ケル「プロレタリア
 ート」闘争ノ狀況、右闘争ノ困難及白色「テロル」ノ迫害ヲ知悉セシメ以テ民衆ヲシテ「プ
 ロレタリアート」ノ國際的闘争ニ參加セシムルニ與ツテ力アリ

二、監獄ニ對スル名譽監督ハ「ソヴェト」聯邦支部中央委員會ヨリ縣、州及民族委員會ニ之ヲ委任ス縣、州及民族委員會ハ右名譽監督ヲ管區及郡委員會ニ配付ス管區及郡ノ細胞ハ名譽監督事務ニ干與スヘシ
 名譽監督ヲ付シタル監獄ノ配付ヲ以上機關ノ間ニ於テ變更スルニハ支部中央委員會ノ承認ヲ受クルヲ要ス

三、「モブル」青年團ハ政治的囚人ノ子女ニ對シ名譽監督ヲ行フコトヲ得
 右名譽監督ハ支部中央委員會ノ定ムルトコロニ從ヒ配付スルモノトス
 四、名譽監督實行ノ手續ヲ左ノ通り定ム
 名譽監督ヲ行ハントスル機關ハ其ノ總會又ハ地方會議ニ於テ決議ヲ爲シ右決議ヲ上級機關ニ進達スヘシ

支部中央委員會ハ右名譽監督ヲ委任スルニ當リ名譽監督者ニ當該監獄ニ於ケル囚人ノ名簿、右監獄ノ制度其ノ他ノ材料ヲ送付ス

名譽監督者トナリタル機關ハ其ノ旨ヲ支部中央委員會ヲ經テ政治的囚人ニ通知スヘシ
 五、支部ノ地方機關ハ名譽監督實行ノ爲名譽監督委員會ヲ設置スヘシ

六、名譽監督ノ事務ヲ左ノ通定ム

- (イ) 名譽監督ヲ付シタル監獄ニ於ケル政治的囚人ト通信ヲ交換スルコト
 - (ロ) 右囚人ノ爲寄贈品ヲ蒐集スルコト
 - (ハ) 右監督所在國ノ白色「テロル」及労働運動ヲ調査スルコト
 - (ニ) 右監獄ノ制度、政治的囚人及其ノ家族ノ状態、裁判手續其ノ他ヲ調査スルコト
- 七、名譽監督者ノ書翰ニハ一般挨拶ノ外「ソヴェト」聯邦ノ公共事業ニ對スル名譽監督者ノ活動振、干與ノ程度及其ノ状態ニ付記載スヘシ
 右書翰ノ外名譽監督者ハ名譽監督ヲ行フ機關（地方會議、示威運動、其ノ他生産的事業ノ個々ノ事實）ノ活動中特記スヘキモノノ寫真ヲ送付スルコトヲ得
- 八、名譽監督ヲ付シタル囚人ニ對スル贈物ノ蒐集ハ專ラ寄贈者ノ自由意思ニ依ラシムヘク且隨時募集ノ方法ニ依リ之ヲ行フコトヲ得
 寄贈品ハ名譽監督者ヲ自ラ作成シタル物（各種手細工品、刺繡、肌着類等）ヲ以テ最モ貴重ナルモノトス
 食料品、煙草等ハ其ノ轉交困難又ハ不能ナルニ付右品物ハ寄贈品トシテハ不適當トス

寄贈品ハ其ノ轉交ヲ容易ナラシムル爲金錢ヲ以テスルコトヲ得

飲食料品ヲ以テ寄贈ヲ申出ツルモノアルトキハ右品物ハ地方ニ於テ賣却ノ上賣上高ヲ通常ノ方法ニ依リ支部中央委員會ニ送付ス

九、名譽監督ヲ付セラレタル囚人ヨル受取リタル書翰ハ會員總會ニ於テ讀上ケ「壁張」新聞(廊下其ノ他人目ヲ惹ク場所ニ掲クルモノヲ云フ)及地方新聞ニ掲載シ且「モブル」俱樂部及展覽會ニ於テ利用スヘシ

十、名譽監督ヲ付シタル監獄ノ制度、右監督所在國ニ於ケル白色「テロル」及勞働運動ニ關シ入手シタル資料ハ地方新聞及壁張新聞ニ掲載シ且「モブル」俱樂部ニ於ケル研究資料トスヘシ

十一、名譽監督ヲ付シタル政治囚人カ放免セラレタル後ト雖モ右ノ者及其ノ家族ト通信ヲ交換スルコトヲ得

右免囚カ「ソヴィエト」聯邦ニ渡來シタル場合ニハ右ノ者ト聯絡ヲ保ツヘシ

第三節 「ソヴィエト」聯邦以外ニ於ケル革命闘士國際救援協會支部

第一款 概 說

「ソヴィエト」聯邦以外ノ諸國ニ於ケル「モブル」支部ノ事業亦本來右聯邦支部ト同一ナルヘキモ右諸國ハ聯邦國情ト著シキ差異アルカ爲實際行フ事業ニ付自ラ多少ノ差ヲ見ルニ至レリ即チ「モブル」中央委員會第二回總會決議ニヨレハ右諸國ニ於ケル主ナル事業ハ大體左ノ三事項ニ限ラレアリ

一、革命闘士及白色「テロル」犠牲者ニ對シ直接物質的及精神的援助ヲ與ヘテ革命闘士ヲ將來ノ革命闘争ノ爲保護スルコト

二、「モブル」ニ依リ抱擁サレ又ハ其ノ感化ヲ受ケ居ル民衆ニ對シ政治的教育ヲ施スコト
若干ノ資本主義國ニ於テハ革命的政黨ノ發達充分ナラス殊ニ黨員ハ多大ナラスシテ職業組合産業組合、其ノ他教育的民衆團體等ニ對スル革命的思想ノ影響少ナキニ鑑ミ右方法ハ特ニ重要ナル意義ヲ有ス即チ「モブル」ヲ革命的階級の意識ノ初等學校タラシメ又國際的連帯心ヲ發達及鞏固ナラシムル手段タラシムルコト

三、白色「テロル」トノ闘争、政治的囚人ノ釋放、監獄制度ノ緩和、政治的亡命者ノ避難等ノ「モットー」ヲ以テ民衆ヲ政治的闘争ニ干與セシムルコト

「ソヴィエト」聯邦以外ノ諸國ニ於ケル「モブル」支部ハ以上事業ノ遂行ヲ以テ目的トスト雖モ右

諸國ニ於テハ多クハ「モブル」ノ設立ヲ公認セサルカ爲「モブル」ノ折角ノ努力モ充分ナル成績ヲ擧クルコト能ハサルモ然モ猶「モブル」幹部ハ其ノ組織宜シキヲ得ルトキハ必スシモ絶望的ニアラストシ例ヘハ伊太利ノ如キハ「ファシズム」最モ旺盛ナル當時「モブル」ヲ組織シ會員トシテ約十三萬人ヲ加入セシメ克ク同國ノ獨裁政治ニ對スル脅威タラシムルヲ得タリトテ各國ニ於ケル「モブル」ノ普及ヲ激勵スルト共ニ「モブル」ノ設立ニ付公認ヲ受クルニ於テハ其ノ事業ヲ擴張シ殊ニ其ノ財的方面ノ活動ヲ盛ナラシムヲ得ヘキヲ以テ未タ公認ヲ得サル「モブル」支部ハ極力公認ヲ得ルコトニ努メサルヘガラサルコトヲ高潮シ居レリ尙右ト同時ニ「モブル」幹部ハ右公認ヲ取付クルコトハ容易ナラサルカ爲往々「モブル」會員カ其ノ國ノ政府側又ハ政黨等ト妥協ヲ遂ケテ「モブル」ノ本來ノ精神ニ悖リ其ノ目的ヲ誤ルカ如キコトアルヲ以テ各支部ニ於テ嚴重監督ノ要アルコトヲ説キ居レリ

會員加入ノ形式ニ付テハ以上諸國ニ於テハ團體加入ト單獨加入ノ二種アリ團體加入ナル形式ハ勞動運動又ハ政治運動等ヲ目的トスル團體方團體ノ名ヲ以テ加入シ團體員ハ間接ニ「モブル」ニ加入シ代表者ヲシテ「モブル」事業ニ干與セシメ又團體ノ基金等ヨリ會費ヲ納付セシムルモノナルカ右ハ各個人ノ單獨的政治運動發達セサルカ又ハ個人カ直接會員ト爲ルカ爲官憲若ハ雇主等ヨリ迫

害ヲ受クル國ニ於テ此ノ方法ニヨルヲ便トシ殊ニ「モブル」創立當時ハ此ノ方法ヲ以テ捷徑ト爲セリ然レトモ「モブル」ハ民衆ノ政治的啓發及各會員ノ覺醒ト其ノ自發的活動ヲ促スカ爲ニハ右團體加入ノ形式ハ適當ナラストシ第一回國際大會ニ於テ可成團體加入ヨリモ單獨加入ノ形式ニ依ルヘキヲ決議セリ右ニ基キ英國「チエロコスロヴァキア」等ニ於テハ最近單獨加入形式ヲ採用シ右形式ニ依ル加入會員漸ク増加シツツアリト雖モ最近「ソヴェト」聯邦「モブル」支部ノ發表シタルトコロニヨレハ同聯邦以外ニ於テ「モブル」會員總數約數百萬人中單獨加入會員ハ約三十萬人ニ過キスト云フ

以上ノ如ク「ソヴェト」聯邦以外ノ諸國ニ於テハ會員ノ直接加入ノ方法困難ナルニ加ヘテ「モブル」カ其ノ活動上最モ重要視スル細胞ニ付テモ其ノ設立上多大ノ不便ト困難ヲ感シツツアリト云フ蓋シ右ハ細胞ナルモノカ日常接觸ノ機會多キ比較的少數ノ人員ニ依リ組織セラルルモノナレハ其ノ設立ニハ行政區域ニ依ルヨリモ民衆ノ日常ノ勤先ナル官衙、軍隊、工場等ヲ結合ノ單位トスルヲ以テ便トスルニ拘ハラス多クノ資本主義國ニ於テハ官憲及雇主等ハ其ノ使用人勞動者等カ一團トナリテ政治的運動ヲ爲スヲ妨ケ又ハ制止スルヲ以テ凡テ普通ノ政治的團體ノ例ニ倣ヒ行政區域別ニ依リテ結合スルニ困ルモノナリト云フ

如上ノ事由ニ依リ「ソヴィエト」聯邦以外ニ於ケル「モブル」ハ一般ニ發達遲々トシテ其ノ活動亦餘リ振ハサルモ今迄各國「モブル」ノ行ヒタル事業ノ主ナルモノハ政治犯人ノ助命運動、政治犯處罰ニ對スル示威運動、政治犯人ノ入國禁止又ハ放逐ニ對スル反對運動ヲ國內的又ハ國際的ニ行ヒ又右目的ノ爲ニ一國ヨリ他國ニ代表者ヲ派遣シタル事等數多アリ而シテ右運動ノ爲ニハ單ニ「モブル」會員ノミナラス廣ク民衆ヲ利用シテ目的達成ニ便スルト共ニ民衆ノ政治的啓發ニ努メ居レリト云フ

第二款 數國ニ於ケル支部ノ概況

「ソヴィエト」聯邦ニ於ケル「モブル」支部ノ發表スルトコロニ依レハ同聯邦以外主ナル國ニ於ケル「モブル」支部ノ概況左ノ如シ

(一) 獨逸

獨逸ニ於テハ千九百二十一年本會組織セラレタルカ千九百二十六年一月一日現在ニ於テ左ノ會員及地方機關ヲ有ス

- 會 員 一六七、三五七八
- 團體的會員 一九〇（工場、職業組合等）

活動員

三、三二二人

地方的團體

一、五一〇

細胞

一、一四一（工場、職業組合等ニ在ルモノ）

千九百二十四年一月一日乃至千九百二十五年十二月一日迄ニ同國ニ於テ徒刑ニ處セラレタル政治犯人六千五百八十三人アリテ右援助ノ爲支出シタル金額九十九萬一千六百「マルク」ヲ算ス右ニ對シ本支部ノ資金ニテハ不足ナルヲ以テ外國ヨリ補助ヲ仰キタルモノ相當多額ニ上ルト云フ

(二) 佛 蘭 西

佛蘭西ニ於ケル千九百二十五年未現在ノ會員及地方機關數左ノ如シ

單獨加入會員

四〇、〇〇〇人

地方機關

一六六

細胞

三〇〇

同國支部カ千九百二十五年間ニ法律上ノ援助ヲ與ヘタル件數約五百件ニシテ右ノ爲支出シタル金額二千三百八十弗ニシテ其ノ他政治犯人五百二十人及其ノ家族三百六十人ニ對シ物質的援助ヲ與ヘ其ノ他佛國ヨリ政治上ノ理由ニヨリ追放セラレタル者ニ對シテモ旅費トシテ多額ノ支出

ヲ爲セリト云フ

六一二

(三) 伊 太 利

伊太利ニ於テハ己ニ千九百二十三年「モブル」設立セラレ多少活動ヲ爲シタルモ當時ハ其ノ事業及組織ニ統一ナク從テ政治犯人ニ對スル援助モ微弱ナリシカ爾來年々發達ヲ遂ケ會員數ハ千九百二十四年末六萬人ナリシモノ千九百二十五年一月末ニハ七萬八千人トナリ同九年九月ニハ會員及地方機關ハ左ノ數ニ増加セリト云フ

會 員

一五〇、〇〇〇人

地方委員會

七七

地方小委員會

三〇八

企業ニ於ケル細胞

四八五

右ノ如ク「モブル」ハ年々顯著ナル發達ヲ爲シタリト雖モ他面宜憲側ノ「モブル」ニ對スル壓迫甚シキカ爲所期ノ目的ヲ達スルコト甚タ困難ナリト云フ

(四) 英 吉 利

英吉利ニ於ケル「モブル」事業ハ千九百二十四年末共產黨員及職業組合左傾派ノ者數名ニ依リ

設立セラレ當初ハ團體加入ノ形式ニ依リ會員ヲ募集シタルカ最近ハ單獨加入ノ方法ヲモ認ムルコトトナリタリ最近ニ於テハ加入セル勞働者團體三百以上ヲ算シ單獨加入會員モ漸次増加シツツアリト云フ

同國ニ於ケル「モブル」支部ハ同盟罷業ニ關聯シテ收監セラレタル勞働者又ハ政治犯人ノ釋放ニ付屢々運動ヲ爲シタルモ常ニ官憲側ヨリ迫害ヲ被リ居ルト云フ

(五) 波 蘭

同國ニ於テハ會員七千ヲ算スルモ官憲側ノ壓迫大ナルト資金僅少ナルカ爲左程ノ活動ヲ爲シ能ハスト云フ

(六) 埃 太 利

同國ニ於テモ「モブル」ハ官憲ヨリ絶ヘス壓迫ヲ受ケ居ルモ千九百二十五年ニ於テ同國支部ノ支出シタル金額ハ左ノ通りナリト云フ

政治犯人救助費

九、四五〇弗

同上家族救助費

五、三七〇弗

法律上ノ救助費

五、五〇〇弗

六一三

免囚被服費

二、三六〇弗

宣傳費

一、一〇〇弗

(七) 支那

支那ニ於テハ政治運動犧牲者救助ノ目的ヲ以テ千九百二十五年九月二十日上海ニ一團體設立セラレ爾來大ニ宣傳ト救助運動ヲ行ヒタル結果會員年々増加シ同年十一月末ニハ同地ノミニテ團體加入ノ形式ニ依ル會員ハ三十萬人、單獨加入會員三千人トナリ翌年二月ニハ前者四十萬人、後者五千人ヲ算シタリ

他面右團體ノ運動ハ各地ニ傳播シ千九百二十五年十一月來北京ニ於テ運動ヲ開始シ十一月十一日同地ニ於テ第一回設立總會ヲ行ヒタルニ護民團、職業組合、學生團、婦人團體、教授團、新聞記者團等各種團體代表者五十名以上會合シ翌年二月ニハ團體加入ノ形式ニ依ル會員六千人單獨會員五百名ヲ算シ又右ト前後シテ右運動ハ内外蒙古第一國民軍(千九百二十五年末團體加入ノ會員一萬三千人、單獨會員百人)、天津(團體加入ノ會員十一萬三千人、單獨會員三千人)、湖南(團體加入會員一萬人、單獨會員百人)、江西、湖北、福建、河南廣東(團體加入會員二萬人、單獨會員三百人)其ノ他南支諸省ニ波及シ最近ニ於テハ團體加入會員八十萬人以上、單獨加入

會員一萬人以上ヲ算スル見込ナルカ官憲側ヨリ右團體ニ對シ屢々迫害ヲ加フルカ爲其ノ消長常ナラスト云フ

第五章 勞働者救援「インターナショナル」

(略稱「メヂラブボム」)

Международный Комитет Рабочей Помощи (Международный Союз Ouvrier International (S.O.I.) Internationale Arbeiter-Hilfe.

第一節 勞働者救援「インターナショナル」ノ成立

勞働者救援「インターナショナル」ハ其ノ本部ヲ獨逸ニ置クヲ以テ之ヲ共產「インターナショナル」ノ傍系機關ト認ムルハ一見奇異ノ觀ナキニ非ザルモ、一面其ノ議長「クララ、ツエトキン」ガ世界的名ナル共產主義者ニシテ且共產「インターナショナル」ノ名譽顧問格タルコトト、又他ノ一面ニ於テ共產「インターナショナル」ハ革命闘士救援「インターナショナル」並勞働者救援「インターナショナル」ヲ通シテ對勞働者宣傳ヲ遂行スルニ鑑ミ、勞働者救援「インターナショナル」

ヲ共產「インターナショナル」ノ補助機關トシテ茲ニ之ヲ説明スルハ強チ理由ナキニ非ザル可シ
 労働者救援「インターナショナル」ハ實ニ一九二一年創立サレタルモノニシテ、其ノ他ノ共產「イ
 ンターナショナル」補助機關トハ多少其ノ創立ノ事情ヲ異ニス。即チ一九二一年「ソヴィエト」聯
 邦ノ労働者ハ一面諸外國トノ戰爭並國內戰爭ノ結果ニヨリ、又他面ニハ「ヴォルガ」沿岸地方ノ
 大饑饉ニヨリ困窮ノ極ニ達セリ。此ノ慘憺タル有様ヲ見タル外國ノ労働者ハ救援團體ヲ組織シテ
 露國労働者援助ノ舉ニ出テタルモ、更ニ此等ノ諸團體ヲ糾合シテ其ノ事業ヲ統一スル時ハ救援事
 業モ一段ト有效ナル可キヲ思ヒ、一九二一年八月十二日伯林ニ於テ「クララ、ツエトキン」ノ斡旋
 ノ下ニ諸種ノ團體ヲ集メテ海外國際労働者「ソヴィエト」露西亞饑饉民救援會ナルモノヲ組織セ
 リ。而シテ該會ニ参加セルモノハ職業組合ノ外、各種ノ文化事業會、協同組合、體育會ヲ始メト
 シ、一般智識階級、俳優、藝術家等ナリキ

一九二一年八月二十一日該會ノ送レル第一回糧食船ハ「ストックホルム」ヲ出帆シテ露國ニ到着
 シ短時日ノ間ニ能ク二萬五千ノ饑饉民ヲ救ヒ且饑饉地方ノ經濟的復興ニ貢獻スル所大ナリキ
 露國饑饉民ノ救援終了後、該會ノ努力極メテ有效ナリシニヨリ之ヲ解散スルコトナク其ノ目的ヲ
 改メテ世界ニ於ケル一般労働者ノ救援トナスト共ニ其ノ組織ヲモ變更シテ新ニ之ヲ労働者救援

「インターナショナル」トナスニ至レリ

一九二二年七月九日ヨリ十一日ニ至リ労働者救援「インターナショナル」ノ第一回國際會議伯林
 ニ於テ開催サレ、日本ヲ始メトシ英國、埃太利、「アルゼンチン」、勃牙利、伊太利、丁抹、加奈陀、
 和蘭、諾威、露西亞、佛蘭西、米國、「チエッコ、スロヴァキア」、瑞典、瑞西等ノ諸代表之ニ参加セリ
 本會議以後労働者救援「インターナショナル」ハ廣ク世界各國ニ互リテ救濟事業ヲ行フニ至レリ
 一九二三年一月第二回國際會議同シク伯林ニ於テ開催サレ、其ノ席上労働者子弟ノ救濟事業ニ特
 ニ注意スルコト、並労働者ノ消費方面ノミナラズ其ノ生産方面ニ對シテモ亦救濟事業ヲナス可キ
 旨決議スル所アリタリ

一九二三年九月ノ日本大震災ニ當リテハ、労働者救援「インターナショナル」ハ早速罹災労働者
 ニ對スル救援ニ着手シ、上海ニ特使ヲ派遣シテ歐洲方面ニ於テ募集セル寄附金ヲ日本労働者ノ代
 表者ニ手交セリ。右ニ對シ日本職業同盟第十二回大會ハ深厚ナル謝意ヲ表スル所アリタリ
 一九二三年十月伯林ニ於テ開催サレタル労働者救援「インターナショナル」ノ大會ハ獨逸労働者
 殊ニ「ルール」地方ノ労働者ニ對シ特ニ救援ス可キ旨決議セリ

一九二四年十月労働者救援「インターナショナル」大會伯林ニ於テ開催サレタルガ、此時迄ニ右

「インターナショナル」ガ支部ヲ設置セル國ハ實ニ二十四ヶ國ノ多數ニ上レリ。ソヴイェト「聯邦」ニ該支部ヲ設置セルモ亦一九二四年ニシテ之ヲ界トシテ勞働者救援「インターナショナル」ノ事業ハ急激ニ發展シ、從來ノ如ク單ニ勞働者ノ困窮ニ對シテ救済ヲナスノミナラズ進デ勞働階級ノ對資本家爭鬭ニ關シテモ積極的後援ヲナスト共ニ更ニ進テ宣傳運動ニモ從事スルニ至レリ。即チ大規模ノ罷業アル場合ニハ直チニ使者ヲ派遣シテ勞働者並其ノ家族ニ對シ物質的援助ヲ與ヘ、又宣傳事業トシテハ國際無産階級ノ團結ヲ促進スルト共ニ、又各國ノ勞働者ニ對シ「ソヴイェト」聯邦ノ社會主義的諸事業ヲ知ラシメツツアリ。此目的ノ爲ニ多數ノ書籍並小冊子ヲ印刷シテ之ヲ各方面ニ配布シ又「ソヴイェト」聯邦ノ映畫ヲ諸外國ニ送附シ映畫ヲ以テ直接露國ノ内情ヲ宣傳シツツアリ

第二節 勞働者救援「インターナショナル」ノ組織

今勞働者救援「インターナショナル」ノ組織ヲ見ルニ、各國ニ支部アリ。此等支部ノ中央機關トシテ勞働者救援「インターナショナル」大會アリ。右大會ハ更ニ委員ヲ選出シテ之ヲ以テ勞働者救援「インターナショナル」中央委員會ヲ組織ス。右中央委員會ハ伯林ニ存在シ常務ヲ執ルモノトス

一九二六年二月十日ノ調査ニヨレバ勞働者救援「インターナショナル」ノ加入者ハ其ノ數一千五百萬人ニ達セリ。今之ヲ各國支部會員別ニ見レバ左ノ如シ

「ソヴイェト」聯邦	八、三〇〇、〇〇〇
英國	二、三〇〇、〇〇〇
獨逸	二、〇〇〇、〇〇〇
濠洲	五〇〇、〇〇〇
「チッコ、スロヴァキア」	三五〇、〇〇〇
支那	三〇〇、〇〇〇
日本	二二〇、〇〇〇
佛蘭西	一〇四、五〇〇
白耳義	一九、五〇〇
和蘭	一三、六〇〇
愛蘭	一一、〇〇〇
「スカンデナヴィア」諸國	一〇、〇〇〇

埃 太 利
其 他

合 計

五、〇〇〇
三〇、〇〇〇
一五、〇〇〇、〇〇〇

第三節

勞働者救援「インターナショナル」ニ關スル共產「インター
ナショナル」ノ決議

ナショナル」ノ決議

一九二四年共產「インターナショナル」第五回大會ハ勞働者救援「インターナショナル」ニ關シ一ノ決議文ヲ採擇セルガ右ハ共產「インターナショナル」ノ勞働者救援「インターナショナル」ニ對スル見解ヲ知ルニ便ナルヲ以テ左ニ之ヲ譯出ス可シ

一、勞働者救援「インターナショナル」ノ目的

「プロレタリア」大衆ノ困苦ハ縱令革命ノ直接ノ原因タラサル場合ニ於テモ、資本家階級ハ之ヲ利用シテ勞働者ノ政治上及經濟上ノ境遇ヲ劣惡ナラシムルモノナリ
其ノ際勞働者大衆ノ困苦ガ天然ノ災害ニ原因スルカ（一九二三年日本ノ震災）或ハ經濟的危機又ハ動搖ノ結果タルカ（一九二一年ノ埃國及一九二三年ノ獨逸）資本階級ハ素ヨリ之ヲ問フ所ニ非ズ

勞働大衆カ其ノ困苦ヲ切り抜クル爲メニハ單ニ勞働組合又ハ各國勞働者階級ノ資力ノミヲ以テシテハ尙不十分ナリ。之ヲ有效ニ救援スル爲ニハ總テノ國ノ勞働者ノ經濟力又ハ財政力ヲ動員シテ始メテ可能ナリ

而シテ右動員ヲ準備シ且遂行スル爲各國ノ勞働者並總テノ政黨及勞働組合ヲ包含スル救援事業ヲ組織スルコトハ勞働者救援「インターナショナル」ノ任務ナリ

二、勞働者救援「インターナショナル」ノ性質

勞働者救援「インターナショナル」ハ何等政治的色彩ナク且何等政黨ト關係ナキ團體ニシテ（イ）種々ノ政黨及勞働組合ニ所屬スル勞働者及勞働團體之ニ加入シ且（ロ）其ノ救援ヲ必要トスル勞働大衆ニ對シテハ其ノ政治的關係又ハ勞働組合の所屬關係ヲ顧慮スルコト無ク援助ヲ與フベキモノナリ。（一九二一年露國勞働者農民ノ饑饉ニ對スル救援、一九二三年震災後日本勞働者及農民ニ對スル救援、一九二三年及一九二四年獨逸勞働者ニ對スル援助）

三、獨逸統一社會民主黨ノ企圖ノ不可

共產「インターナショナル」ノ第五回大會ハ勞働者救援「インターナショナル」ハ真正ノ意味ニ

於テ「プロレタリア」ノ國際的連帶ノ觀念ヲ表現シ居リ且困苦ト罷業ノ状態ニ在ル獨逸社會民主黨ノ勞働者ヲ救助シツアルニ拘ラズ、獨逸統一社會民主黨側ニ於テハ之ニ對シテ疑念ヲ懷キ破壊セントスルノ企圖ヲ有スルコトヲ全世界ノ勞働者ノ前ニ敢テ披瀝セントス

四、勞働者救援「インターナショナル」ノ事業

上記獨逸統一社會民主黨ノ破壊的企圖アルニ拘ラズ、共產「インターナショナル」ハ一九二一年ノ夏勞働者救援「インターナショナル」ノ形ニ於テ總テノ勞働團體ヲ包含スル大規模ノ救助會ヲ創設センコトヲ發起シタルガ漸ク成功シ、爾來勞働者、勞働團體ニシテ勞働者救援「インターナショナル」ニ加入スルモノ益々其ノ數ヲ増シツアル状態ナリ

共產「インターナショナル」ノ第五回大會ハ(イ)猶勞働者救援「インターナショナル」ニ加入シ居ラザル全世界ノ勞働者及勞働團體ニ對シテハ協同一致同救援「インターナショナル」ニ加入センコトヲ檄シ(ロ)既ニ加入セル各政黨及團體ニ對シテハ其ノ總テノ活動ニ於テ勞働者救援「インターナショナル」ヲ有力ニ支持スベキ義務ヲ負ハシム

第六章 赤色「スポーツ、インターナショナル」(略稱「スポルテンテルン」)

ルテンテルン

Красный Спортивный Интернационал (Спортинтерн)

Internationale Sportive Rouge

Rote Sport-Internationale.

第一節 赤色「スポーツ、インターナショナル」ノ成立

赤色「スポーツ、インターナショナル」ハ「スポーツ」ナル特種ノ形式ヲ利用シテ「スポーツ」愛好者間ニ共產主義ヲ宣傳スルト共ニ他面之ニ依リテ既ニ共產主義ヲ奉スル者ヲ統一シ以テ除ニ階級争闘並革命運動ノ達成ヲ期セントスルモノナリ

赤色「スポーツ、インターナショナル」ノ成立ハ遠ク一九二三年ニ溯レトモ其ノ實際上ニ眼醒シキ活動ヲ開始セルハ僅ニ兩三年前ナリ。其ノ會員ハ年ト共ニ増加シ一九二四年度ニ於テハ其ノ總數三百三十一萬四千人ニ達セリト稱セラル。(Entente Internationale contre la III Internationale, Vade-Mecum antibolchevique, 1928, P. 37)

赤色「スポーツ、インターナショナル」ハ又世界各地ニ支部ヲ有シ其ノ支部員モ佛國ニ七千人諾威

國ニ一萬五千人、「チェッコ、スロヴァキア」國ニ十萬人ヲ有シ、其ノ他「アルゼンチン」國及「ウルグアイ」等南米僻遠ノ地ニモ支部ヲ設置スニ至レリト稱セラル（La Vague Rouge, janvier 1927. P. 26.）

赤色「スポーツ、インターナショナル」第二回大會ニ於テ左記事項ニ關シ決議スル處アリタリ

- (1) 世界ニ於ケル「スポーツ」運動ノ統一
- (2) 労働者ノ體育ト階級闘争ニ於ケル其ノ任務
- (3) 労働者「スポーツ」協會ニ對スル宣傳
- (4) 「ブルジョア」諸團體ニ對シテ採ル可キ態度
- (5) 「ファシズム」ニ對シテ採ル可キ態度
- (6) 「ブルジョア」諸國ノ軍國主義ニ對シテ採ル可キ態度
- (7) 赤色「スポーツ、インターナショナル」ト其ノ他ノ労働者ノ諸團體トノ關係

第二節 赤色「スポーツ、インターナショナル」ノ組織

赤色「スポーツ、インターナショナル」ハ共產「インターナショナル」ノ如ク執行委員會ヲ有シ其ノ中ニ幹部會ヲ有シ又常時活動機關トシテ書記部ヲ選舉シ、書記部ニ煽動宣傳部、組織部及出版

部ヲ有ス。執行委員會議長ハ「ボドウィスキー」ニシテ委員内外ノ主義者ヨリ成ル。「ボドウィスキー」ハ「ソヴェエト」聯邦中央執行委員會ノ委員ニシテ露國共產黨監督委員會員ヲ兼ヌ
赤色「スポーツ、インターナショナル」ハ機關雜誌「無産階級「スポーツ」」ヲ發行シ居レリ

第三節 赤色「スポーツ、インターナショナル」ノ活動方針

赤色「スポーツ、インターナショナル」大會ハ其ノ活動方針トシテ左ノ事項ヲ擧ケタリ

- (1) 労働者ノ健康ヲ増進スル爲時々「ピクニック」修學旅行及競技會ヲ開クコト
- (2) 「ブルジョア」又ハ改良主義的労働團體ノ組織スル「スポーツ」機關トノ競技ヲ獎勵スルコト

(3) 工場主ノ組織スル工場「スポーツ」ニ對抗シテ労働者ヲシテ自發的ニ「スポーツ」組合ヲ編成セシメ、共產黨又ハ職業組合ニ於テ之カ誘導ノ任ニ當ルコト。但シ最初ハ政府又ハ工場主ノ組織セル「スポーツ」機關ヲ労働者「スポーツ」機關ニ轉移セシムルヤウ努力スルコト

(4) 階級闘争ニ於テ特ニ必要ナル射撃術、柔術等ノ「スポーツ」ヲ獎勵スルコト
尙赤色「スポーツ、インターナショナル」ハ各國ヨリ入露スル觀光團ニ對シテ宣傳ヲナシツツアリ此ノ目的ヲ以テ莫斯科ヲ始メ「レーニングラード」、「オデッサ」、「バツーム」、浦潮等ノ大都市、商港

地ニ赤色「スポーツ」、インターナショナル」特別機關及「ヤチェイカ」ヲ設置シ各種ノ外國觀光團及「スポーツマン」ヲ迎ヘテ國際的會合ヲ催シ以テ露西亞共產黨員ト外國人特ニ外國勞働者トヲ接近セシメツツアリ

浦潮ニ於ケル赤色「スポーツ」、インターナショナル」ノ機關ハ入港スル外國汽船就中日本船舶員ヲ「スポーツ」ノ形式ニ依テ俱樂部ニ招待シ宣傳シツツアリ。又「クロンスタット」軍港ニ於ケル赤色「スポーツ」、インターナショナル」ノ機關ハ瑞典船員間ニ、又「オデッサ」ニ於テハ英、佛船員間ニ各々宣傳シツツアリ

又赤色「スポーツ」、インターナショナル」ハ此種ノ宣傳手段ヲ有效ト認メ宣傳ニ經驗ヲ有スル者及通譯ヲ各港灣ニ於ケル赤色「スポーツ」、インターナショナル」ノ機關ニ配屬シ彼等ヲシテ外國船ノ入港毎ニ船舶ヲ訪問セシメ乗組員特ニ下級船員ニ向テ種々斡旋セシメ以テ徐ロニ船員ノ間ニ「ソヴェト」聯邦並共產主義ニ對スル憧憬ノ念ヲ起サシムルニ努メツツアリ

又露國赤色「スポーツ」、インターナショナル」ハ時々外國ニ選手ヲ送り「スポーツ」ヲ通シテ外國人間ニ間接ニ宣傳ヲナサシメツツアリ。之ニ關シテ注意ス可キハ此等ノ海外派遣選手ハ義務的ニ赤色「スポーツ」、インターナショナル」ニ隸屬スルヲ要スルコトナリ

今年始赤色「スポーツ」、インターナショナル」執行委員會ハ第四回總會ヲ開催セルカ、其ノ際世界ニ於ケル「スポーツ」ノ統一ノ必要並其ノ統一方針ニ關シ一ノ決議ヲ採決セルカ右決議ノ終末ニ左ノ辭句アリ

「第四回總會ハ世界ノ「スポーツ」ヲ統一スルニ賛成ナル人士ニ向テ下ノ如ク叫ハントス。『ブルジョア』ノ「スポーツ」運動及「ブルジョア」自身ニ對抗スル爲最善ノ努力ヲ拂ヒテ世界ニ於ケル勞働者ノ「スポーツ」愛好者ノ統一戦線ヲ布クラ要ス』ト

「ソヴェト」聯邦ト提携セヨ而シテ「ブルジョア」ノ「スポーツ」「ブルジョア」自身並帝國主義ヲ敵トシテ戦ヒツツアル世界勞働者ノ「スポーツマン」ノ共同戦争ニ參加ス可ク前進セヨ」

(La Vague Rouge, mars 1928. P. 31.)

第七章 赤色婦人「インターナショナル」

Красный Женский Интернационал

Internationale Rouge des Femmes (I.R.F.)

Die Fraueninternationale.

第一節 赤色婦人「インターナショナル」ノ成立

共産「インターナショナル」幹部ハ世界革命ヲ遂行スル爲ニハ是非トモ婦人ヲ其ノ味方トスルノ絶對的ニ必要ナルヲ認メ爾來婦人ニ向テ盛ニ共産主義ヲ宣傳シツツアリ。吾人ノ今論セントスル赤色婦人「インターナショナル」ハ正ニ此ノ目的ヲ以テ設立サレタルモノナリ

今共産運動ノ中心人物カ婦人ニ關シテ如何ナル見解ヲ有スルヤヲ見ルニ左ノ如シ

「婦人ヨ、革命運動ノ前衛タレ」(Ouvrière, novembre 1924.)

「婦人ノ支援ナクンハ如何ナル革命運動ト雖モ失敗ニ終ルヤ必セリ」(Humanité, 16 novembre 1924.)

「家庭及家族ナル觀念ノ存在スル限り革命ハ到底不可能ナリ」(Congrès du Komintern du 16 novembre 1924.)

「革命ノ準備行爲ハ婦人大衆ノ参加ナクンハ凡テ成功ノ見込ナシ」(レーニン)

赤色婦人「インターナショナル」ハ以上ノ見地ニ基キテ盛ニ婦人間ニ宣傳ヲナシツツアリ。赤色婦人「インターナショナル」ノ組織ニ就テハ第二節ニ於テ述フル所アル可シ

一九二四年共産「インターナショナル」第五回大會ニ於テ婦人労働者ニ對スル共産黨ノ活動ニ關シ「テーゼ」ヲ採決スル所アリタリ。右「テーゼ」ハ共産「インターナショナル」ノ婦人ニ

對スル見解並方策ヲ示スニ適格ナル資料ナルヲ以テ左ニ之ヲ譯出ス可シ

婦人労働者ニ對スル共産黨ノ活動ニ關スル「テーゼ」

第一、緒言

(一) 「プロレタリア」階級戦ニ於ケル婦人大衆ノ重要性

「プロレタリア」ノ共同戦線ヲ作り同戦線ヲ益々擴張スル事ハ只婦人労働者(「プロレタリア」婦人、農業婦人労働者及小「ブルジョア」婦人)ガ自發的ニ決意シ獻身的ニ「プロレタリア」ノ總テノ戦争ニ参加スル場合ニ於テノミ可能ナリ

反革命派ト雖モ戦争遂行上婦人大衆ガ重要ナル意義ヲ有スルコトヲ悟リ、社會民主黨及其他ノ改良派「ファシスト」及其他ノ「ブルジョア」的運動ハ夫々自己ノ目的ノ爲メ婦人大衆ヲ政治上ニ利用スルニ努メツツアリ

此ノ事實ニ直面セル共産黨ハ廣汎ナル婦人大衆ヲ反革命派ノ勢力内ヨリ引キ離シ共産主義ノ爲メノ戦闘ニ引キ入ルル事ヲ以テ緊急ノ任務トスベシ

(二) 東方諸國ニ於ケル婦人運動

婦人大衆ヲ民族的階級戦ニ引キ入ルル事ハ近東及東方諸國ニ於テハ目下ノ世界ノ狀勢ニ鑑ミ

特別ノ意義ヲ有スルモノト云ハザルベカラズ

東方ニ於テハ奴隸的地位ニ置カレ且搾取セラレ來リタル民族ガ今ヤ其ノ搾取者ニ對シテ奮起シ民族的獨立ノ爲メニ戰鬥スルト同時ニ數千年以來奴隸的地位ニ苦メル近東及極東ノ婦人ハ其ノ人格ノ承認及平等ヲ要求シテ奮起セリ

斯クノ如ク社會的生活ノ條件、傳統、慣習及宗教的偏見ニ依リ拘束セラレタル東方諸國ノ婦人ガ帝國主義ニ對スル戰鬥ニ參加セシハ世界ノ革命ニ對シテ新生氣ヲ加フルモノナリ

(三) 「ソヴィエト」聯邦ニ於ケル婦人大衆ノ地位

「プロレタリア」ガ政權ヲ獲得シ「ソヴィエト」制度ノ形ニ於テ之ヲ確立シタル後ニ於テハ「プロレタリア」ハ社會組織、經濟的基礎及思想ノ全般ニ互リ共產主義方針ニ基キテ之ヲ改造建設スルノ重大ナル任務ヲ遂行セザルベカラズ

而シテ社會生活ノ何レノ方面ニ於テモ右任務ノ遂行ハ廣汎ナル婦人大衆ノ理解アリ且ツ獻身的ナル協助ニ俟タザルベカラズ。「ソヴィエト」平和國ハ生産婦人ノ大衆ヲ「プロレタリア」ノ建設事業ニ參加セシメ且ツ右ニ對スル能力及技倆ヲ増進スベキ強制的使命ヲ負フ

(四) 婦人大衆ノ革命的素質

歴史上ノ經驗ニ徴スルニ婦人大衆ハ一般ニハ尙文化ニ遅ルルモ一度革命的思想ニ感激スル時ハ勇敢ニ戰爭スル素質ヲ有ス

露國ニ於ケル革命並勃牙利及獨逸ニ於ケル戰鬥ハ之ヲ確證セリ。第五回大會ハ婦人労働者間ニ於ケル共產黨ノ活動ニ關スル決議ノ意義ガ廣汎ナル婦人大衆ヲ覺醒シ組織シ且教育スルコトニ依リ「プロレタリア」ノ世界革命ヲ促進スルニ在ルコトヲ特ニ高調ス

婦人大衆ニ對スル共產黨ノ活動ハ共產黨ノ從タル任務ニアラズシテ革命的「プロレタリア」ノ戰鬥ヲ組織シ且其ノ勝利ヲ保證スベキ主タル任務ノ重要ニシテ且ツ決定的ナル部分ナルコトヲ特ニ注意ス。尙第五回大會ハ「労働婦人大衆ガ戰鬥ニ參加スル場合ニ於テノミ「プロレタリア」ノ革命ハ勝利ヲ博シ得ベシ」ト云ヘル「レーニン」ノ語ニ付キ總テノ共產黨ノ記憶ヲ新ニ喚起セントス

第二、婦人大衆ノ間ニ於ケル共產黨活動ノ任務

婦人大衆ニ關スル共產黨ノ活動ハ(1)資本主義諸國(2)殖民地半殖民地及(3)「ソヴィエト」露國ニ於ケル活動ニ分タル

(一) 資本主義諸國ニ於ケル活動

(イ) 職業細胞ニ於ケル生産婦人ノ結合

職業細胞ヲ基礎トシテ共產黨ノ全組織ヲ改造スルノ必要ニ直面シ共產「インターナショナル」ノ第五回大會ハ工業中心地ノ婦人間ニ於ケル共產黨ノ活動ハ右職業細胞内ニ於ケル婦人労働者ノ結合ニ其ノ重點ヲ置クベキ事ヲ力説ス

共產黨ノ活動ハ恰モ「ブルジョア」社會ノ基礎ノ上ニ且「デモクラシー」ニ依リ其ノ苦境ヲ脱シ得ベキ血路ヲ發見シ得ベシトスル婦人労働大衆ノ妄想ヲ打破スルコトヲ目標トスベシ
階級意識ニ導カントスル基礎的政治教育ト相並ンデ婦人労働者ノ實地教育ヲ施シ且之ヲ團結シ以テ「プロレタリア」ノ總テノ經濟的政治的戦争ニ參加セシムベシ

(ロ) 労働組合内ニ於ケル婦人大衆ノ政治的養成

「プロレタリア」婦人ヲ政治的ニ教育シ「プロレタリア」階級ノ經濟的又ハ政治的戦線ニ編入セントスルヲ目的トスル活動ハ又労働組合ニ於テモ爲サルベク特ニ工業及農業婦人間ニ於テモ同様之ヲ爲スベシ

家内被備者、家内労働婦人ヲ労働組合ニ組織シ、又政治上動員スル事ハ決シテ之ヲ等閑ニ附

スベカラズ

(ハ) 農業婦人労働者

農業婦人労働者ノ中ニ於ケル共產黨ノ活動ハ就中農業國ニ於テ即時且ツ猛烈ニ着手スベシ。

農業婦人労働者間ニ於ケル宣傳及其ノ組織ニ付テハ農業婦人労働者、無資産農民、戦争寡婦家内被備者、農民ノ妻等ヲ包含スベシ

「プロレタリア」及小「ブルジョア」ノ家婦間ニ共產主義ノ目的ヲ宣傳スル爲産業組合ト相提携セザルベカラズ

(ニ) 事務所ニ於ケル婦人勤勞者ニ對スル方針

共產黨ハ營業組織、事務所及公ノ營造物ニ於ケル婦人被備者、女教師、郵便電信電話ノ婦人雇員等ノ「ブルジョア」階級ノ味方トナルヲ阻止シ其ノ被搾取者タル地位ヲ自覺セシムル事ニ努ムベシ

(ホ) 婦人労働者ノ革命的戦闘參加

革命的労働者ノ戦闘ニ積極的ニ參加セシムル目的ヲ以テ労働婦人大衆ヲ味方トシ之ヲ組織スル事ハ戦後ニ於ケル階級戦ノ猛烈ニシテ且不斷ニ繼續セル事實ニ鑑ミ最モ大ナル意義ヲ有ス

勞働婦人ヲ啓蒙開發シ並動員スル爲ニハ婦人勞働者ヲ其ノ夫ガ勞働スル營業團體ノ人員ト堅ク結合セシメザルベカラズ

(へ) 借家人同盟其他ノ團體内ニ於ケル共產主義者ノ活動

以上ノ任務ヲ遂行スル爲メ「プロレタリア」及小「ブルジョア」婦人ノ團體タル借家人組合及其ノ他類似ノ團體内ニ於ケル共產主義者ノ活動ヲ強メザルベカラズ

(ト) 議會政治ノ利用

婦人勞働大衆ノ理智、勢力ノ増大及積極的活動ニ依リ凡テノ方面ニ互リ議會政治ヲ革命ノ目的ノ爲利用スベシ

議會ニ對スル要求、議會ノ監督及議會ニ對スル示威運動等ニ依リ共產黨外團體ノ議會ニ進出スルヲ援助シ、且總テノ議會並總テノ「ブルジョア」的及改良主義的政黨ノ反革命的性質ヲ暴露スベシ

其ノ際特ニ地方議會ニ於ケル活動ヲ遂行スルニ付テハ特別ノ注意ヲ拂フベシ。此ノ點ニ於テハ「オボチユニスト」ノ脱線ノ危險極メテ大ニシテ且此ノ問題ハ婦人大衆ノ利益ニ直接影響スル問題ナリ

(チ) 婦人大衆ノ政治的訓練

合法團體タル時期ニ達セル共產黨ハ(イ)婦人大衆ヲシテ其ノ不合法團體ノ時期ニ於テ最モ熱烈ナル共助ヲ爲シ得ル様準備シ養成スル事(ロ)婦人勞働者ヲシテ武装セル勞働者ノ戰鬥ニ參加セシムルト同時ニ各種ノ武装團體ヲ破壊シ及「ファシズム」ヲ政治上説得スル爲ノ活動ニ充分參加セシムル事ハ目下ノ狀勢ニ鑑ミ避クベカラザルモノナリ

(ニ) 東方諸國ニ於ケル活動

近東及極東ニ於ケル勞働者ハ他ノ諸國ト異リ先ツ第一ニ傳統、慣習及宗教的教理ト闘ハザルベカラザル特別ノ狀態ニアリ。從テ勞働婦人大衆ノ間ニ共產主義ノ教義ヲ普及シ且革命ノ爲ニ婦人闘士ヲ養成スルガ爲ニハ特別ノ方法ト組織ヲ必要トス

(三) 「ソヴェエト」露國ニ於ケル活動

(イ)「プロレタリア」ノ獲得セル政權ヲ鞏固ニシ(ロ)社會主義的經濟組織ヲ建設シ(ハ)國家生活及社會生活ノ全般ニ互リ且其ノ凡テノ機關ニ於テ婦人ノ理解アル協力ヲ得且(ニ)子孫ノ社會的教育ノ爲ニ生産婦人ヲ動員スルコトハ「ソヴェエト」露國ニ於テ最モ意義アリ

第三、婦人大衆ノ組織

共產「インターナショナル」第五回大會ハ各共產黨ニ對シ次ノ規定ヲ懈怠ナク遂行スベキ義務ヲ負ハシム

(1) 婦人大衆ノ動員及組織

職業細胞ヲ基礎トシテ共產黨組織ヲ改造スルニ際シテハ直チニ各職業細胞ニ於テ婦人労働者ヲ動員シ且組織スルノ任務ヲ同志又ハ婦人同志ニ責任ヲ以テ一任スベシ、労働組合ニ付キ又然リ

共產黨ガ婦人大衆ノ内ニ於テ活動スベキ總テノ團體（労働黨、産業組合、借家人團體、兩親委員會、戰時遺族協會等）ニ於テハ一名ノ同志又ハ婦人カ責任ヲ以テ右事務ヲ擔任ス

(2) 婦人大衆ノ新聞紙及宣傳機關

各共產黨ノ執行機關ハ其ノ機關紙ニ於テ「婦人記事欄」又ハ「婦人附録」ヲ設ケ又婦人大衆ノ利益問題ヲ討議スル爲一定ノ余白ヲ利用セシムベシ

出來得ベクンバ婦人大衆間ニ於ケル共產黨活動ノ爲特別ノ機關紙ヲ發行セザルベカラズ黨員ノ理論的及實際的訓練ヲ目的トスル共產黨ノ總テノ機關紙ニ於テハ婦人大衆ノ革命的教育ニ就キ必要ナル考量ヲ爲サザルベカラズ黨ノ執行機關ハ廣汎ナル婦人大衆ノ發達、統一及

教育ノ目的ニ供シ得ベキ煽動宣傳及文獻、小冊子、宣傳「ピラ」等ノ爲盡力セザルベカラズ

(3) 婦人労働大衆間ニ於ケル共產黨活動ノ指揮者、郷區ノ執行員ヨリ中央委員會ノ執行機關ニ至ル迄共產黨ノ總テノ執行機關ニ於テ婦人労働大衆間ニ於ケル共產黨ノ活動ヲ指揮遂行スルノ任務ヲ一黨員ニ一任スベシ

(4) 特別委員會婦人書記局

右黨務ヲ擔任スル黨員ノ任務遂行ヲ支援スル爲メ特別ノ委員會ヲ設クベシ
共產黨ノ各地方執行機關ニ於テ婦人書記局ヲ設置シ右書記局ニ於テハ一名ノ常任事務ニ従事スルヲ要ス

(5) 東方諸國

東方諸國ニ對シテハ特別ノ一部ヲ設クベク、該部ハ政治上及ビ組織上東方又ハ植民地諸國ノ爲メニ設置セラレタル書記局ノ主要部ニシテ、且其ノ部長ハ婦人「インターナショナル」ノ書記局ニ所屬ス

細胞組織ヲ基礎トシテ黨ノ組織ヲ改造シ、労働組合ノ活動ヲ黨活動ノ範圍ニ包含セシメ、且資本主義ノ下ニ其ノ奴隷トシテ忍従スル幾百萬ノ婦人労働者、職業婦人被傭者ヲシテ資本主

義經濟及「ブルジョア」ノ階級國家ニ對スル闘士タラシムル事ヲ以テ共產黨ノ任務トナス現
今ニ於テ上記ノ規定ヲ遂行スルコトハ最モ大ナル意義ヲ有スルモノト云ハザルベカラズ
共產「インターナショナル」ハ各婦人大衆ノ自發的且積極的參加ガ「プロレタリア」獨裁ノ
確立及共產主義的社會建設ノ前提要件タル事ヲ認メ、各支部ニ對シ此ノ點ニ關シ完全ニ其ノ
義務ヲ遂行センコトヲ要求ス

第二節 赤色婦人「インターナショナル」ノ組織

赤色婦人「インターナショナル」ハ其中央機關トシテ莫斯科ニ常設國際共產婦人運動書記局ヲ有
ス。國際婦人書記局ハ共產「インターナショナル」執行委員會ノ選任ニ係ル。(共產「インターナ
ショナル」規約第二十二條)又各國ニハ支局アリテ當該國ノ共產黨中央委員會ニ附屬ス。赤色婦人
「インターナショナル」ハ時々國際大會ヲ開催シテ各國ノ代表者ヲシテ當該國ニ於ケル婦人ノ共產
運動ヲ報告セシメ、又將來婦人運動ニ對シテ其ノ採ル可キ方策ヲ討議ス

赤色婦人「インターナショナル」ノ諸機關中最モ活動シツツアルモノハ國際共產婦人運動書記局
並「ソヴェト」聯邦共產黨ノ中央婦人部ナリトス而シテ婦人共產主義者中獨逸ノ「クララ、ツエ
トキン」、佛國ノ「フォースカーヴ」及「レーニン」未亡人「クルーブスカヤ」等ハ其ノ録々タル

モノナリ

第三節 赤色婦人「インターナショナル」第三回大會ノ模様

一九二四年七月十一日莫斯科革命記念劇場ニ於テ赤色婦人「インターナショナル」第三回大會ヲ
開催セルガ、當時ノ模様ヲ見ルニ國際婦人書記局長「クララ、ツエトキン」先ツ開會ヲ宣シ、露國
共產黨中央婦人部部長タル「ニコライエフ」會議ノ議長トシテ會議ノ構成ニ關シ發言シ、次デ「モ
イロヴァ」國際婦人書記局及本會議ノ組織委員會ノ名ニ於テ幹部會人員ヲ左ノ通推舉セリ

(一) 政治委員會

次掲日程所掲第一項及第二項ニ關ス

「ツエトキン」(ストルム)、「ニコライエヴァ」(カスバロヴァ)、「リリナ」(ハルベ)(獨)、「フォスカ
ーヴ」(マヂエロヴァ)、「チッコ」(シレン)(瑞典)、「アムター」(米)

(二) 職業團體等ニ關スル委員會

次掲日程所掲第三項及第四項ニ關スルモノ

「カナチコフ」(モイロヴァ)、「ニコライエヴァ」(タツソヴァ)、「クシーネン」(芬蘭)、「ハルベ」(獨)、「
「ジロルト」(佛)、「カンキウイツ」(波蘭)、「ウイシユニアコヴァ」、「バーシユ」(獨)、「フォースカーヴ」

- (佛)「スポーナー」(チェコスロヴァキア)
- (三) 労働組合問題委員会
 - 「ストラッセル」(レルネル)「チエルニシヨヴァ」(カナチコヴァ)「バーシュ」(獨)「フオスカーデ」(佛)「スポーネル」(チエコスロヴァキア)
- (四) 産業組合問題委員会
 - 「オストロウスカヤ」(ロビンソン) (英)「マリア」(伊)「カリナ」(波蘭)「アルボレ、ラリ」(羅馬尼)「獨逸及「ソヴィエト」聯邦ヨリ各一名ノ代表、「ヴィッテル」(共產「インターナショナル」産業組合全部)
- (五) 社會教育委員会
 - 「クルブスカヤ」(リリナ)「ロジナ」(佛)「フエシエ」(土)「諾威、勃牙利及「ソヴィエト」聯邦ヨリ各一名ノ代表任命サレタリ
- (六) 編輯委員會
 - 「ニコライエヴァ」(ストルム)「タツソヴァ」(ハルベ) (獨)「フオスカーヴ」(佛)

第三回大會ニ於テナサレタル演説及ヒ發表サレタル報告ハ會議ノ模様ヲ最モ如實ニ示スヲ以テ今

此等演説ノ演題ト出演者及報告ト其ノ提出者ヲ示セハ左ノ如シ

- (一) 世界ノ形勢ト共產主義婦人ノ任務 (出演者「ツェトキン」)
 - (二) 國際婦人書記局ノ報告
 - (a) 西方諸國ニ關スル報告 (報告者「ベルタストルム」)
 - (b) 東方諸國ニ關スル報告 (報告者「カチバロヴァ」)
 - (c) 「ソヴィエト」聯邦ニ關スル報告 (報告者「ニコラエヴァ」)
 - (三) 職業團體ニ於ケル婦人労働者ノ結合 (出演者「カナチコフ」)
 - (四) 「ソヴィエト」聯邦ニ於ケル活動ノ形式及方法 (出演者「モイロヴァ」)
 - (五) 労働組合ニ於ケル活動 (出演者「イスア、ストラッセル」)
 - (六) 産業組合ニ於ケル活動 (出演者「オストロウスカヤ」)
 - (七) 社會教育 (出演者「クルブスカヤ」)
- 第三回大會ニ於ケル幹部會、名譽幹事、書記局及資格審査委員會ノ構成人員ノ顔振左ノ如シ
- (一) 幹部會員
 - (1) 個人的資格ヲ以テ出席セルモノハ「タララ、ツェトキン」(クルブスカヤ)「リリナ」(カス

「バロヴァ」「ヘルタストルム」ノ五名ナリ

(2) 「ソヴェト」聯邦側代表

「ニコライエヴァ」

(3) 獨逸側代表

「ハルベ」

(4) 佛國側代表

「フォスカーク」

(5) 英國側代表

「ロビンソン」

(6) 「チェッコ」側代表

「フェルメイエロヴァ」

(7) 波蘭側代表

「カリナ」

(8) 「スカンデナヴィア」側代表

「オルセン」

(9) 羅馬尼側代表

「ゲオルグ」

(10) 土耳其側代表

「フェブシエ」

(11) 「ウクライナ」側代表

「カステラン」

(12) 近東側代表

「オルラヘラシユビリイ」

(13) 極東側代表(支那)

「リュウ、チン」

計 十七名

(二) 候補者

「ボスベイエヴァ」「レニングラード」「サスラウスカヤ(莫斯科)」「ベブリツカヤ(南東)」「ロボチエウイツチ(白露)

計 四名

(三) 名譽幹事

會議側ヨリ提出シ幹部會ノ承認ヲ得タル者左ノ如シ

「ジノヴィエフ」「カメネフ」「ルイコフ」「トロツキー」「ブハリン」「ベトロウスキー」「ペバー」

計 七名

(四) 書記局

書記局ノ構成人員左ノ如シ

「スタソヴァ」「レルナー」「ニウリナ」「ウルリヒ(獨)」「ジロルド(佛)」「スポナー」「チエッコ、スロヴァキア」

計 六名

(五) 資格審査委員会

資格審査委員会ノ委員左ノ如シ

「コウナトル」、「トロヤノフスキー」、「フィシャー」(獨)、「カンキウイツ」(波蘭)、「シレン」(瑞典)

計 五名

今第三回大會ニ出席セル各國ノ代表者ヲ檢スルニ、其ノ中表決權ヲ有スルモノ五十六名、評議權ヲ有スルモノ六十二名ナリ

表決權ヲ有スルモノハ左記二十二ヶ國並ニ共產「インターナショナル」、「プロフィンテルン」及個人資格者トシテ各一名宛ナリ

「ソヴィエト」聯邦二十二名、獨逸四名、佛國二名、「チェッコ、スロヴァキア」三名、伊太利二名、波蘭二名、埃國一名、諾威二名、瑞典一名、英國一名、米國一名、羅馬尼二名、勃牙利二名、「エストニア」一名、「ラトヴィア」一名、芬蘭二名、「リツアニア」一名、支那一名、土耳其一名、波斯一名、日本一名、朝鮮一名宛ナリ。此ノ外共產「インターナショナル」ヨリ一名、「プロフィンテルン」ヨリ一名宛出席セルコトハ前述ノ如シ。又個人資格ヲ以テ出席セル者ハ「クララツェトキン」ナリ

出席代表者中評議權ヲ有スル代表者ハ六十二名ニシテ其中露國四十四名、瑞西及印度支那各一名ニシテ其ノ他ノ内譯(四十二名)ハ主トシテ歐洲諸國ノ代表者ナリ
次ニ社會的地位ニヨリ各國ノ代表者ヲ區別スレハ左ノ如シ

婦人勞働者

十三名

智識階級

二十九名

次ニ教育程度ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

小學校ヲ卒ヘタル者

十六名

中學校ヲ卒ヘタル者

十八名

大學教育ヲ受ケタル者

八名

又政治的生活ノ長短ニヨレハ左ノ如シ

四十六年

一名

(「クララツェトキン」)

三十四年

同

二十六年

同

二十九年

同

二十一年	同
二十年	三名
十八年	三名
十六年	二名
十五年	二名
十四年	一名
十三年	同
十二年	同
十年	同

他ハ六年乃至三年

第四節 共產婦人ノ國際的結合ト國際共產婦人書記局ニ關スル

共產「インターナショナル」第三回大會採擇ノ決議文

共產婦人ノ國際的結合ト國際共產婦人書記局ニ關シ共產「インターナショナル」第三回大會ハ左ノ決議文ヲ採決セリ

一、國際婦人通信員ノ選任

國際共產婦人第二回大會ハ各國ノ共產黨ニ對シ第三「インターナショナル」ノ指針條項ニ應ジ、其ノ中央婦人委員會ヲシテ國際婦人通信員ヲ選舉セシムベキコトヲ要求ス

二、國際婦人通信員ノ任務

各共產黨ノ婦人通信員ノ任務ハ指針條項ニ於テ豫定セル如ク他國ノ國際婦人通信員竝ニ第三「インターナショナル」執行委員會ノ活動機關タル國際婦人書記局ト正規ノ聯絡ヲ保持スベキ事ナリ

三、國際婦人通信員ノ會議

共產黨ハ國際婦人通信員ニ對シ國際婦人通信員相互間及莫斯科ニ於ケル書記局トノ間ノ國際的交通ヲ可能ナラシメ且之ガ爲メ必要ナル技術的手段ヲ與ヘ之ヲ支援スベキ義務ヲ有ス

四、國際婦人書記局ノ指揮

國際婦人書記局ハ執行委員會ト組織上ノ關係ヲ保チ且各國ノ國際婦人通信員ト密接ナル聯絡ヲ

保ヲ以テ指針條項規定ノ任務ヲ遂行ス。其ノ任務ノ重ナルモノ左ノ如シ

(イ) 國際婦人書記局ハ其ノ意見ヲ開陳シ又ハ實際行爲ニヨリ未ダ微弱ナル状態ニ在ル各國ノ共產婦人運動ノ發達ヲ促進スルコト

(ロ) 西歐及東洋ノ總テノ國ニ於ケル共產婦人運動ニ對シ其ノ活動及戰鬥ニ關シ單一ノ方針ヲ定ムルコト

(ハ) 共產主義者ノ指揮ノ下ニ且其ノ有力ナル支援ニ依リ國內的及國際的婦人運動ヲ促進シ且之ヲ指揮スルコト

(ニ) 婦人ノ加入ニ依リ「プロレタリア」ノ革命的階級戰ノ目的ニ適合スル國內的及國際的行動ヲ更ニ擴張シ且激烈ナラシムルコト

五、西歐補助機關

各國ニ於ケル共產婦人運動ト更ニ密接ナル關係ヲ保ツ目的ヲ以テ莫斯科ノ國際婦人書記局ハ西歐ニ補助機關ヲ設置ス

右補助機關ハ國際婦人書記局ニ代リテ爾後及爾後ノ活動ヲ指揮スベキモノナリ。其ノ性質ニ於テハ議決機關ニアラズシテ執行機關タリ。即其ノ活動ニ於テハ莫斯科ニ於ケル國際婦人書記局

本部及第三「インターナショナル」ノ決議及訓令ニ拘束セラル

西歐補助機關ニ於テハ常ニ莫斯科婦人書記局本部ヨリ派遣セラレタル少クトモ一名ノ代表者ガ協同活動スルヲ要ス

六、執行委員會ノ立法權

書記局本部ノ集會及任務ノ範圍ニ關シ未ダ指針條項ニ於テ規定セラレザルモノニ付キテハ第三「インターナショナル」執行委員會ハ國際婦人書記局ト協議ノ上之ヲ決定ス。右補助機關ノ建設構成並活動ニ付テモ亦同シ

第五節 各國ニ於ケル婦人共產運動

(一) 「ソヴェエト」聯邦ニ於ケル婦人共產運動

「ソヴェエト」聯邦ニ於テハ共產黨中央婦人部ガ主トナリテ婦人間ニ共產主義ヲ宣傳シツツアルモ、今日ニ於テハ尙其ノ成績思ハシカラス。一九二六年露國共產黨ノ加入人員二百萬人中、婦人ハ僅ニ十二萬八千八百七十七名ニ過ギザリシト云フ (La Vague Rouge, novembre 1927. P. 11.)

(二) 英國ニ於ケル婦人共產運動

英國ニ於テハ婦人ノ共產運動相當盛ニシテ其ノ中心ヲナスモノハ勞働黨婦人部及共同組合婦人

加入者團體ノ二機關ナリ。労働黨ノ婦人加入者ハ二十萬人ニ達スト稱セラレ
 (三) 獨逸ニ於ケル婦人共產運動

獨逸ニ於テハ赤色戦線戦闘聯盟 (Fédération des Combattants du front rouge) ハ多數ノ婦人加入者ヲ有シ此等ノ婦人ハ右聯盟ノ指令ヲ仰キテ盛ニ共產運動ニ參加シツツアリ
 獨逸共產黨ノ婦人加入者ハ二萬人ニ達スト稱セラレ

(四) 瑞典ニ於ケル婦人共產運動

瑞典ニ於テハ婦人共產主義者ノ俱樂部五十餘、煽動委員會十五、共產學校數校アリ。其ノ他瑞典共產黨ノ婦人部ハ專屬ノ婦人宣傳者四十名ヲ有シ盛ニ活動シツツアリ

(五) 佛國ニ於ケル共產運動

佛國ニ於テハ共產黨ノ婦人委員會カ中心トナリテ共產運動ヲ遂行シツツアリ。婦人共產運動者中最モ有名ナルハ「マルグリット、フォースカーツ」(Marguerite Faussecurve) 及「ブレアン」夫人 (Mme Bréant) ナリ

彼等ハ共產主義ヲ標榜シテ宣傳スルノミナラズ、又表面人道主義ヲ旗幟トシテ事實上共產主義ヲ宣傳シツツアリ。例ヘハ「寡婦及母ノ戦争反對委員會」(Comité des Veuves et des Mères contre

la Guerre) 「平和及自由擁護婦人聯盟」(Ligue des Femmes pour la paix et la liberté) 「労働者救援」(Secours Ouvrier International) 等ノ諸團體ノ如シ

第八章 教育勤勞者「インターナショナル」

Internationale des Travailleurs de l'Enseignement (I.T.E.)

第一節 概 説

教育勤勞者「インターナショナル」ハ必スシモ共產主義宣傳ヲ目的トスルモノト云フヲ得サルモ、其ノ成立ノ動機竝過去ニ於ケル事蹟ニ徴シテ共產「インターナショナル」ト關係ヲ有スルハ掩フ可カラサル事實ニシテ教育勤勞者「インターナショナル」ハ「スポーツ、インターナショナル」、對外文化聯絡協會、婦人「インターナショナル」等ト同シク表面共產主義ト無關係ヲ裝ヒテ事實上間接ニ赤化宣傳ヲ策スルモノノ如シ

教育勤勞者「インターナショナル」雜誌 (Revue de l'I.T.E.) 客年十月號ハ世界ニ於ケル小學教員ニ對スル一ノ檄文ヲ發表セルガ右ハ本「インターナショナル」ガ資本主義及軍國主義ニ反對ノ意嚮ヲ有スルコトヲ最モ適格ニ示スモノニシテ檄文中左ノ辭句アリ

「日暮レテ嵐到ルガ如ク資本主義ハ當然ニ戦争ヲ齎ラス。最近ニ於ケル幾多悲劇的事件ハ皆テ「ジョーレス」ノ下セル判断ノ誤マラサリシヲ證スルニ足ルナリ

「ソヴィエト」共和國ハ帝國主義ノ羈絆ノ下ニ呻吟スル諸民族、殊ニ支那民衆ニ對シテ一ノ好模範ヲ與ヘ是ガ爲メニ世界ニ於ケル「ブルジョア」ハ一大危険ニ瀕セリ

「ブルジョア」ハ勞働者ニ麻醉劑ヲ與フルノ必要ヲ感シツツアリ

「ブルジョア」ノ智識階級者ノ虚言ニ聽ク勿レ。彼等ハ平和ノ爲ニ奮闘スト揚言スレトモ實ハ平和ノ爲ニ怠業ヲナシツツアルニ過キサレナリ

平和主義的教育ニヨリテ戦争ヲ避クルヲ得ト主張スル者ヨ、學校ニヨリテ平和ヲ將來セント叫ブ者ヨ、汝等總テ去レヨ

學校ニヨリテ平和ヲ將來センコトハ到底不可能ナリ。何トナレバ學校ハ新聞、「シネマ」「ラヂオ」ノ如ク資本主義ノ一道具ニ過キス、且當然帝國主義及軍國主義ニ加擔スルヲ以テナリ」

第二節 教育勤勞者「インターナショナル」ノ成立

教育勤勞者「インターナショナル」ハ一九二二年八月巴里ニ於テ第一回大會ヲ開催シ爾來佛國支部カ其ノ活動ノ中心ヲナシ居レリ

共產「インターナショナル」ハ諸外國ニ於ケル教育者間ニ共產主義ヲ宣傳スル目的ヲ以テ「教育宣傳國際委員會」ナル一委員會ヲ創設シタリシカ一九二四年八月汎露教育勤勞者聯盟カ前記教育勤勞者「インターナショナル」ニ加入シテ以來「教育宣傳國際委員會」ハ最早ヤ存在ノ必要ヲ認メストシテ之ヲ廢止セリ。壽府ニ本部ヲ有スル第二「インターナショナル」反對同盟(Entente Internationale contre la IIIe Internationale) 側ニ於テハ教育勤勞者「インターナショナル」ハ露國政府ヨリ金錢上ノ援助ヲ受ケ居レリト主張ス (Entente Internationale contre la IIIe Internationale, Vademecum Antibolchevique, 1928, P. 36.)

教育勤勞者「インターナショナル」ハ其ノ成立以來加入團體次第ニ増加シ、第二回大會ニハ露國、勃牙利、佛國、(和蘭國教育團體正式ニ參加シ又第二「インターナショナル」ニ加盟セル英國ノ教育勤勞聯盟 (Teachers' Labour League) 其ノ他伊太利、白耳義、西班牙、「ルクサンプール」ノ同種ノ團體モ各々其ノ代表者ヲ派遣シ又「チエッコ、スロヴァキア」及葡萄牙ノ教育團體モ亦代表者ヲ出席セシメタリ。佛國ニ於テハ教育勤勞者「インターナショナル」ハ主トシテ教育職業組合統一聯盟 (Fédération unitaire des Syndicats de l'Enseignement) ノ支持ヲ受ケ居レリ。右教育職業組合統一聯盟ハ小學校教員ノミナラス中等教育ニ從事スル一部ノ教諭ヲモ包含スル一大團體ナリ

教育勤勞者「インターナショナル」ハ他ノ同種「インターナショナル」ト同シク大會ノ外ニ常設機關トシテ執行委員會ヲ有ス

今春執行委員會第三回會議ヲ「ブラッセル」市ニ於テ開催セル處、其ノ席上獨逸、埃太利、英國、伊太利、西班牙、葡萄牙、瑞西、勃牙利、「ユーゴー、スラヴィア」、羅馬尼、希臘、洪牙利、「チエッコ、スロヴァキア」、波蘭、瑞典、諾威、丁抹、芬蘭等ニ於ケル教育者ノ運動ニ關スル報告朗讀サレタリ

先年維納大會ニ於テ「國際教育學デー」(Journées pédagogiques internationales)ナル名目ノ下ニ國際會議ノ開催方決議スル所アリシガ、今春ノ會議ニ於テ具體的ニ本問題ヲ研究シ、其ノ結果右會議ノ開催期日、其ノ議事日程並報告者等ヲ決定セリ。右會議ハ夏期休暇ヲ利用シテ「ライプツヒ」ニ於テ開催セラル可ク、獨逸、佛蘭西、露國、英國、白耳義、日本、西班牙、瑞典、埃太利ノ代表者カ各々報告ヲ提出スルニ決定セル旨傳ヘラル (La Vague Rouge, avril 1928, P. 42.) 又前記會議後同シク「ライプツヒ」ニ於テ教育勤勞者「インターナショナル」ノ普通大會ヲ開催スルニ決シ其ノ議事日程モ亦今春ノ會議ノ席上決定ヲ見タリ。右大會ニハ執行委員會ヨリ代表トシテ「ヴェルノシ」(Vernochet)ヲ派遣スルニ決セリ (Ibid)

其ノ他「ソヴィエト」聯邦諸學校博覽會ヲモ開催スルニ決定セル旨傳ヘラル (Ibid)

第三節 教育勤勞者「インターナショナル」ノ組織

今教育勤勞者「インターナショナル」ノ組織ヲ見ルニ常務執關トシテ總務書記局及執行委員會アリ其ノ役員左ノ如シ (La Vague Rouge, fév. 1928. PP. 19—20. ニ依ル)

- (1) 總務書記局 (Secrétariat Général)
 - 「ヴェルノシ」(Vernochet) (E)里)
 - 「ヴァン、ド、ムールテン」(Van de Moortel) (白耳義)
 - 「カッパー」(Capper) (英國)

(2) 執行委員會

執行委員會委員ハ討議ニ參與スル權利ヲ有ス者ト唯諮問ニ應シテ意見ヲ開陳スルニ過キサル者トノ二種ニ分ル
 討議權ヲ有ス者ハ
 「ダクセーレ」(Daxhelet) (白耳義)「ボイニ」(Boyer) (佛國)「クランマン」(Clément) (「マン」)
 「サンブール」(「ポルト」(Porto) (葡萄牙)「アブレチン」(Apletine)「コロステレフ」(Korostelet)

「ミセルネツキ」(Misernetski) (以上露國) 及西班牙人一名
諸國發言權ヲ有スル者

「レドグロヴ」(Redgrove) (英國) 「ペタール」(Peters) (白耳義) 「ベルナル」(Bernard)
(佛國) 「リンデマン」(Lindemann) 「オートー、グランツ」(Otto Glantz) (以上獨逸) 「ドリン
コ」(Dolinko) (露國) 「コグニョット」(Cogniot) (伊太利)
又本「インターナショナル」ニ加盟セル各國ノ團體ヲ見ルニ左ノ如シ

英國 教育労働聯盟 (Teachers' Labour League)

白耳義 社會主義者教員中央機關 (Centrale du personnel enseignant socialiste)

「スコットランド」 「スコットランド」 社會主義教員協會 (Scottish Socialist Teacher's Society)

西班牙 教員總聯合 (Association Générale de Maestros)

佛國 非宗教教育組合聯合 (Fédération des Syndicats de l'Enseignement laïque)

伊太利 伊太利教員組合 (Sindacato Magistrale Italiano)

「ルクサンブール」 「ルクサンブール」 教育労働者組合 (Syndicats des Travailleurs de l'Ensei-
gnement Luxembourgeois)

葡萄牙 葡萄牙教授聯合 (Associação de Professores de Portugal)

「ソヴェト」聯邦 教育労働者聯合

第九章 「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」

Internationale des Libres-Penseurs Proletariens

第一節 概 説

現状ノ破壊ヲ目的トスル共產主義ハ、社會秩序ヲ維持シ傳統ト慣習トヲ重ンゼントスル一切ノ宗
教ト水炭相納レサル性質ヲ有ス。且未來ノ幸福ヲ説キテ現世ノ苦難ヲ忘レシメントスル宗教ハ、
眼前ノ不幸ヲ指摘シテ現實ノ社會組織ヲ變改シ、以テ地上ニ樂園ヲ建設セントスル共產主義ニト
リテ一大障害タルヲ免カレズ。是レ共產主義者ガ極力宗教ヲ排撃シ民衆ニ向テ無信仰ノ必要ト正
當ナル理由ヲ力説スル所以ナリ

「共產主義手引」(A.B.C. du Communisme) ハ宗教ニ關シ左ノ通主張ス

「宗教ト共產主義ハ理論上ノミナラズ實際上ニ於テモ兩立スルヲ得ズ」

「宗教ハ凡テ精神、意思及良心ヲ陶醉セシムル毒藥ナリ。故ニ吾人ハ宗教ニ向テ激烈ナル戰鬥ヲ

開始セザル可カラズ」

「吾人ノ任務ハ一切ノ宗教、一切ノ道徳ヲ改良セントスルニ非ス全然之ヲ破壊セントスルナリ」
以上ノ見解ニ基キ共產「インターナショナル」ハ共產主義宣傳ノ補助手段トシテ反宗教思想ノ宣傳
ニ努メツツアリ

「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ハ世界ニ於ケル無信仰者ノ國際的一團體ニシテ
本來ノ性質上何等共產主義ノ宣傳ヲ目的トスルモノニ非ズ。然レトモ其ノ幹部側ノ虚實ハ兎モ角
モ露國側ニ於テハ世界革命ノ準備行爲タル反宗教的思想ノ宣傳ニ之ヲ利用セントシツツアルハ事
實ナリ

第二節 「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ノ成立及組織

「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ハ一九二五年春設立サレタルモノニシテ、創
立當初國際大會ハ維納及「テブリッツ」ニ於テ開催サレタルガ、露國、獨逸、埃太利、「チエッコ、
スロヴヅキア」等ニ於ケル無信仰者ノ諸團體代之ニ表者ヲ派遣セリ

今此等ノ諸國ニ於ケル無信仰者團體ノ會員ヲ見ルニ大略左ノ如シ。(Entente Internationale contre
la IIIe Internationale, Vade-Mecum Antipolohéyique, 1928, P. 42.) (ニムル)

露 國	一四五、〇〇〇
獨 逸	一一〇、〇〇〇
埃 太 利	一〇〇、〇〇〇
「チエッコ、スロヴヅキア」	一四、〇〇〇

「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ハ埃國ノ維納ニ本部ヲ有ス

本「インターナショナル」ハ宗教及排外主義ヲ撲滅シ且宗教上民族上ノ「イデオロギート」ヲ破壊ス
ルヲ目的トシ、革命ヲ起シテ「プロレタリア」ヲ解放シ以テ共產主義ノ基礎ノ上ニ新文化ヲ建設
セントスルモノナリ

第三節 「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ノ活動

「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ハ機關新聞トシテ「無神」(Le Sans-Dieu)ヲ發
行ス。「ルナチャルスキト」ハ「無神」發刊當初一ノ論文ヲ發表セルガ其ノ中ニ曰ク
「過去ニ於テ人類ニ一大害毒ヲ流セル憎惡ス可キ神ナル妖靈ニ向テ戦争スルハ「無神」ノ任務ナリ
吾人ハ右戰闘ニ於テ「無神」ガ大ナル成功ヲ收メシコトヲ衷心ヨリ希望シテ己マズ」云々
「無神」ハ嘗テ「レトニシ」ノ肖像ヲ掲グ其ノ下ニ左ノ標語ヲ掲ゲタリ

「無神」ノ事業ハ「レーニン」ノ事業ナリ。吾人ハ宗教ニ向テ戦ハザル可ラズ。宗教ハ人民ノ麻痺劑ナリ。「無神」ヲ以テ學校ノ教師トセザル可ラス」

一九二五年四月二十五日莫斯科ニ於テ「無神」ノ通信者大會ヲ開催セルガ、右大會ニ於テハ先ヅ「レーニン」ニ敬意ヲ表シタル後、將來反宗教的宣傳ヲナスニ當リ採ル可キ最モ有效ナル手段方法ニ關シ審議スル所アリタリ。其ノ結果

- (一) 自然科学ノ智識ニヨリテ宗教的信仰ガ全然迷信ニ過ギザルコトヲ説明スルコト
- (二) 宣傳ノ方法ハ宣傳ヲナス可キ相手方及地方ニヨリテ異ルヲ要スルコト
- (三) 反宗教的思想ノ宣傳ニハ「ラデオ」活動寫真及演劇ヲ利用スルコト
- (四) 反宗教的宣傳ニハ小學校教員及田舎醫者ノ手ニヨリテ爲ス時ハ效果大ナル可キコト等ヲ決議セリ

本年一月四日獨逸「ケルン」ニ於テ「プロレタリア」無信仰者「インターナショナル」ノ第三回大會開催セラレタルガ、其ノ席上滿場一致ヲ以テ左記幹事ヲ選任シ、「ハルトウイヒ」議長ニ選任セリ

「ハルトウイヒ」

(「ブリューン」)

「ペラウ」

(「ブラーグ」)

「ルカチエウスキー」

(莫斯科)

「ジーフェルス」

(伯林)

「カペリール」

(「ブリュッセル」)

「フリツツエ」

(佛蘭西)

「フランツル」

(維納)

「シュネラー」ハ獨逸共産黨ノ名ニ於テ又「スツルデー」ハ「プロフィンテルン」ノ名ニ於テ各々本大會ニ向テ祝詞ヲ呈セリ

第十章

「プロレタリア、ラデオ、インターナショナル」

Internationale Proletarienne du Radio

昨秋九月獨逸伯林ニ於テ「プロレタリア、ラデオ、インターナショナル」組織サレタリ。之ニ加盟セル者ハ獨逸「ソヴェト」聯邦「チッコスロヴァキア」、丁抹、和蘭、埃太利ノ「プロレタリア、ラデオ」愛好者ナリ

本「インターナショナル」ノ組織ハ大體其ノ他ノ「インターナショナル」ト同シク大會ノ外ニ執行委員會ヲ有シ常務ヲ執ルモノトス。目下執行委員會ハ獨逸、「チエッコ、スロヴァキア」、埃太利三國ノ代表者ヲ以テ組織ス。「ソヴェエト」聯邦代表ハ「ソヴェエト」側ヨリモ執行委員會ノ委員ヲ出サント努力セルモ遂ニ不成功ニ終レリ (La Vague Rouge, nov. 1927. P. 35.)

本「インターナショナル」ハ「ラヂオ」ヲ愛好スル「プロレタリア」ノ國際的連絡機關ニシテ必シモ共產主義ノ宣傳又ハ世界革命ヲ目的トスルモノニ非サレトモ其ノ大會ニ於テハ常ニ「レーニン」ノ像或共產主義的標語ヲ掲ケ居ルト、又一ツニハ其ノ基礎ヲ「プロレタリア」ニ置ク關係上「ソヴェエト」聯邦ニ對シテ著シク好意的態度ヲ有スルト、又一面ニハ「ソヴェエト」聯邦側ニ於テモ「スポーツ、インターナショナル」等ト同シク「ラヂオ、インターナショナル」ヲ利用シ以テ「ラヂオ」ヲ通シテ一般「ラヂオ」愛好者間ニ廣ク共產主義ヲ宣傳セント努力シツツアル等ノ關係ヨリシテ本「インターナショナル」今後ノ活動ハ大ニ注目ニ値スト云ハサル可ラス

第十一章 對外文化聯絡協會 (略稱「ヴォツクス」)

Всесоюзное Общество Культурной Связи с Заграницей
Société pour les relations culturelles avec l'étranger (V.O.K.S.)

第一節 概 說

「ソヴェエト」聯邦對外文化聯絡協會ハ一九二五年八月八日附「ソヴェエト」聯邦人民委員會議認可ノ定款ニ基キ設立セラレタル公共團體ニシテ曩ニ飢饉等ニ關聯シ外國ヨリ「ソヴェエト」聯邦ニ對シ與ヘラレタル援助ヲ統一シ且外國ニアル「ソヴェエト」聯邦ノ援助團體ヲ指導スル爲「ソヴェエト」聯邦中執委員會附屬トシテ設立セラレタル外國援助常置委員會 (一九二三年九月七日附「ソヴェエト」聯邦中央執行委員會幹部會決定) ノ後身ニシテ出版情報部、書籍交換部、外國人案内部、眞實交換部等完備セル組織ヲ有ス。定款ニ掲タル處ニ依レハ協會ノ目的ハ「ソヴェエト」聯邦ト外國トノ學術上及文化上ノ聯絡ヲ設定シ且之ヲ助長スルニアリテ右目的達成ノ爲協會ハ

(一) 學會、團體、新聞、學者等ト聯絡ヲ計リ、情報、著書、資料等ノ交換ニ資ス

(二) 「ソヴェエト」聯邦トノ接近ヲ目的トスル外國協會ト聯絡ヲ計リ此種協會ナキ國ニ對シテハ材

- (一) 料ヲ供給シ講演者ヲ送り且此種協會ノ設立ニ資ス
 - (二) 學校、俱樂部、圖書館ヲ設ケ又講演會、音樂會、觀光團等ヲ催シ文化、學術、風俗、言語ノ研究ニ資ス
 - (三) 「ソヴエト」聯邦ノ學術文化研究ノ目的ヲ以テ渡來スル外國人ノ爲ニ聯邦ノ主要都市ニ案内所ヲ設置ス
 - (四) 學者ノ往來ニ便宜ヲ與フ
 - (五) 交換教授ヲ助長ス
 - (六) 美術展覽會ヲ催シ藝術興行ヲナス
 - (七) 聯邦及外國ノ文化、學術、風俗ニ關スル定期刊行物ヲ出版ス
 - (八) 旅行其他ノ案内書ヲ出版ス
 - (九) 新聞、團體ニ對シ寫眞ヲ供給ス
 - (十) 機關、團體、學者ノ爲外國新聞ノ必要ナル報道ヲ供給ス
- 前記ノ如ク一九二五年八月以降政府ノ機關ニアラサル公共團體トナリタルモ、定款第十二條ニヨレハ協會ヨリ外國ニ代表者ヲ派遣スル場合ハ豫メ外務人民委員部ノ同意ヲ得ルノ必要アリ。又創

設日向淺ク會員モ多カラサルニ、完備セル相當大規模ノ組織ヲ有スルハ前顯外國援助委員會ヨリ其ノ機關ヲ繼承セルト、政府筋ヨリ何等カ補助ヲ受クル爲ナルヘシト推定セラレ

尙協會外國人案内部ハ莫斯科來遊邦人ニ對シ視察上懇切ニ多大ノ便宜ヲ與ヘ何等宣傳等好マシカラサル風アルヲ見受ケズ

第二節 對外文化聯絡協會ノ組織

協會ハ會員組織ニシテ學術、文化機關、同團體、學者、文化事業關係者ヲ以テ會員トシ、十七名ヨリ成ル理事會ヲ置キ、内六名ハ聯邦ヲ構成スル六共和國ノ代表者ヲ以テ充ツルコトトナリ居リ

協會ノ資金ハ會費(機關團體ヨリハ入會費百留以上ヲ納付セシメ會員一般ニ年額五留ノ會費ヲ納付セシム)、出版收入、寫眞部收入、團體旅行、藝術興行、展覽會、音樂會、講演會ノ收入並官廳及團體ノ補助及寄附ヨリ成ル

尙協會ハ外國ニ對シ一國ニ付一名ヲ限り代表者ヲ派遣ス

右代表者ノ任命ニ際シテハ外務人民委員部ノ同意ヲ要ス

第三節 對外文化聯絡協會ノ活動

協會ノ對外活動ハ「ソヴィエト」聯邦ノ事情ヲ外國ニ紹介シ、革命當初ノ内亂時代反對派ナル白黨露人ニ依リテ行ハレタル不利ナル宣傳ニヨリ外國智識階級者間ニ横溢セル「ソヴィエト」聯邦ニ不利ナル空氣ヲ一掃セントスルニアリテ、右反「ソヴィエト」聯邦宣傳ニ對抗シテ自己ノ立場ヲ擁護セムトスル結果、間接ニ主義ノ宣傳トモ解釋セラル措置ナキニアラサルヘキモ、積極的ニ外國ニ對シ赤化宣傳ヲ爲スモノトハ認メラレス

積極的宣傳機關トシテハ共產「インターナショナル」、職業同盟「インターナショナル」、農民「インターナショナル」等アリ。協會ハ專ラ此等宣傳機關ノ惡辣ナル活動カ外國ニ與フル赤化ノ恐怖心ヲ除去セムカ爲ノ中和劑ニ利用セラレ居ルモノニアラスヤトモ思考セラル

客秋露都ニ於テ開催サレタル十月革命十週年記念祭ニ際シ「ソヴィエト」聯邦政府ハ對外文化聯絡協會ヲ通シテ「ソヴィエト」聯邦ニ同情ヲ有スルモノト認ムヘキ各國ノ労働團體、農民團體、「コオペラチヴ」團體並ニ個々ノ學者及文士ニ對シ旅費及滞在費ヲ提供シテ前記記念祭ニ參加方招請ヲ發シタリシカ此ノ招請ニ應シテ來莫セルモノ九百四十七名(四十三ヶ國)ノ多キニ達セリ本邦側ヨリハ秋田雨雀、米川正夫、尾瀬敬止ノ三名本大會ニ出席セリ

第十二章 帝國主義反對及民族獨立期成聯盟

Ligue contre l'Impérialisme et Pour l'Indépendance nationale

第一節 概 説

帝國主義反對及民族獨立期成聯盟(Ligue contre l'Impérialisme et Pour l'Indépendance nationale)ハ伯林ニ本部ヲ有スル被壓迫民族聯盟(Ligue des nations opprimées)主催ノ下ニ客年二月七日ヨリ同十五日迄白耳義國「ブラッセル」市ニ於テ開催セラレタル殖民地壓迫及帝國主義反對國際大會(Congrès international contre l'Oppression coloniale et l'Impérialisme)ノ決議ニ基キテ成立セルモノニシテ、右聯盟ノ執行委員會ハ客年三月「アムステルダム」、同八月「ケルン」、同十一月巴里ノ三回ノ會議ヲ開キタル結果、更ニ十二月「ブラッセル」ニ於テ總委員會第一回會議ヲ開催シ、大ニ其ノ陣容ヲ整ヘタリ。右聯盟ノ中心人物ハ國際運輸聯合書記長、國際労働事務局海員労働者協調委員會員兼墨西哥労働總聯合議長タル和蘭人「エド、フィンメン」及共產「インターナショナル」執行委員會幹部會員片山潛ノ兩名ナリ。世界革命ニ對スル莫斯科從來ノ政策ハ其ノ成績必ズシモ香シカラサルモノアルヲ以テ、前記聯盟ハ新ニ殖民地獨立運動ヲ援助シテ英、佛、白等ノ主要殖民國

ニ打撃ヲ與ヘ以テ資本主義諸國ノ堅壘カ除ニ崩解スルヲ待チテ一齊ニ世界革命ヲ達成セントスルモノナリ。而シテ帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ハ共產「インターナショナル」ニ比シ包容力遙ニ廣シ。是レ其ノ中ニハ共產主義者ノミナラズ純然タル獨立運動者ニシテ共產主義ニハ專ロ反對ノ態度ヲ持シツツアル分子ヲモ包含シ居ルヲ以テナリ。即チ資本主義ヲ打破セントスル共產運動ト帝國主義的本國ヨリ獨立セントスル民族獨立運動トハ容易ニ相抱擁スルノ微妙ナル關係アルヲ以テ、莫斯科側ハ直接又ハ間接ニ帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ヲ援助ス可ク本聯盟ノ前途ハ頗ル注目ニ値スト云フ可シ

目下ノ處本聯盟ガ莫斯科側ヨリ具體的如何ナル援助ヲ受クルヤハ此種組織ノ性質トシテ素ヨリ之ヲ窺知スルニ由ナキモ、客臘「ブラッセル」市ニ開催セル總委員會第一回會議ニ出席セル代表者ノ旅費ハ聯盟ヨリ補助ヲ受ケタル事實アリ。又聯盟ハ莫大ナル資金ヲ擁シ居ルニ鑑ミ莫斯科ヨリ相當ノ財的援助アルハ略々想像ニ難カラサル處ナリ。以下順ヲ追ヒテ客年二月「ブラッセル」市ニ開催セル殖民地壓迫及帝國主義反對國際大會ノ模様、帝國主義反對及民族獨立期成聯盟成立ノ由來及客臘「ブラッセル」ニ於テ開催セル同聯盟總委員會ノ第一回會議ノ模様ヲ略述スル處アル可シ

第二節 帝國主義反對及民族期成聯盟ノ成立

殖民地壓迫及帝國主義反對國際大會ハ柏林ニ本部ヲ有スル被壓迫民族聯盟 *Ligue des Nations Opprimées* ノ主催ノ下ニ客年二月七日ヨリ十五日迄白耳義國「ブラッセル」市「バレー、デグモン」Palais d'Egmont ニ於テ開催セラレタリ。是ヨリ先キ一月十四日前記被壓迫民族聯盟ハ將來開催スヘキ殖民地壓迫及帝國主義反對聯盟國際大會ノ「プログラム」トシテ左ノ通決定スル處アリタリ

- (1) 開會ノ辭
- (2) 帝國主義並其ノ殖民地並半殖民地ニ齎ラセル諸般ノ結果
- (3) 帝國主義ト戰爭ノ危険
- (4) 被壓迫諸國ニ於ケル解放運動ト帝國主義諸國ニ於ケル勞働運動並反帝國主義運動トヲ相提

携セシムルコト

- (5) 民族獨立運動ト殖民地並帝國主義諸國ニ於ケル勞働運動トヲ提携セシムルコト
 - (6) 帝國主義及殖民地壓迫ニ反對ノ各種分子ヲ糾合シテ一ノ常設的機關ヲ設立スルコト
- 英國下院議員「ランズベリー」先年來朝セル「アインスタイン」博士並孫逸仙未亡人ノ三名國際

大會ノ名譽議長ニ推舉セラレタリ

(註) 「ランスベイト」ハ英國労働黨内ノ有力者ニシテ同氏會黨ハ嘗テ露國ノ共產大學ニ學ビタルコトアリ

右決議ニ基キテ開催ノ運ヒトナレル「ブラッセル」國際大會ニハ世界ノ各地ヨリ代表者出席セルカ今其ノ國名並代表者ノ數ヲ見ルニ左ノ如シ

北米合衆國	七名
墨西哥	五名
玖瑪	四名
「ポルト、リコ」	三名
中央亞米利加	一名
祕露	二名
「ヴェネズエラ」	二名
「コロンビア」	一名
支那	二十二名
印度	十四名

朝鮮	三名
印度支那	一名
波斯	一名
比律賓	一名
南亞米利加	三名
西部阿弗利加	一名
北部阿弗利加	一名
「マ、ロ、コ」	一名
「アルゼリヤ」	一名
「チュニス」	一名
埃及	一名
獨逸	十八名
英國	十八名
佛蘭西	二十五名

和 蘭

「チエッコ、スロヴァキア」

埃 太 利

伊 太 利

「シ リ ヤ」

「パレスティン」

又右大會ニ代表者ヲ派遣セル各種ノ團體ハ左ノ如シ

共產「インターナショナル」執行委員會幹部會

汎印度國民大會

南亞勞働組合

有色民族向上期成協會

「ジョーン、ブラウン」紀念協會

獨逸國會ニ於ケル共產主義議員團

勞働者救援「インターナショナル」

二十三名

十二名

十二名

三名

一名

一名

被壓迫民族聯盟

教育勤勞者「インターナショナル」

運輸業者「インターナショナル」

白耳義共產黨

國際平和自由聯盟 (Ligue internationale pour la Paix et la Liberté)

本大會ニ於テハ列國代表者殊ニ「バルビュス」、「ランスベリー」、「マルトー」等ハ極メテ重要ナル役割ヲ演セリ、大會ノ席上主催者側ニ於テ出席者ニ左記文獻ヲ配布セリ

「植民雜誌」(Kolonial Review)「孫逸仙ト國民黨」(Sun Yat Sen und Kuomintang)「何ノ爲ニ支

那ハ戦ヒツツアリヤ」(Wofür Kämpft China)「不平等條約ト支那革命」(Les Traités inégaux et

la Révolution chinoise)「支那復興方策」(Programme de la Reconstruction de la Chine)「支那學

生ノ革命運動」(Le mouvement révolutionnaire des Etudiants Chinois)「安南人ノ魂」(Ame anna-

mise)「マロコ」ニ於ケル佛蘭西ノ軍國主義」(Le Militarisme français à l'oeuvre au Maroc)「朝

鮮問題」(Le Problème coréen)「教育勤勞者「インターナショナル」會報」(Bulletin de l'Internationale des Travailleurs de l'Enseignement)

本大會ニ於テ幾多ノ報告及二十六ノ決議ヲ採決セルカ就中主要決議ノ要旨左ノ如シ

- (1) 支那ニ關スル決議
支那ニ關スル決議ハ各國ニ於ケル左翼分子ニ向テ支那革命運動ヲ極力援助スルト共ニ他國歐米列國カ在支外人ノ利益保護ノ理由ノ下ニ對支出兵ヲナスニ當リ極力之ヲ妨害ス可キ旨勸告ス
- (2) 英國、印度及支那ニ關スル決議
右決議ハ英國ノ帝國主義打倒ノ爲メニ支那印度及英國ノ極左翼分子ノ提携ヲ勸告ス
- (3) 印度支那ニ關スル決議
右決議ハ佛領印度支那ノ完全ナル獨立ヲ主張ス
- (4) 蘭領東印度ニ關スル決議
右決議モ亦蘭領東印度ノ完全ナル獨立ヲ主張ス
- (5) 波斯ニ關スル決議
右決議ハ單ナル反英思想ノ糺述ニ過キス
- (6) 日本ノ朝鮮政策ニ反對スル決議
- (7) 北部亞弗利加ニ關スル決議

北部阿弗利加ヲ佛國ノ統治ヨリ解放スルノ必要ヲ主張ス

- (8) 在米黑人ニ關スル決議

在米黑人ヲ白人ノ虐待ヨリ解放スルヲ勸告ス

- (9) 職業組合ニ關スル決議

「プロフィンテレン」ノ精神ニ則リテ各國ニ於ケル職業組合ノ提携ヲ主張ス

本大會ハ其ノ閉會ニ先立チテ常設機關トシテ新ニ帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ヲ設立シ以後此ノ聯盟ヲシテ民族獨立運動ヲ援助セシムルニ決セリ

第三節 帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ノ組織

Ligue contre l'Impérialisme et pour l'Indépendance nationale

「ブラッセル」ニ於ケル前記植民地壓迫及帝國主義反對國際大會ニ於テ帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ヲ設定セル事情ハ前述セル處ナキガ前記大會ニ於テ聯盟ノ組織ニ關シ左ノ通決議セリ

- (1) 聯盟ノ加入條件(第三條)

民族自決權、各階級ノ平等、萬人ノ平等等ヲ確立スル爲ニ、資本主義國ノ帝國主義ニ向テ戰

フ決心ヲ有スル個人ハ凡テ本聯盟ノ會員タルヲ得

- (2) 聯盟ノ假執行委員會(第四條)
- 本國際大會ノ執行委員會ハ聯盟ノ假執行委員會ヲ構成シ聯盟ノ活動方針並會則ノ作成ニ任ズ
- (3) 書記局 (Bureau) (第六條)
- 本國際大會執行委員會ハ七名ノ書記ヨリ成ル書記局ヲ構成ス。即支那問題、印度問題及英國問題ノ重大ナルニ鑑ミ右七名ノ書記中一名ハ支那人、一名ハ印度人、一名ハ英國人タルヲ要ス
- (4) 書記局ノ所在地(第七條)
- 書記局ノ所在地ハ書記局之ヲ決定ス。但シ書記局ハ解放運動ノ中心ニシテ且ツ最モ反對ノ少キ場所ニ設置サル可シ
- (5) 書記局ノ宣傳方針
- 書記局ハ帝國主義諸國ノ壓迫ニ關スル資料ヲ蒐集スルト共ニ資本主義ノ中心地ニ於テ講演、檄文及示威運動等ニヨリテ勞働者並勤勞者間ニ宣傳シ彼等ヲシテ各種ノ解放運動ヲ援助セシム可シ
- (6) 支部 (Section) ノ設置(第十條)

書記局ハ帝國主義的壓迫ノ最モ甚シキ地方即チ羅典亞米利加、支那、印度、阿弗利加及埃及ニ其ノ支局ヲ設置ス可シ

右支部ハ本部ト聯絡シテ聯盟ノ爲メニ煽動並宣傳ニ任ス

- (7) 書記局ノ聯絡任務(第十一條)

右支部ノ組織サルル迄書記局ハ Hands off China, Hands off Russia, Comité pour la Syrie, Comité pour le Maroc, Ligue des Nations opprimées, Ligue anti-impérialiste pan-Américain 等ノ既成諸團體トノ聯絡ノ任ニ當ル可シ

- (8) 加入團體ノ分擔金(第十二條)

加入團體ハ一切ノ手段ヲ以テ聯盟ヲ支援シ、且其ノ會員ノ數並財政ノ貧富ニ應シテ毎年一定ノ金額ヲ聯盟ニ支拂フモノトス

- (9) 戰時ニ於ケル執行委員會ノ任務(第十四條)

民族解放運動禁壓ノ爲ニ帝國主義諸國ガ開戦スルノ危險アル場合ニハ執行委員會ハ被壓迫民族ヲ援助スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ決定スルノ權限ヲ有ス。開戦ノ急險迫レル場合ハ執行委員會ハ勞働者及農民ヲ包含スル一大民衆運動ヲ起ス爲ニ職業組合並各種ノ「インターナシヨ

ナルト提携スルノ権限ヲ有ス

(二) 聯盟書記局ノ構成員

聯盟ノ書記局ハ左ノ人員ニヨリ構成セラレ

- 獨逸 Willy Munzenberg, 補員 Gibart
- 英國 Lansbury, 補員 Bridgeman
- 白耳義 Dr. Marteaux
- 和蘭 Edo Fimmen
- 羅興亞米利加 Manuel Ugarte
- 墨人 Lamine Senghor
- 東印度諸島 Mohammed Hala
- 印度 Jawahar Lal Nehru
- 佛蘭西 補員 Henri Barbusse
- 米國 補員 Baldwin

聯盟ノ假執行委員會ハ次ノ人員ニヨリ構成セラレ

(英ハ前掲書記局員ヲ示ス)

- 獨逸 Alfons Goldschmidt 教授 Georges Lebedour-Theodor Lessing 教授
Willy Munzenberg(英)-Helen Stocker 女史
Bridgeman-Brookway-Davies-Pollitt.
- 英國 Henri Barbusse(英)-Duchexde 女史 Albert Fournier-Lamine Senghor
- 白耳義 Georges Gérard-Martaux(英)-Ch. Plisnier-P.H. Speak
- 和蘭 Edo Fimmen(英)-Henriette Rolandhorst
- 伊太利 Miglioli-Verrì
- 「チエニコスロヴァキヤ」 Nejedly 教授
- 埃及 Mohammed Hafiz Ramadan bey
- 北部阿弗利加 Messali
- 南部阿弗利加 Daniel Colraïne
- 波斯 Achmed Assadoff
- 東印度諸島 Mohammed Hala(英)
- 朝鮮 Kin Fa Ling

北米合衆國 Roger Baldwin(※)-Manuel Gomez.

聯盟ノ組織特別委員會 (Commission Spéciale d'Organisation) ノ會員ハ Barbusse, Nansen, Burald Schaw ノ三名之ニ任命サレタリ

第四節 帝國主義反對及民族獨立期成聯盟總委員會第一回會議

前述ノ如ク客年二月「ブラッセル」市ニ於テ開催セラレタル植民地壓迫及帝國主義反對國際大會ニ於テ任命セル帝國主義反對及民族獨立期成聯盟ノ假執行委員會ハ同三月「アムステルダム」、同八月「ケルン」、同十一月巴里ノ三回ノ會議ヲ開キタル結果、聯盟ノ總委員會 (Conseil Général) 第一回會議ヲ「ブラッセル」ニ於テ開催スルニ決シ、十二月九日ヨリ十一日迄「ブラッセル」市「グラン、ブラス」十六番地「メーゾン、フラマンド」ニ於テ開催セリ
今右會議模様ヲ見ルニ左ノ如シ

聯盟ノ各國ニ於ケル支部員並本會議ニ出席セル支部代表者ノ氏名左ノ如シ(註)

(註) Dトアルハ本會議ニ出席セル代表者ナリ

(1) 獨逸

Alphonse Goldschmidt (教授)

Hélène Stocker (博士)

Ernest Toller (文士)

Willi Munzenberg (D) (「モーブル」執行委員會委員、獨逸國會議員)

George Ledebour (獨逸國會議員)

Al. Tinsteen

I. Gibarti (D) (本聯盟書記長)

M. Hopplock (D) (國際婦人平和協會員)

Albert Einstein (教授)

Fritz Salzbacher dit Charik (本聯盟次席書記)

Arthur Muller Lehung (本聯盟ノ「シレシア」支部創立者)

Lessing (D) (教授)

(2) 白耳義

Albert Marceaux (D) (労働黨議員「ブラッセル」市會議員)

Ch. Plisnier (D) (「モーブル」白耳義支部長)

Pastels

Daback

Medert 「マキ、ラン、キム」員

Mme Marcelle Hequet (D) (戦争反対国際協会員)

Drieschaert, 「マキ、ラン、キム」員

(3) 露 國

Jacques Doriat (D) (共産黨議員)

Herlet (D) (統一労働者同盟會員)

Henri Barbusse 「キーンル」會員、本聯盟執行委員會委員

Albert Fournier (D) (巴里市會議員)

Jacques Ventadour (D) (本聯盟書記)

Mme Duchexde (D) (平和国際協會員、本聯盟執行委員會委員)

Lozray (D) (共産黨員)

André Berthon (D) (共産黨議員)

Professeur Challe (D) (「アンスタチュー」會員)

Victor Marguerite (女士)

Georges Pioch (女士)

(4) 英 國

Helen Crawford 「マキ、ラン、キム」會員

Robert Bridgeman (D) (本聯盟書記)

Ellen Wilkinson (D) (國會議員)

Selkiva (D) (國會議員)

James Maxton (國會議員、獨立労働黨總裁)

Fernar Brookway (獨立労働黨書記)

S.O. Davies (國會議員)

Stokes

Machennett

Rothstein (D) (共産黨員)

(5) 和 蘭

六八四

- Edo Fimmen (D) (國際運輸聯合書記長、國際勞働事務局議員勞資協調委員會員)
J. W. Kruij (D) (「メヂ、ラン、ボム」會員)
J. D. Lefebvre (D) (本聯盟和蘭支部員)
P. J. Schmidt (D) (本聯盟和蘭支部員)
Hans Hoch (流刑「インドネジャ」人救援委員會員)
S. J. Rutgers (D) (本聯盟和蘭支部員)

(6) 伊 太 利

- Guido Migliolo (D) (前國會議員)
di Vittorio
Pastore
Victor Verri (新聞記者)
Micians

(7) 愛 蘭

Donnell O'Donnoghive (D)

(8) 羅 馬 尼

Danieloff

(9) 波 蘭

Vachovieg

Molonche

Kliecke

(10) 西 班 牙

Samuel Ambronco

Quaniconi

Cleina Slahator

(11) 瑞 典

Carl Lindhaegen (下院議員「ストックホルム」市長)

(12) 「チエッコスロヴァキア」

六八五

Professeur Nejedly

(13) 西

Ed. Junod (土人保護委員會)

(14) 北美合衆國

Roger Baldwin (D) (本聯盟亞米利加支部員)

Scott Nearing (D) (本聯盟亞米利加支部員)

J. L. Engdahl (D) (本聯盟亞米利加支部員)

Manuel Gopez All (全米帝國主義反對聯盟會員)

Richard Noore (黑人大會員)

Professeur William Pickens (黑人大會員)

(15) 墨西哥

Diego Rivera (D) (本聯盟墨西哥支部員)

Salvador de la Plaza (D) (本聯盟墨西哥支部員)

Julio A. Mella (墨西哥勞動同盟員)

Zapata Vans

Edo Fimmen (D) (墨西哥勞動同盟員)

Liaz Figueroa (學生同盟會員)

C. Henrique (農民聯盟會員)

Ismael Martinez

José Vasconcelos (前國務大臣)

(16) 「アルゼンチン」

Vittorio Codenlia (D) (本聯盟「アルゼンチン」支部員)

Carlos Dambrosio

Manuel Ugarte (前上院議員)

(17) 「チホネメラ」

P. Lopez (D)

Gustave Morales

Gustave Pri Vookal

- Victei Renil Hayor
- Della Terre
- (18) 「ウルグアイ」
Simonet (D) (本聯盟「ウルグアイ」支部員)
- (19) 伯刺西爾
Villima
- (20) 玖馬
Leonardo Fernando
- P. Rubens Martinez
- (21) 「ギネイ、シオン」
Luis Casabona
- (22) 「ベナヤ」
Vitere Dallatorre
- (23) 「ニカラグア」

Adolfo Zonnore

- (24) 日 本
片山潛(D) (共産「インターナショナル」執行委員会幹部會員)
奥野野護(D)
- (25) 比 律 賓
A. Alminiano(?) (D) 「シカゴ、フィリピン」協會員)
- (26) 朝 鮮
Choi Kin (D)
Kin Fa Lin (D)
Li Kohn
Ji King Lyj
- (27) 印 度 支 那
Le Chin (D) (青年共産聯盟會員)
- (28) 支 那

- Li Houang Tchang (D) (勞動總同盟會員)
- Liao Hansin (D) (國民黨員、本聯盟執行委員會員)
- Eugen Chen (前廣東外交部長)
- Sun Yat Sen (未亡人)
- Li Pai Hing
- Len Hojeh
- Ou Pao Y
- Lin Ho
- Non Ku A Toheou
- (29) 蘭領東印度
- Lipanegara (D)
- Soedira (D)
- Abdul Manaf (D)
- Soemarto (D)

A. Semsceen

- (30) 英領印度
- Jawahar Lal Helru (D) (汎印度國民會議議長、本聯盟執行委員會員)
- Pundit Moti Lal Mehru (D) (「ヌムラシ」黨議長)
- Chattorad Hyanna (D) (在歐印度新聞記者聯盟員)
- Clemes Dutt (D).
- (31) 「ハ ヤ」
- Emir Chekib Arslan (D) (前土耳其國會議員)
- Mazhar Bey el Bakel
- Handar Nardan Bey
- (32) 「クンスタイン」
- Kubowitski (D) (猶太人共產主義労働者國際聯盟會員)
- (33) 波斯
- Suleiman Mirza (D) (波斯社會黨員)

Ahmed Assadoff (D) (共和革命黨員)

(34) 埃 及

Haribi (D)

Hohammed Hafiz Ramadan (埃及國民黨員)

Ibrahim Youssef

Abraham Thonlenef

(35) 南部阿弗利加

Gumene (D) (阿弗利加國民大會員)

J. A. La Gunna (D) (阿弗利加國民大會員)

I. Andrews

Daniel Colraime (「ノード、ユニオン」大會員)

(36) 北部阿弗利加

Chali Bey Mustapha (D)

Hadjali Abball Kadir

Chedei (D)

會議ニ提出サレタル報告並其ノ提出者ヲ見ルニ左ノ如シ

(1) 聯盟執行部ノ政策及組織ニ關スル報告

報告者「エド、フィンメン」及「ルイス、ギバルタイ」

(2) 支那ノ狀況

報告者 孫逸仙夫人及支那勞働組合代表者

(3) 殖民地人民及被壓制者ニ關スル報告

報告者 印度「バンディト、モタイタル、ネール」

「アラビア」、「エミル、シエキブ、アルスラン」

「ラティン、アメリカ」、「サルヴァドル、ド、ラ、ブラザ」

(4) 殖民地ニ於ケル帝國主義ノ恐怖政治

報告者 「スコット」、「アリング」(米國)

(5) 戦争ノ危険

報告者 「アンリー、バルビュス」

(6) 殖民地利用及帝國主義諸國ニ於ケル勞動組合

(7) 報告者 英國少數民族運動代表者

(1) 出席者検査委員會

(1) 總委員會ハ第一ニ出席者検査委員會ヲ任命シテ出席者カ果シテ權限ヲ有スル本人ナリヤ否ヤヲ検査セリ。其委員左ノ如シ

「ギバルテイ」

聯盟書記

「リヂェラ」

羅典亞米利加代表者

「フールニエ」

佛國支部代表者

右検査ハ極メテ嚴重ニ行ハレ且各會議毎ニ反復セラレタリ。尙各會議終了後數名ノ新聞記者ノ

(2) 出席ヲ許セリ。又重要ナル事項ハ祕密委員會ニ於テ議セラレタリ

(2) 代表者ニ對スル諮問事項

(1) 代表者ハ到着後直ニ左ノ事項ニ關スル諮問ヲ受ケタリ。

(4) 貴國ノ事情ニ關シ如何ナル書籍又ハ冊子ヲ入手シ得ルヤ、發行者ノ氏名及住所又ハ之ヲ入手スル方法

(ロ) 民族獨立運動ニ關スル組合、政黨又ハ團體如何

右諸團體書記ノ氏名及住所ヲ指示セラレタシ

(ハ) 殖民地ノ事情ニ精通シ且吾人ニ情報ヲ供給シ得ヘキ者ノ氏名及住所ヲ指示セラレタシ。又

右ノ者カ特ニ熟知セル問題如何

(ニ) 貴國ニ於ケル事件ノ發展ヲ速ニ國際事務局ニ通知スル最良ノ方法如何

(ホ) 本聯盟新聞部ノ資料ノ全部又ハ一部ヲ利用シ吳ルル貴國ノ主要新聞又ハ評論全部ノ一覽表ヲ提出セラレタシ

(1) 吾人ハ何國語ヲ以テ右資料ヲ送付スヘキヤ

(3) 開

(4) 會議ハ國際運輸聯合(「アムステルダム」)幹事「エド、フィンメン」ニ依リ開カレタリ。彼ハ有力ナル執行委員會タル「ラミーヌ、センゴール」(セネガル)及「モハマド、ハッタ」(インドネシア)ノ兩名カ一九二七年二月「バレー、デグモン」ノ會議ニ參加シタル爲夫々佛國及和蘭ニ於テ逮捕投獄セラレ今次總委員會ニ出席シ得サリシヲ遺憾トスル旨述ヘタリ。本會議ハ右兩名ニ對シ同情ノ電報ヲ送ルコト及佛、蘭兩政府ニ抗議スル旨決議セリ

(4) 決議委員會

「エド、フィンメン」、「ムンツェンベルグ」、「ポールドウィン」、「マダム、デュシェーヌ」ノ四名ヲ以テ決議委員會ヲ組織シ決議案及理由書ノ審査ニ任セリ。尙勞働者及「ブルジョア」諸新聞ニ對スル公表ハ凡テ本委員會之ヲ處理セリ

(5) 政治的決議

①「エド、フィンメン」ノ提出ニ係リ其ノ要旨左ノ如シ

- (イ) 二月ノ大會以來殖民地ニ於ケル帝國主義ノ政策ハ一層攻撃的ト爲レリ。民族獨立運動ハ「シリア」及「モロッコ」ニ於テハ佛國ニ依リ、「ニカラグア」及「羅典亞米利加」ニ於テハ米國ニ依リ「ジャヴァ」及「スマトラ」ニ於テハ和蘭ニ依リ支那ニ於テハ列強全部ニ依リ紛碎セラレタリ
- (ニ) 右事情ニ顧ミ聯盟ノ爲スヘキ所ハ帝國主義ノ攻撃ニ對スル國際的戰線ニ於テ自由ト民主々義トノ爲抗爭スル全勢力ヲ動員スル爲其ノ活動ヲ集中スルニ在リ
- (ロ) 右民族獨立運動ノ失敗ハ社會主義勞働者「インターナショナル」竝ニ國際勞働組合聯合ノ改良主義的社會民主主義的首領連ノ偽善的態度ニ主トシテ基因スルモノトス
- (ハ) 殖民地利用ハ資本主義的合理化ノ爲缺クヘカラサル手段トナリ右合理化ノ結果ハ本國勞働者

(三) ノ困難ヲ齎スヘシ

從テ聯盟ハ民衆ニ對シ右狀況ヲ明白ニ說示シ之ヲ驅リテ被壓迫者ト密接ニ協力シテ帝國主義ニ對スル真正ナル抗爭ヲ爲サシムルノ義務ヲ有ス

- (ハ) 聯盟ハ創設以來顯著ナル煽動及宣傳事業ヲ爲シタリ。其ノ呼號ハ諸殖民地ニ反響ヲ及ホシ且帝國主義諸國ニ於テ熱誠ナル同情ヲ獲得セリ

右結果ニ對シ組織ノ決定的形體ヲ與フルコト是レ即チ聯盟力最近ニ爲スヘキ所ナリ
支那ニ於テハ國民黨ハ帝國主義ニ味方セル封建的「ブルジョア」的分子ノ影響ニ依リ國際的革命ヲ裏切りタリ。印度ニ於テモ同様ノ現象ヲ豫期セサルヘカラス。故ニ聯盟ハ先ツ其ノ活動ノ基礎ヲ勞働者、農民及小「ブルジョア」ノ民主的民衆ニ置カサルベカラス

- (ニ) 聯盟ハ帝國主義諸國間ニ存スル特別利益ノ競争ヲ利用セサルヘカラス。聯盟ハ半殖民地諸國即チ中米及南米(例ヘハ「メキシコ」、「ニカラグア」)ヲ帝國主義諸國ノ攻撃ニ對スル反抗ニ於テ支持セサルヘカラス

- (ホ) 總委員會ハ強力ナル一ノ組織即チ帝國主義ノ世界的攻撃ニ對シ帝國主義的殖民諸國ノ戰闘的民衆諸團體ヲ包容スル聯盟ヲ創設スヘキコトヲ決議ス

(6) 組織問題ニ關スル決議

「スコット、ニアリング」ノ提出ニ係リ其ノ要旨左ノ如シ

(一) 組織ノ基礎

一切ノ政治的、組合的組織、一切ノ政黨及個人ニシテ資本主義及帝國主義ノ支配ニ對シ抗爭シ且一切ノ民族ノ自治權、一切ノ人民ノ民族的自由、一切ノ種族、階級及個人ノ權利ノ平等ヲ爲ニ戰フモノハ帝國主義反對及民族獨立期成同盟ニ參加スルコトヲ許サルヘシ

(二) 組織ノ計畫

(イ) 執行委員會ハ各殖民國及各資本主義國ニ於テ聯盟ノ政綱ヲ受諾シ且聯盟ニ參加セント欲スル一切ノ組織及一切ノ個人ヨリ成ル聯盟支部ヲ能フ限リ組織スル爲努力スヘシ

(ロ) 執行委員會ハ各國ニ於ケル特別ノ事情ヲ考量シ、一切ノ組織ノ聯盟ニ對スル參加ヲ達成スルニ努ムヘシ。聯盟ハ同時ニ新參加者アル毎ニ之ヲ各國支部ニ通報スヘシ

(ハ) 執行委員會ハ各國支部ノ會議若ハ大會ノ開催又ハ殖民地利用國ノ代表者及被利用殖民地ノ人民ノ參加スル會議ノ開催ヲ能フ限リ獎勵スヘシ

(三) 聯盟ヲ爲スヘキ事業

(イ) 執行委員會ハ帝國主義者ノ壓制及聯盟ノ活動ニ關スル情報ヲ頒布スル爲各種ノ國語ヲ以テ記セル報告書ヲ規則的ニ發行スヘシ

(ロ) 總委員會ハ聯盟月報發行ノ可能ナリヤ否ヤヲ研究スルノ權限ヲ執行委員會ニ付與ス。右月報ハ帝國主義各種ノ階級及政黨ノ態度、殖民地利用、殖民地獨立ノ爲ノ爭鬭等ニ關スル狀況ヲ報道スル雜誌タルヘシ

(ハ) 最も主要ナル帝國主義國就中英國、佛國及米國ニ於テ聯盟支部ヲ創設シ且之ヲ發展セシムルヲサルヘカラス。聯盟ノ主タル基礎ハ帝國主義ニ對スル抗爭ニ參加スヘキ傾向アル政黨、

本處支部、勞働組合、農民聯合及其ノ他ノ組織ノ參加ニ依リ確保セラレサルヘカラス

(ニ) 最後ニ聯盟支部ノ活動力ヲ確保シ、且帝國主義ニ對スル抗爭ヲ強力ナラシムル爲、右支部ハ分擔金ヲ負擔スル個人會員ヲ包容セサルヘカラス

(三) 殖民國ニ於テハ聯盟ハ該地人民ノ團體殊ニ勞働者及農民團體ノ參加ヲ達成スルニ努力ス

(イ) 聯盟中央事務局ハ一切ノ勞働組合殊ニ太平洋勞働組合聯合ノ參加ヲ達成スルニ努力スヘシ

(ロ) 執行委員會ハ一切ノ勞働組合殊ニ太平洋勞働組合聯合ノ參加ヲ達成スルニ努力スヘシ
(ハ) 一切ノ參加團體ハ聯盟及支部間ノ協定ニ從ヒ支部又ハ聯盟中央事務局ニ對シ分擔金ヲ支

拂フヘシ。支部ノ受領スル分擔金ト支部カ中史事務局ニ支拂フ分擔金トノ割合ハ各場合毎ニ執行委員會ト當該支部トノ協定ニ依リ定メラルヘシ。

(ト) 聯盟中央機關ハ有效ニ活動シ得ル書記局ノ創設ニ依リ一層強力ナラシメラレサルヘカラス。執行委員會ハ國際書記局ノ所在地トシテ最モ適當ナル場所ヲ決定スヘシ。執行委員會ハ書記局ノ活動ヲ一層強力ナラシムル方法ヲ研究スヘシ。

(7) 戦争ノ危険ニ關スル決議

本決議ノ目的ハ平和主義者反軍國主義者及戦争反對者ノ支援ヲ獲得セントスルニ在リ

(8) 第二「インターナショナル」反對ノ決議

社會主義「インターナショナル」ニ對シ反帝國主義及殖民地獨立期成運動支援ヲ要請セルモノナリ

(9) 支那ニ於ケル恐怖政治ノ支配ニ關スル決議

要目左ノ如シ

- (イ) 解放運動及壓制者
- (ロ) 新聞紙及支那

支那封建制度ニ依ル壓制

- (a) 南京ニ於ケル恐怖政治
 - (b) 廣東ニ於ケル恐怖政治
 - (c) 漢口ニ於ケル恐怖政治
 - (d) 北部支那ニ於ケル恐怖政治
- 帝國主義國ニ依ル壓制

- (a) 日 本
- (b) 英 國

(ハ) 外國ニ於ケル抗議

諸教授等ノ抗議書

- (a) 「フレル」(Forel)
- (b) 「アー、ゴールドシュミット」(A. Goldschmidt)
- (c) 帝國主義反對聯盟
- (d) 「ボアール、ゾイオン」聯合中央委員會

伯林市役所ニ於テ開催セラレタル會合ノ抗議決議

支那ニ於ケル恐怖政治反對ノ日本人ノ宣言書

「ベルリナー」、ターヂブラット」紙ノ拔萃

(10) 印度ニ關スル決議

印度自治研究會議委員會ノ設置ニ反對シ勞動黨ノ帝國主義政府ニ對シ與ヘタル支援ニ反對シ印度ニ於ケル憲法制定會議ノ開催等ヲ要求セルモノナリ

(11) 東印度諸島（「インドネシア」）ニ關スル決議

帝國主義反對聯盟副議長「ビー、ジェー、シュミット」（アムステルダム）ノ提案ニ係ルモノニシテ要旨左ノ如シ

獨立運動ノ慘酷ナル抑壓ニ對シ抗議シ最近ノ爭亂ヲ敘述シ和蘭ニ於テ行ハレタル學生ノ逮捕特ニ聯盟執行部員「モハメッド、ハッタ」ノ逮捕ニ抗議シ社會主義者辯護士カ東印度諸島ノ被告ヲ辯護シタル事實ヲ確認シ和蘭無産階級カ「ビルキム、ベナン、インドネシア」ノ參加シ居ル聯盟ノ和蘭支部ト共ニ「インドネシア」獨立運動ヲ支援センコトヲ要求シ、四千萬ノ土人カ結局僅少ノ白人利用者ニ對シ勝利ヲ獲得スヘキヲ信スト宣言ス

(12) 波斯社會黨及共和革命黨ノ決議

社會黨代表者「スレイマン、ミルザ」及共和革命黨ノ「アーメド、アサドフ」ニ依リ提案セラレタルモノニシテ要旨左ノ如シ

不平等條約ノ廢棄ヲ要求シ、資本主義者ノ利用殊ニ英波石油會社ノ工場及石油「コンセッション」ニ抗議シ英國代議士タル同盟ノ會員ノ支援ヲ要求ス

(13) 巴爾幹ニ於ケル被壓迫民族ノ狀況ニ關スル覺書

一九二七年八月二十二日—二十四日「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル第三回國際少數民族會議ニ對シ左記巴爾幹諸委員會ヨリ提出シタルモノナリ

「マセドニア」 C.R.I. M. Unifée

「アンバニア」 Libération de Corsovo Emancipation Nationale

「ドブレニア」 C.R.D.

(14) 「マセドニア」人ニ對スル要請

一九二七年十月「マセドニア」統一國內革命組織中央委員會ニヨリ發セラレタルモノナリ

(一) 十二月十日（土）公開會議（議長午前「ドクトル、マルトー」午後「エド、フィンメンヒ」）

白國社會黨代議士「ドクトル、マルト」開會ヲ宣シ且帝國主義反對聯盟ヲ以テ獨逸及「ポル
シエヴィスト」ノ企畫ニ係ルモノナリトノ攻撃ヲ論駁ス

波斯社會黨首領「スレイマン、ミルザ」ハ波斯ニ於ケル英國ノ脅威ヲ説明シ不平等條約ノ廢棄
祕密條約ニ對スル抗爭、外國資本主義ノ波斯労働者利用ニ對スル反對等ノ提議ヲ爲シ

朝鮮「ナシヨナリスト」首領 Chai Bin ハ朝鮮問題カ日本、支那、「ソヴィエト」聯邦及全世界ニト
リ重要ナルコトヲ説キ、朝鮮人ハ日本ノ帝國主義ニ對シ奮起シ居ルコト、及自分自身カ甚シキ壓
制ヲ受ケ居ルコトヲ述ヘ、且帝國主義反對聯盟ニ對シ大ナル期待ヲ有スルト共ニ朝鮮「ナシヨナ
リスト」ハ全力ヲ以テ聯盟ヲ援助スヘク、ソノ活動ヲ助長スル爲資金ヲ寄附スヘシト述ヘタリ。
片山潛ハ自身カ日本政府ト雖モ敢テ手ヲ觸レ得サル革命的ニ一大團體タル三百萬労働者及農民ノ
首領ナルコトヲ説明シ、涙ヲ流シテ朝鮮革命運動者ニ敬意ヲ表シ此ノ被壓制民族カ近キ將來ニ
於テ解放セラレンコトヲ希望スト結ヒ與謝野讓モ片山潛ノ聲明ニ贊同セリ

印度支那問題ニ付テハ先ツ印度支那代表「レイ」ハ印度支那開放ノタメノ奮闘ニ付テノ帝國主
義反對聯盟ノ策略ヲ説キ「フエリシアン、シャレイ」ハ安南ノ諸黨派ハ印度支那ニ於ケル佛國ノ壓
制ヲ撲滅スルカタメ互ニ平等ノ基礎ニ於テ合同スヘシト述ヘ、之ニ對シ米國ノ「ポールドウイ

ン」ハ一國ニ於テ二黨對立シ其ノ一カ帝國主義ノ味方ナル場合ニハ帝國主義反對聯盟ハソノ反
對ノ黨派ヲ援助スヘキモノナリト主張シ米國ノ「スコット、ニアリング」ハ委員會カ右問題ニ關
シ細密ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ要求セリ。英領印度問題ニ關テハ印度立法議會「スワラジ
スト」黨首領「ブンヂイ、モテイラル、ネール」ハ印度ノ「ナシヨナル、コングレス」ハ未タ帝國
主義反對聯盟ニ加入セサルモ聯盟ニ對シ資金寄附方ヲ決議シ又其ノ執行委員會ハ全會一致ヲ以
テ加入ヲ勸告シ「クリスマス」ノ「コングレス」ニハ加入決定セラルルニ至ルヘシト述ヘ、殖
民地壓制ニ對シ抗爭スル一切ノ黨派ハ聯盟ニ於テ團結セサル可ラス。吾人ハ印度ノ解放カ印度
人ノ事業タルヘキコトヲ知ルモ孤立ヲ欲セサル故ニ聯盟ト協力セムトスルモノナリト説キ、進
ンテ印度ニ於ケル英國ノ壓制状態及自由黨カ如何ニ「ヒンドウ」人民ヲ欺キタルカヲ敘述シ
又労働黨ハ政權ヲ握ルヤ、期待ヲ裏切りテ「ベンガル」令ヲ制定シ以テ理由ナク人民ヲ禁獄ス
ルヲ得シメ、労働黨員ハ印度ノ獨立ヲ欲セサル者ニ依リ構成セラルル委員會ニ參加シタリ。故
ニ「ヒンヅ」(少クモ議員ノ大多數)ハ最早労働黨ニ信頼スルコトナク同盟ノ活動ニ對シ期
待ヲナスト述ヘ「エレン、ウィルキンソン」ハ労働黨カ右政府委員會ニ參加シタル事情ヲ敘シテ
自黨ノ態度ヲ辯護スルト共ニ個人トシテ右委員會ニ反對ナリト述ヘ、「シヤブルジ、サクラトヴァ

ラシム。全世界ノ反動主義ハ英國ノ帝國主義ニ依リ支持セラレ而シテ英國ノ帝國主義ハ印度ノ利用ニ基礎ヲ置クカ故ニ「ヒンヅ」問題ハ極メテ重要ナリト主張シ、次テ共產黨ノ立場ヲ擁護シテ英帝國內ニハ何等ノ自由ナク印度ノ解放ハ被壓制民族共產黨及組織セラレタル無産階級ノ共同戦線ニ依リテノミ可能ナリト説キナリ。モタイラル、ネール」ハ右「サクラトヴァラ」ノ主張ニ答ヘテ自分ハ共產黨員ニ非ス、「ヒンヅ」共產黨ハ何等勢力ナキニ反シ印度ノ完全ナル獨立ヲ欲スル者ノ數ハ「コンングレス」内ニ於テ絶エス増加シツツアリ。自分ハ親シク露西亞内部ヲ觀察シ其ノ革命事業ヲ賞嘆スルモノナルモ印度ニ付テハ共產黨ノ命令ヲ受クルヲ欲セス、「ナシヨナル、コンングレス」カ目下起草中ノ新憲法ヲ採擇スル場合ニハ何レノ黨派カ之ヲナスト否トニ拘ハラス該憲法ヲ擁護スヘシト聲明セリ

「シリア」問題ニ關シテハ「シリア」代表「エミル、シキブ、アルスラン」ハ「シリア」ニ於ケル植民政策及戰禍ヲ説キ國際聯盟頼ムニ足ラサルヲ以テ歐洲ニ於ケル無産階級並ニソノ組織及黨派ニ期待スト述ヘタリ

(二) 十二月十一日(日)午後公開會議(議長最初「フエリシアン、シヤレイ」後「ドクトル、マルト」)「フエリシアン、シヤレイ」議長トシテ開會ヲ宣ス

「北アフリカノ星」(「エトアール、ノールアフリケース」)代表「シニドレイ」ハ北部「アフリカ」問題ヲ論シ、「アルゼリア」ニ於テハ土人法ハ「アルゼリア」人民ヲ壓制シ、新聞紙、結社及集會ノ何等ノ自由ナク組合權侵害サレ居ルヲ以テ帝國主義反對聯盟ハ差別待遇法令反對ノ抗議ヲ議會ニ對シ爲スヘキナリ。「テュニス」ニ於ケル制度ハ一層專制的ナルニヨリ聯盟ハ「テュニス」ノ諸團體ト協力シテ組合權ヲ獲得スルロトニ盡カスヘキナリ。「テュニス」ニ於テモ「アルゼリア」ニ於テモ既ニ國民運動存在ス。「モロッコ」テ於テハ種族極端ニ分歧シ居ル結果、未タ國民運動發生セス。本聯盟ハ「モロッコ」人ノ合同達成ニ助力スヘク佛國內ニ於テハ殖民地戰ノ爲メ宣傳ニ抗爭スルヲ要スト主張シ、佛國帝國主義ノ僞善ヲ攻撃シ社會黨ノ推奨スル同化政策ニ反對シテ「アラビア」文化ノ撲滅ヲ目的トスルモノナリト爲シ、唯獨リ共產黨ノミ國民運動ヲ支持シタリトシテ「モロッコ」戰爭ニ反對運動ヲ爲シタル爲投獄セラレタル闘士ノ爲大赦ヲ要求セリ

愛蘭問題ニ關シテハ愛蘭代表「ドンネル、オドンノグ」ハ國民主義ノ兩黨派ハ英國ノ壓制ニ對シテハ合同スヘシト確言セリ
支那問題ニ關シテハ支那ヨリ「ブラッセル」市ニ到達スルコトヲ得タル支那勞動總同盟代表「

Honany-Tehang、客年二月ノ「コンGRES」ノ際支那革命カ熱狂的歡迎ヲ受ケタル事實ヲ追懐シ、労働者ノ上海占領、蔣介石ノ反革命的變節、漢口國民黨右翼ノ變節ヲ説明シ、國民黨ハ去ル二月ニハ革命運動者ナリシモ今日ニ於テハ最早支那人民ヲ代表セス革命ヲ裏切リタリト爲シ國民黨、帝國主義者及社會黨ヲ以テ何等支那ノ革命ヲ支持セザリシモノト批難シ、反動主義ノ恐怖政策ニ拘ハラヌ支那ノ労働者及農民カ依然多大ノ革命力ヲ包持シ居ルコトヲ説キ、右事情ニ於テ聯盟カ支那ノ國民的革命ヲ裏切レル國民黨ト協力スヘキモノナリヤヲ問フト結ヘリ

片山潛ハ支那労働黨代表ノ演説ノ後ヲ受ケテ國民黨反對、共產黨及支那革命運動者支援方ヲ要請シ執行委員會ニ於ケル國民黨代表者タル Yuan Han-quin ハ國民黨ノ反革命的行動ヲ批難シテ此ノ新反動機關ト關係ヲ斷絶スト聲明セリ

次テ愛蘭問題ノ討議ニ還リ愛蘭代表ハ全愛蘭人民ハ獨立ヲ欲スル革命派ト一致シ居ルコト、共和派ノ軍隊ハ不正ニ組織セラレタルモノナルコト等ヲ述ヘ、英國共產黨ノ「ロードスタイン」ハ英國ノ労働運動ハ愛蘭人ノ獨立運動ヲ援助スヘシト確保セリ

最後ニ猶太労働黨代表「ブオレイ、シオン」ハ「ブレスタイナ」ニ於ケル農民及労働者ノ狀況ヲ説明シ「ゴルドシュミット」教授ハ戦争ノ危険ニ付報告シ、「エルクレ」ハ被壓制民族間ニ勞

働組合ヲ發展セシムルノ必要ヲ力説シ、「ギユメード」ハ南「アフリカ」ノ事情ヲ説明セリ

次テ委員會ノ起草セル諸決議案ノ票決ニ移リ決議全部採擇セラレタル後、「インターナショナル」歌ノ合唱ヲ以テ會議ヲ終レリ

尙會議中議長「マルト」ハ多數ノ「メツセージ」ヲ讀ミ上ケタルカ、其ノ中ニハ孫逸仙未亡人ヨリノ電報モアリタリ。右電報ハ被壓制民族ニ對シ支那ニ於ケル「ホワイト、テロアー」ニ抗議センコトヲ訴ヘ、且帝國主義國ノ軍隊カ支那ヨリ撤退セントヲ求メタルモノナリ

尙又公開ノ執行委員會會議ニ於テ聯盟ノ組織問題ヲ討議シタルカ「スコット、ニアリング」ノ提出シタル決議案全會一致ニテ採擇セラレタリ

又聯盟議長「ランズベク」辭職シタルヲ以テ労働黨ノ「ジエームス、マツクストン」ヲ議長ニ選ヒ印度ニ還ルコトト爲レル執行委員「ネール」ノ代リニ「サクラトヴァラ」ヲ該委員ニ選ヒ其ノ他補缺員トシテ「シエトリ」(北部「アフリカ」)及「リウエラ」ヲ又「センゴール」ノ代リニ「ユヂエシーヌ」夫人ヲ夫々選ヘリ

議長 「ジエームス、マツクストン」(労働黨代議士)

部員 「サクラトヴァラ」(印度)

「モハメッド、ハック」(インドネシア)
 「マダム、デュシェーヌ」(黒人種)
 「マンツニンベルグ」(獨逸)
 「マルトー」(白耳義)
 「マヌエル、ウガルテ」(ラティン、アメリカ)
 又聯盟委員「フインメン」(和蘭)
 Hans Liao (支那)
 補缺員 「ギバルティ」書記長 (獨逸)
 「ブリッヂマン」(英國)
 「ポールドウイン」(米國)
 「バルビュス」(佛國)
 「シエドリ」(北部「アフリカ」)
 「リヴェラ」(南部「アフリカ」)
 秘書漏洩ヲ避クル爲書記局ハ代表者大多數ノ投宿シタル「ホテル」ノ一室ニ設ケラレ、且該室ニ

ハ晝夜人員占據セリ。若干ノ代表者ハ警察ニ依リ追放セララルコトアルヘキヲ期待セリ。秘密會ノ目的ハ各種團體ノ首領ニ互ニ親シク接觸セシムルコト、組織問題ヲ整理スルコト、聯盟ノ策略及財政ヲ討議スルコト並ニ白耳義領「コンゴ」問題ヲ討議スルコト之ナリ
 前記第一項記載ノ歐米ノ大國及日本ニ於ケル支部ノ外、二十六ノ殖民國ニ於ケル支部存在シ又三十九ノ諸國團體之ニ參加シ居レリ
 各支部ハ分擔金ヲ支拂フモノニシテ國民黨、「インドネシア」「アフリカ」國民會議(黒人)「ソヴィエト」政府等亦然リ
 書記局ハ聯盟ノ資金ノ如何ニ多大ナルカニ關シ極メテ消極的態度ヲ示シ居ルモ、今次總委員會ニハ約六十名ノ代表者各國、殊ニ支那、印度支那、「インドネシア」、南部「アフリカ」、「アシダイユ」諸島等ヨリ集合シ其ノ旅費ハ聯盟ニ依リ補助セラレ居ルヲ以テ聯盟ハ必然的ニ莫大ノ秘密資金ヲ有スルモノト見サル可ラス

第十三章 「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會

Общество Другей России.

Société Amis de l'U.R.S.S.

Die Gesellschaft der Freunden der Sowjetunion.

第一節 「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會ノ成立

客年十一月莫斯科ニ於テ開催サレタル十月革命十週年記念祭ニ列席ノ爲メ莫斯科ニ集リタル各國ノ勞働代表ハ英國勞働代表ノ動議ニ基キ十一月十日「露西亞ノ友」大會ヲ開ク事トナリ、ソノ招集ノ件ハ各國勞働代表中ヨリ選ハレタル特別委員ニ一任セリ。其ノ委員長「メルニチヤンスキー」ノ語ル所ニ依レハ同大會ニ於テハ革命十ヶ年ニ於ケル露國ノ建設事業及戰爭ノ脅威等ヲ議題トセリ十日勞働組合會館ニ於テ開催セラレタル「露西亞ノ友」大會ニ世界四十三箇國知名ノ勞働運動者學者、文學者、美術家等九百四十七名ノ出席アリ、盛會ヲ極メタルカ最後ニ「露西亞ノ友」ノ會主席團トシテ六十五名ノ委員ヲ選舉セリ。内主ナル人々ハ左ノ通りニシテ秋田雨雀モ委員トナレリ

「スコット、ニヤリング」教授 (米國)

「アンリ、バルビュス」 (佛國)

「クララ、ツエトキン」女史 (獨逸)

「ファンノルリ」 (伊太利)

宋慶齡女史 (支那)

「クルプスカヤ」 (露國)

「ロゾフスキー」 (露國)

秋田雨雀 (日本)

「ドルイエフ」 (西藏)

十日ノ大會ニ於テ劈頭第一人民委員長「ルイコフ」ノ革命後十年間ノ施設ニ關スル報告演說アリ引續キ同施設並ニ戰爭ノ危險等ニ就テ各國代表等ノ間ニ討議行ハレタリ

「ルイコフ」ノ演說ノ要旨左ノ如シ

「ソヴィエト」聯邦政府カ大會ニ過去十年ノ施政ニツキ報告スル所以ノモノハ社會主義ノ建設カ單ニ「ソヴィエト」聯邦一國ノ勞働民衆ノ慶福ノミナラス全世界民衆ノ慶福ニ關スレハナリ。國家經濟ノ發達カ社會主義ニヨル方資本主義ニヨルヨリ迅速ナルコト過去十年ノ實績ニ見テ明カナリ。「ソヴィエト」聯邦今後ノ經濟政策ハ國家ノ工業化ニアリ。農村ヲ社會主義化スル爲ニハ小生産者ヲ「コロベラチヴ」化スル方針ナリ。最近二ヶ年「ソヴィエト」聯邦ノ經濟ハ改造及合理化ノ時代ニ入レルモ、七時間勞働制ヲ實施スルコトトシ、資本主義國ニ於ケルカ如ク合理化ヲ

労働者ノ勸定ニ於テ行フカ如キコトナシ、「ソヴィエト」聯邦ハ労働者ニヨリテ統治セラルルコト明カナリ。民主主義ナル文字カ成ル可ク多數ノ労働民衆ヲ國家ノ政治經濟ニ參加セシムルコトヲ意味スルモノナランニハ「ソヴィエト」聯邦程民主主義ノ國ナシ

「ソヴィエト」聯邦政府ハ「テロル」ヲ以テ政治ヲ行ハントスルモノニアラサルモ十月革命ノ目的達成ヲ妨害スルモノニ對シテハ壓迫ヲ加ヘサルヘカラス。民族問題ニ就テハ「ソヴィエト」聯邦ノ經濟組織ヲ統一的トナスモ退歩セル民族ニ對シテハ聯邦全體ヨリ援助ヲ與フルコトトスルト共ニ、民族的文化ノ自由ナル發達ヲ保障スル方針ナリ。外交政策トシテハ平和政策ヲ採リ外國ニ對シ保障條約ノ締結ヲ提議セリ。最近佛國及波蘭ニ對シ此ノ提議ヲ再ヒセリ。西歐ニ於テ「ソヴィエト」聯邦ノ所謂赤色帝國主義ヲ云々スルハ「ソヴィエト」聯邦ニ對スル戰爭ヲ準備スル口實ニ利用セントスルナリ。「ソヴィエト」聯邦ハ急進的軍縮ヲ提議スル爲軍縮會議ニ參加スルコトニ同意シタルモ諸國民ヲ瞞着セントスルカ如キ提議ニ反對スヘシ

最後ニ一言シタキハ「ソヴィエト」聯邦カ未タ完全ニ社會主義的社會ヲ實現シタルモノニアラサルコト是ナリ。社會主義的社會ノ完成ニハ今後更ニ一層ノ努力ヲ要ス之カ爲「ソヴィエト」聯邦ハ歐米各國労働者及農民ノ支持ヲ期待ス

「ルイコフ」ノ演説後戰爭ノ危險ニ對スル對策ニ關シ「ジニガー」(英)、「バルビュス」(佛)、「トムスキー」(露)ヨリ左記要旨ノ演説ヲナセリ

最近戰爭ノ危險益々濃厚トナレリ。然モ右戰爭ハ「ソヴィエト」聯邦反對ノ戰爭ナリ。英國ハ最も熱心ニ「ソヴィエト」聯邦ノ倒壊ヲ希望スル國ニシテ、「プロウオケーション」ヲ以テ「ソヴィエト」聯邦ヲ戰爭ノ渦中ニ投セントス。故ニ苟モ平和ヲ念トスル者ハ世界最初ノ労働共和國タル「ソヴィエト」聯邦ヲ戰爭ノ危險ヨリ擁護セサルヘカラス。而シテ戰爭ヲ防止スルニハ世界ノ職業運動ヲ統一セサルヘカラス

又大會ハ一ノ決議ヲナシタルカ其ノ要旨左ノ如シ

各國ノ労働民衆ハ社會主義ノ基礎ノ上ニ社會改造ニ着手セル「ソヴィエト」聯邦ノ労働者及農民ト團結シ、資本主義諸國カ破壊セントスル十月革命ノ成果ヲ擁護セサルヘカラス。「ソヴィエト」聯邦カ迅速ニ其ノ經濟ヲ振興シタル事實ハ社會主義ノ資本主義ニ勝サルコトヲ證ス

世界中「ソヴィエト」聯邦程労働民衆ノ慶福ヲ念トスル國ナシ。八時間労働制ヨリ七時間制ニ移ラントスルカ如キハ之ヲ證シテ餘リアリ。「ソヴィエト」聯邦ニ於テハ幼年時代ヨリ四海同胞、労働尊重、社會的公平ノ觀念ヲ養成シツツアリ。科學ト労働ノ眞ノ提携ハ「ソヴィエト」聯邦ノ

ミニ於テ之ヲ見ルコトヲ得。民主主義ヲ以テ大衆ノ國政參與ヲ意味スルモノトセハ、「ソヴイエト」聯邦程民主主義ナルハナシ。戦後幾多ノ平和條約ニヨリ壓迫セラレタル民族ニトリ「ソヴイエト」聯邦ハ文化ノ程度ヲ異ニスル幾多民族ヲ政治上經濟上、眞ニ對等ノ基礎ニ於テ結合スル模範ナリ。大會ハ「ソヴイエト」聯邦ニ對シテ熱烈ナル同情ヲ寄スルモノナリ。本大會參列者ハ須ク自國ニ於テ「ソヴイエト」聯邦ヲ擁護スルニ努ムヘク、又「ソヴイエト」聯邦ニ對スル戰爭ノ脅威ニ反對スヘク、軍縮會議ニ關聯シ「ソヴイエト」聯邦政府ノナス提議ヲ支持スヘク、被壓迫民族ニ支那ノ革命運動ヲ援助スヘク、職業同盟運動ヲ世界的ニ統一スル爲奮闘スヘキナリ又左記ノ檄文ヲ世界各國ノ同志ニ飛バスコトニ決セリ

「ソヴイエト」聯邦ヲ敵トスル戰爭ハ反革命ナリ。勞働民衆ニ對スル重大ナル犯罪ナリ。地主及資本主義ノ爲ノ戰爭ナリ。故ニ苟モ平和ヲ念トスル者ハ此ノ戰爭ニ反對スヘキナリ最近國際關係ハ益々逼迫シ來レリ。大會ハ列國ノ帝國主義的政策ヲ呪フノミナラス。全力ヲ盡シテ被壓迫民族殊ニ支那國民ヲ擁護スルノ必要ヲ認ム

國際聯盟ナルモノハ資本主義的大國ノ聯盟ニシテ、先ツ「ソヴイエト」聯邦ニ反對シテ社會主義ヲ顛覆セントスルモノナリ

百年前佛國大革命ニ際シ反動ノ棟梁タリシ英國ハ、今亦「ソヴイエト」聯邦ニ反對ナル神聖同盟ノ發頭人ナリ。英國ノ斷交通告、支那革命家ノ處刑、大使召還ニ關スル佛國ノ要求皆是レ「ソヴイエト」聯邦攻撃ノ危險アルコトヲ語ルモノナリ。今日迄戰爭ナカリシハ「ソヴイエト」聯邦カ平和政策ヲ持シテ動かサルカ爲ナリ。大會ハ「ソヴイエト」聯邦ノ平和政策ヲ歡迎スルモノナリ

大會ハ國際聯盟ノ召集ニ係ル軍縮會議ニ關聯シ、眞ノ平和及軍縮ヲ念トスル「ソヴイエト」聯邦政府ノ提議ニ贊同スヘシ。軍縮會議ハ大國カ「ソヴイエト」聯邦ヲ敵トスル軍備ヲ各自ノ間ニ協定セントスルモノナリ。故ニ苟モ帝國主義ニ反對ナル各人ハ國際聯盟ノ虛偽ヲ發ク爲「ソヴイエト」聯邦ヲ支持スヘキナリ

大會ハ「ソヴイエト」聯邦及支那革命ヲ擁護センコトヲ世界ニ檄ス

十一月十二日大會ハ「インターナショナル」合唱ノ裡ニ閉會セリ。尙本大會ニハ共產黨「ボリト、ビュロー」員「ブハーリン」及陸海軍人民委員「ヴオロシロフ」ノ演說アリ「ヴオロシロフ」ハ「クララ、ツェントキン」(獨逸人女)「アンドレー、マルチ」(佛國人但シ本人ハ缺席)、「マクス、ゲルツ」(獨逸人但シ本人ハ缺席)、「ジヤン、サデウール」(佛國人)、「ベラ、クン」(洪牙利)「チャン、ゴ、タオ」(支那人但シ本人缺席)「ランツツキー」(波蘭人但シ本人缺席)ノ七名ニ對シ

赤旗勳章ヲ授ケ同人等カ「ソヴィエト」聯邦ニ對スル功績ヲ表彰セリ

尙邦人ニシテ「ソヴィエト」聯邦側今回ノ招請ニ應シ十月革命十週年紀念祭ニ參列シ本大會ニ參加セルハ秋田雨雀、米川正夫、尾瀬敬止ノ三名ニシテ秋田雨雀ハ大會議長席ニ選舉セラレタリ
「ソヴィエト」聯邦ハ本大會ノ外十月革命十週年紀念祭ニ參列セル外國人ヲ以テ職業別ニ「プロレタリア」文士世界大會、農民大會、青年露西亞ノ友大會等ヲ催シ宣傳ニ努メ居ルモノノ如シ

第三節 「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會第一回會議

「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會第一回會議ハ五月二十七日午前十一時「ローサー」(「サヴェイト」聯邦友ノ會「イギリス」支部書記、獨立労働黨々員)司合ノ下ニ開會シタリ
出席代表者ハ左ノ如シ。

英國(労働黨員三名、共產主義者二名)、佛國四名(社會黨員一、共產主義者三)、白耳義一名(労働黨)、瑞西一名(瑞西共產黨)、「チエッコ、スロヴァキア」一名(「チエッコ、スロヴァキア」共產黨)、埃太利二名(埃太利共產黨一、社會民主黨脫黨者一)、獨逸十三名(獨逸共產黨五、獨逸社會黨六名「クリスチャン」社會主義一)、其他労働者救援「インターナショナル」ノ代表者、「帝國主義反對聯盟」ノ代表者及多數ノ來賓。議長ハ「ローサー」(英國)「カンノンヌ」(佛國CGT)及ビ「ズイ

ウエルト(獨逸)。議長ハ「ソヴィエト」労働組合ノ代表者ガ旅行許可ノ拒絕ニ逢ヒタルコトヲ大ニ憤激シテ報告セリ。右ニ對スル抗議ノ決議採用サレタリ

最初ノ議事項目ハ「帝國主義戰爭ノ危險」ニシテ其ノ報告ニシテ「オットー、ローサー」ハ大要左ノ如キ演說ヲ試ミタリ

帝國主義戰爭ノ危險、就中「ソヴィエト」ノ聯邦ニ對スル戰爭ノ危險ハ、半年前莫斯科ニ開催セラレタル大會以來、何等ノ緩和ヲ見サルノミナラズ却ツテ増大セリ、帝國主義列強ハ今ヤ全力ヲ擧ゲテ、假令即時ニハ非ストスルモ早晚「ソヴィエト」聯邦ニ對シテ開戦ス可ク着々トシテ急キツツアリ。英國帝國主義ハ全力ヲ擧ケテ獨逸ヲ反「ソヴィエト」「プロツク」中ニ誘引セント努力シツ、アリ。此企圖ノ實現ガ何處マデ進捗シ居ルヤハ「ヴィクトル、シシッフ」カ「フールウエルツ」誌上ノ論文ニ於テ、「ボアンカレー」ノ「平和主義」ヲ禮讚シ居ルヲ見バ判然タル可シ。「ケロツグ」ノ「戰爭絶滅」ノ提唱ハ「チエムパーレエン」ニ快ヨク「支持」サレタリ。而シテ「チエムパーレエン」ハ右ニ對スル回答ニ條件ヲ附シタルガ、ソハ明カニ彼ガ此ノ提唱ヲ「ソヴィエト」聯邦ニ對スル戰爭ノ準備及英國植民地支配ノ鞏固化ノ手段ニ變ヘントスル底心アルヲ示スモノナリ。英國ノ植民地施設政ニ對スル凡ユル干涉ヲ強硬ニ拒絕シツツ、「チエムパーレエン」ハ次ノ如キ提唱ヲ

ナセリ。戦争絶滅ノ條約ハ凡テノ國ヲ包含スルモノニ非ス況ンヤ一般ノ承認ニ於テオヤ、又「其ノ國內ノ秩序」ノ維持ニ何等ノ保證モ與ヘ得サルガ如キ國ニ於テハ云フヲ待タス。彼ノ指ス所ハ云フ迄モナク「ソヴィエト」聯邦ト支那ナリ

英國主義ハ支那ニ於ケル反動的革命ノ軍事的支持ヲ繼續シツツアリ。英國ハ苛酷ナル方法ヲ用テ印度ノ鐵道従業員及ビ紡績労働者ノ闘争ヲ抑壓セリ。「ボムベ」ノ紡績労働者ハ七名モ虐殺サレタリ

「ドネツ」盆地ニ於ケル反革命的陰謀ノ發覺ハ波蘭、獨逸及他ノ「ブルジョア」等ノ社會主義的建設ニ對スル陰謀ヲ現ハスモノナリ

英國ノ帝國主義ハ「ムツソリニー」ト條約ヲ締結セリ。然レトモ、ソハ伊太利ガ世界戦争ノ結果各國ノ略奪セル植民地一部分ヲ要來シ居ルモノナルコトヲ何等隱スモノニ非ス。地中海ヲ繞ル闘争ノ激化ヤ其ノ他ノ事實ハ、帝國主義者間ノ戦争ノ危機増大シツツアルヲ示スモノナリ

「ソヴィエト」聯邦ハ熱烈ニ又正當ニ平和ヲ欲スル唯一ノ國家ナリ。是ハ壽府ニ於ケル「リトヴィノフ」ノ態度ニモ示サレタル處ナリ。「ソヴィエト」聯邦ニ於テハ、七時間労働制ヲ計畫的ニ遂行シ、労働者階級ノ生活標準ヲ向上セシムル度ニ労働合理化ノ凡ユル方策ヲ講シツアルニ反シ、

他ノ國々ニ於テハ労働者階級ノ生活ニ對スル攻撃ガ日一日ト強烈ニナリツツアリ。「ワシントン」條約ハ今日ニ於テハ最早一片ノ紙屑ニ過キス

斯カル状態ノ下ニ於テ、英國労働組合ノ指導者ハ、自國ノ「ブルジョアジー」トノミナラズ、國際「ブルジョアジー」トノ協調ノ舉ニ出デタリ

「ソヴィエト」聯邦ハ全世界ノ被壓迫者及労働者ノ解放ノ爲闘争ヲ續行シツツアリ。故ニ全世界ノ労働者ハ全力ヲ舉ケテ資本主義ノ犯罪的諸勢力ニ對シ、又帝國主義的戦争ニ對シ、「ソヴィエト」聯邦ノ包圍ト支那及植民地ニ對スル帝國主義的壓迫ニ對シ、慘忍ナル「ファスシズム」ニ對シ闘争セサル可ラス。又闘争スルモノト信セラル。且「ソヴィエト」聯邦、即チ一切ノ労働者ノ祖國、平和ト社會主義ノ祖國タル「ソヴィエト」聯邦ノ防衛ノ爲ノ闘争ヲ行フコト、信セラル。云々

次デ「カンノンヌ」(佛國委員會書記)ハ立チテ大要左ノ演説ヲ試タリ

「ソヴィエト」聯邦ニ對スル佛國帝國主義ノ態度ハ、最近本質的變化ヲ來セリ。從來佛國ハ動搖シツツアリシカ、最近ハ反「ソヴィエト」「プロツク」ノ最モ狂暴ナル闘士トナレリ。佛國ガ「ソヴィエト」聯邦ニ對スル戦争ニ參加スル危険ハ異狀ニ増大シツツアリ。從來ノ駐佛英國大使ヲヤメサセ之ニ代フルニ有名ナル「ソヴィエト」憎惡者ヲ以テシタルコト、佛國ノ銀行ガ「ソヴィエト」聯邦

ニ對シテ送金ヲ請求シタルコト、社會民主主義者ノ援助ヲ得テ反動的選舉方法ヲ作出セルコト、此等ハ「ソヴィエト」攻撃ガ蓋シ露骨ニナレルコトヲ如實ニ語ルモノナリ。更ニ又佛國社會黨ヨリハ、戰爭反對闘争ニ對スル最少ノ支持ヲモ期待スルヲ得ス。否全ク斯反對ナリ。彼等ハ「ソヴィエト」聯邦十週年紀念祭ニ參加セル代表者ヲ盡ク除名セリ。改良主義的勞働組合ハ、「ブルジョア」國家公認ノ機關タラントシツツアリ。又一方ニ於テ、「ソヴィエト」ハ佛國共產黨及「ソヴィエト」聯邦ニ對シテ益々猛烈ニ攻撃ノ矢ヲ向ケツツアリ。「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會」ノ組織ハ未ダ弱シ。然レトモ「ソヴィエト」聯邦ニ向テ朝宗スル國際勞働者ノ階級的同志的感情ハ此ノ「友ノ會」ニ輝ケル將來ヲ約束スルモノナリ。次デ埃國代表「ツイグラール」ハ左ノ演說ヲナセリ。埃國利ノ外交政策ハ益々強烈ニ英國帝國主義ノ影響ヲ受ケツツアリ。殊ニ彼ノ「ベラ、クン」ノ逮捕ハ、埃國利政府ガ國際的規模ニ於テ殺人的役割ヲ果シツツアルコトヲ示スモノナリ。斯クテ吾人ハ同志「ベラ、クン」ヲ埃國利官憲ノ毒爪ヨリ救ハサル可ラズ。來ルベキ戰爭ニ際シテハ、中立的態度ハ世界帝國主義ニ對スル支持ヲ意味ス。吾人ハ決シテ廣汎ナル勞働者大衆ニ對シテ平和主義的幻想ノ欺瞞ヲ投ス可ラス。

平和ト「ソヴィエト」聯邦トノ最善ノ保證ノ爲ニハ、國際勞働組合運動ノ統一必要ナリ。而シテツノ爲ニハ勞働者ノ急進化ガ前提條件ナリ。然レトモ此ノ統一ハ戰闘的統一ナラサル可ラズ。スカル眞實ノ統一ニ依リテノミ「ブルジョア」ヲ克スルヲ得可ケレハナリ。廣汎ナル大衆ノ間ニ存在スル統一ヘノ欲求ニ對シテ一ノ根本原則ヲ與ヘサル可ラズ。今日迄爲シ來リタルモノハ未ダ十分ト云フヲ得ス。斯カル根本原則トハ國際的會議ニ於テ凡テノ自由ナル勞働組合ノ參加ノ下ニ、又過去ニ於テ廣汎ニ互リテ爲サレタル些少ナル變事ヲ通ジテノミヨク大衆ニ近ヅキ得ルコト是レナリ而シテ黨ハ其ノ豫備段階トシテ、露國瑞典坑夫委員會ノ如キ種類ノ國際的委員會ヲ創設スベキナリ。云々

次ヲ起レル討論ニ於テ「クリツク」(「マンチスター」勞働組合評議會々長)ハ次ノ如ク述フル處アリタリ

革命的勞働組合ノ統一ハ戰爭ノ危機ニ對スル闘争ノ前提ナリ。故ニ英吉利ガ「ソヴィエト」聯邦ニ對シテ戰爭ヲ開始スル際ニハ、英吉利ノ運輸事業ヲ停止セシムルニ努メサル可ラス。然レトモ是ハ廣汎ナル大衆ガ吾人ノ背後ニアル時ニ於テノミ可能ナリ。英露委員會ハ總評議會ニ依テ「サボターージュ」サレ、遂ニハ分裂ノ破目ニ陥ルルヲ以テ僅カノ成果ヲ舉ゲ得タルニ過ギズ。ソレニモ

拘ハラズ、英吉利ニ於ケル統一運動ハ強烈ニ増大シツツアリ云々
 「トブラー」(瑞西)ハ、「バーゼル」ノ經驗ヲ引用シテ、「バーゼル」ニ於テ改良主義者ハ最モ陋劣ナル勞働組合ノ破壊ヲ策シツツアリ、勞働組合統一ノ爲ノ鬭争ハ決シテ前記原則ノ放棄ヲ意味スルモノニ非サル旨力説セリ

討論ノ終結後、戦争ノ危機ニ對スル抗争ノ決議、就中「ソヴィエト」聯邦ノ友ノ會」ノ委員會ノ設立及同委員會ヲ「ソヴィエト」聯邦防衛ノ國際的同盟ニ結集スルコト等ヲ決議セリ。此ノ決議ハ滿場一致可決セラレ、勞働組合統一ニ關スル決議ハ一名ノ反對投票(白耳義ノ代表者)ヲ以テ採用セラレタリ。同時ニ二名ノ英吉利人及ビ佛蘭西、獨逸ノ各一名ノ代表者ヨリナル國際局ヲ創設スルコト滿場一致ヲ以テ決議決サレタリ

最後ノ議事預目トシテ「ルツシイ」ハ「フアスシズム」ニ關スル報告ヲナセリ。「フアスシスト」ノ伊太利ハ帝國主義戦争ノ最モ危險ナル根源地ナリ伊太利ハ時々、海軍大演習ヲ地中海ニ於テ舉行ス。六千人以上ノ「プロレタリア」囚徒ハ獄屋ニ呻吟シツツアリ。多クノ同志ハ、十三度獄屋ニ虐殺セラレタリ。半殺シノ目ニ遣ヘル者ハ百名以上ニ達セリ。此ノ目的ノ爲ニ、特別ノ執行機關設置サレタル程ナリ「バルビュス」指導下ノ委員ハ次ノコトヲ摘發セリ。即チ「ムツゾリーニ」

指揮下ノ「ミラー」官憲ハ、共產主義者虐殺ノ計畫ヲ豫知シ居タルニ拘ハラズ、何等之ヲ防止スルノ舉ニ出デサリキ。最近三ヶ月間ニ於テ過去二千年間ニ行ハレタル刑罰以上ノ刑罰課セラレタリ。明日ハ羅馬ニ於テ、十三人ノ共產主義者ニ對スル大裁判行ハル、管ナリ。伊太利共產黨指導者ノ虐殺吾人ハ凡ユル手段ヲ盡シテ之ヲ防止サル可ラス

最後ニ「ルツシイ」滿堂ノ代表者ニ向ツテ、國際的規模ニ於テ創設セラレタル「フアスシズム」ニ對スル鬭争委員會」ノ活動ニ最モ熱烈ニ參加スルコトヲ要求セリ

斯クノ如クニシテ「フアスシズム」ニ對スル決議ヲ滿場一致ヲ以テ採擇シタル後「インターナショナル」歌ノ合唱ヲ以テ閉會セリ

「ソビエト」の合併を以て開会す。

議長の演説は、ソビエト連邦の発展と、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の「ソビエト」の発展を促進する。また、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。

議長の演説は、ソビエト連邦の発展と、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。また、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。

議長の演説は、ソビエト連邦の発展と、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。また、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。

議長の演説は、ソビエト連邦の発展と、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。また、東欧の諸国との緊密な関係を強調し、ソビエト連邦の発展を促進する。

(附)

共産インターナショナル第五回大會委員會表

(一) 「ソビエト」主義ニ關スル決議委員會

1. Union der SSR: Sinowjew, Bucharin, Kamenev, Stalin.
2. Deutschland: Thälmann, Ruth Fischer.
3. Frankreich: Treint.
4. Italien: Terracini, Rienzi.
5. Tschechoslowakei: Neurath, Muna.
6. England: Murphy.
7. Bulgarien: Kolarow.
8. Polen: Krajewski.
9. Ukraina: Hopper.
10. Finnland: Manner.
11. Norwegen: Hansen.
12. Vereinigte Staaten: Pepper.
13. Jugendinternationale: Tarchanow, Lothar.
14. Persönlich: Zetkin, Alpari, Bela Kun, Max Lewin.

(11) 國際聯盟

Vorsitzender: Sinowjew.

Sekretäre: Neurath, Thälmann.

1. Union der SSR: Sinowjew, Bucharin, Stalin, Trotzki, Manuilski; Kandidat: Losowski.
2. Deutschland: Thälmann, Ruth Fischer, Freimuth, Sommer, Vater, Sonntag.
3. Frankreich: Sellier, Treint, Doriot, Jerram.
4. Italien: Bordiga, Rienzi, Ercoli.
5. Tschechoslowakei: Smeral, Muna, Neurath.
6. England: Mae Manus, Stewart, Wilson.
7. Bulgarien: Kolarow, Dimitrow.
8. Jugoslawien: Marinowitsch.
9. Rumänien: Buzureano.
10. Polen: Warski, Grzegorzewski; Kandidat: Walecki.
11. Finnland: Kuusinen; Stellvertreter: Manner.
12. Schweden: Samuelson, Molander.
13. Norwegen: Scheffo, Hansen.
14. Holland: Wynkoop.

15. Ver. Staaten: Dunne, Olgin, Pepper.
16. Japan: Katayama.
17. Indien: Roy.
18. Spanien: Acevedo.
19. Argentinien: Contreras.
20. Mexiko: Wolfe.
21. Jugendinternationale: Schüller, Wujowitsch, Tarchanow.
22. Portugal: Humbert-Droz.
23. Persönlich: Varga, Radek, Bela Kun.

(11) 國際聯盟

Vorsitzender: Bucharin.

1. Sekr.: Thalheimer.

2. Sekr.: Sairner.

1. Union der SSR: Sinowjew, Bucharin, Stalin, Martynow, Trotzki; Kandidaten: Sokolnikow, Babnow.
2. Deutschland: Thälmann, Stein, Feldmann, Ruth Fischer.
3. Frankreich: Souvarine, Treint, Dunois, Doriot, Sellier.
4. Italien: Bordiga, Ercoli, Rienzi, Serrati.

5. Tschechoslowakei : Smeral, Muna, Kreibich.
 6. England : Mac Manus, Murphy.
 7. Bulgarien : Kolarow.
 8. Polen : Warski, Kostschewa ; Kandidat : Brandt.
 9. Finnland : Kuusinen, Laukki.
 10. Schweden : Höglund.
 11. Norwegen : Hansen.
 12. Österreich : Strasser.
 13. Vereinigte Staaten : Dunne, Pepper.
 14. Japan : Katayama.
 15. Indien : Roy.
 16. Mexiko : Stirner.
 17. Jugendinternationale : Schüller, Tarehanow, Willi.
Persönlich : Clara Zetkin, Radek, Thalheimer, Varga, Bela Kun.
- (四) 國際聯盟
- Vorsitzender : Geschke.
Sekretär : Piatnitzki.
1. Union der SSR : Andrejew, Kuusinen, Piatnitzki, Krupskaja, Mitzkewitsch-

- Kapsukas, Manniski.
Kandidaten : Bucharin, Guralski, Selinski, Unschlicht, Schmidt, Bela Kun.
2. Deutschland : Frühling, Kunz, Kandl, Leaner.
 3. Frankreich : Costes, Fossecave, Sellier, Chassaigne.
 4. Italien : Rossi, Terracini, Piccini, Maria.
 5. Tschechoslowakei : Muna, Kohn, Kretschek, Kreutz.
 6. England : Larkin, Stewart.
 7. Bulgarien : Kolarow, Dimitrow.
 8. Jugoslawien : Senko.
 9. Rumänien : Georgescu.
 10. Griechenland : Poluoulos.
 11. Polen : Krajewsky, Skulski ; Stellvertreter ; Pruchniak.
 12. Finnland : Salminen ; Kandidat : Laukki.
 13. Estland : Rjastas.
 14. Litauen : Petrowski.
 15. Schweden : Svanson, Samuelson.
 16. Norwegen : Eriksen.
 17. Dänemark : Laurssen.

18. Holland : De Visser.
19. Schweiz : Scherrer.
20. Österreich : Fiala.
21. Vereinigte Staaten : Johnson, Edward.
22. Kanada : Buck.
23. Australien : Montefiore.
24. Java : Sarnoen; Stellvertreter : Josef.
25. Spanien : Rojas.
26. Argentinien : Contreras.
27. Mexiko : Wolfe.
28. Brasilien : Cohnino.
29. Georgien : Zhakaja.
30. Jugendinternationale : Gyptner, Zetlin, Schüller, Milganow.

(H) 秘書部委員

Vorsitzender : Losowski.

1. Sekretär : Herzog; Stellvertreter : Bär.
2. Sekretär : Rubinstein.
1. Union der SSR : Andrejew, Schmidt, Losowski, Leppe, Dogadow.

2. Deutschland : Gesehke, Peters, Hamburger, Heinz, Daniel.
3. Frankreich : Gourdeaux, Semard, Rainaud.
4. Italien : Ferri, Bini, Vinci.
5. Tschechoslowakei : Kohn, Wunsch, Bukatsch.
6. England : Joy, Murphy.
7. Bulgarien : Dimitrow.
8. Jugoslawien : Lasitsch.
9. Rumänien : Buzureanu.
10. Griechenland : Maximos.
11. Polen : Redens, Stefanaki.
12. Ukraina : Hopner.
13. Finnland : Palm; Kandidat :
14. Estland : Miand.
15. Litauen : Petrowski.
16. Schweden : Walberg.
17. Norwegen : Mausset.
18. Dänemark : Thøgersen
19. Holland : De Visser

20. Schweiz : Kündig.
21. Österreich : Ketzlich.
22. Vereinigte Staaten : Dunne, Philipps.
23. Kanada : Buck.
24. Japan : Katayama.
25. Java : Semoen; Stellvertreter : Josef.
26. Spanien : Rojas.
27. Argentinien : Contreras.
28. Mexiko : Wolfe.
29. Brasilien : Cohlino.
30. Belgien : Jacquemotte.
31. Ägypten : Said Suliman.
32. Georgien : Iesehawa.
33. Jugendinternationale : Zelin, Doroit, Barnatter.
34. Portugal : Humbert-Droz.
35. Türkei : Assis.

(六) 職員名簿

Vorsitzender : Kolarow.

1. Sekretär : Schneider.
2. Sekretär : Kornavin (verhaftet).
3. Sekretär : Kornblum.
1. Union der SSR. : Kalinin, Jakowlew, Jakowenko; Kandidaten : Faisuma-Chodschajew, Chodsanow.
2. Deutschland : Frühling, Mittwoch.
3. Frankreich : Ramet, Costes, Cornavin (verhaftet).
Französische Kolonien : Ferrand.
4. Italien : Bordiga, Ferri.
5. Tschechoslowakei : Dobrowolny, Kulen.
6. England : Larkin.
7. Bulgarien : Kolarow, Girgitow.
8. Jugoslawien : Schumenkowitsch.
9. Rumänien : Popescu.
10. Polen : Kostschewa, Stepansk; Stellvertreter : Walecki.
11. Ukraina : Schlichter, Ivanow.
12. Finnland : Mannen, Lehtinen.

13. Estland :
 14. Lettland : } Schutzika. ПРОТ.
 15. Lettland : }
 16. Schweden : }
 17. Norwegen : } Scheffo.
 18. Dänemark : }
 19. Vereinigte Staaten : Amter, Edwards.
 20. Kanada : Buok.
 21. Java : Semsoen ; Stellvertreter : Josef.
 22. Argentinien : Conteras.
 23. Mexiko : Walf.
 24. Brasilien : Coghine.
 25. Ägypten : Said Suliman.
 26. Jugendinternationale : Zetlin, Rossen.
 27. Spanien : Alonzo.
 28. Portugal : Humbert-Droz.
 29. China : Wal-now.
 30. Fürkei : Dschewad.

(七) 民族國際婦女國際聯合會

Persönlich : Smirnow, Dombal, Varga, Kornblum, Theodorowitsch.

Vorsitzender : Manniski ; Stellvert. : Rwal.

Sekretär : Kreibich.

1. Union der SSR : Manniski, Raskolnikow, Urasbejewa ; Kandidaten : Nikojam, Zehkekaja.
2. Deutschland : Sommer, Grün, Peters.
3. Frankreich : Ferrand, Bourlois, Gautier.
4. Italien : Rossi, Piccini.
5. Tschechoslowakei : Wertschik, Kreibich, Dobrowolny.
6. England : Mac Manus, Douglas.
7. Bulgarien : Kolarow, Dimitrow.
8. Jugoslawien : Boschkowitsch, Senko.
9. Rumänien : Georgescu, Popescu.
10. Griechenland : Maximos.
11. Polen : Skulski, Salzki, Dunajewski.
12. Ukraina : Skripiuk, Schumski.
13. Finnland : Lehtinen.

- 14. Esland: }
- 15. Lettland: } Rjastas.
- 16. Litauen: }
- 17. Holland: Wynkoop.
- 18. Vereinigte Staaten: Dunne, Carlson.
- 19. Kanada: Bruce.
- 20. Australien: Montefiore.
- 21. Indien: Roy.
- 22. Java: Semoen; Stellvertreter: Josef.
- 23. Spanien: Perez-Solis.
- 24. Mexiko: Wolfe.
- 25. Brasilien: Cothino.
- 26. Ägypten: Said Suliman.
- 27. Türkei: Chalnin.
- 28. China: Wah-now, Petrov.
- 29. Mongolei: Chazoba.
- 30. Jugendinternationale: Schlapin, Rust, Proletarier, Hirschel.
- 31. Korea: Kim-In.

32. Japan: Hanada.

(八) 宣傳委員會

Vorsitzender: Bela Kun.

1. Sekretär: Sonntag.

2. Sekretär: Heinz.

1. Union der SSR: Kun, Syrzow, Bunaschni, Bubnow.
Kandidaten: Kanatschikow, Selinski, Guralaki.

2. Deutschland: Kern, Bergmann, Held.

3. Frankreich: Marannee, Gotes, Schott.

4. Italien: Ercoli, Vinci.

5. Tschechoslowakei: Kreibich, Dobrowolny, Vertschik.

6. England: Robinson, Stewart.

7. Bulgarien: Dimitrow.

8. Jugoslawien: Boschkovitsch.

9. Polen: Walecki, Krajewski; Stellverteter: Grschagoschewski.

10. Ukraina: Hopner.

11. Finnland: Hanson; Stellvertreter: Sirola.

12. Schweden: Svenson.

- 13. Norwegen : Otkar Lie.
- 14. Dänemark : Thøgeron.
- 15. Holland : De Visser.
- 16. Schweiz : Bringolf.
- 17. Österreich : Riess.
- 18. Vereinigte Staaten : Edwards, Olgin.
- 19. Kanada : Bruce.
- 20. Australien : Montefore.
- 21. Java : Semsoen ; Stellvertreter : Josef.
- 22. Spanien : Acevedo, Perez-Solis.
- 23. Argentinien : Contreras.
- 24. Mexiko : Wolfe.
- 25. Brasilien : Cochino.
- 26. Ägypten : Said Suliman.
- 27. Georgien : Kachinni.
- 28. Jugendinternationale : Unger, Vretling.
- 29. China : Petrov.
- 30. Türkei : Favi.

(八)

31. Japan : Tani.

(九) 婦人委員會

- Vorsitzender : Zetkin.
- Sekretärin : Nikolajewa.
- 1. Union der SSR : Nikolajewa, Smidowitsch, Moirowa ; Kandidat : Urabajewa.
- 2. Deutschland : Sonntag, Alte.
- 3. Frankreich : Fossecauve, Cirauld.
- 4. Italien : Rosina
- 5. Tschechoslowakei : Majerowa, Spöner.
- 6. England : Robinson.
- 7. Bulgarien :
- 8. Jugoslawien : } Boschkowitsch.
- 9. Rumänien : }
- 10. Polen : Kamrewitsch, Kalina.
- 11. Finnland : Malm, Aino, Kuusinen.
- 12. Schweden : Swenson.
- 13. Norwegen : Olsen.
- 14. Osterrreich : Strömer.

(10)

- 15. Vereinigte Staaten : Amter.
 - 16. Spanien : Alonzo.
 - 17. Argentinien : } Cothino.
 - 18. Mexiko : }
 - 19. Brasilien : }
 - 20. Ägypten : Said Suliman.
 - 21. Jugendinternationale : Michalez.
 - 22. China : Luzika.
 - 23. Profintern : Lerner.
- Persönlich : Zetkin, Stasarowa, Kasparowa.

(10) 秘書團

- Vorsitzender : Rienzi.
 Sekretär : Schiller.
- 1. Union der SSR : Schaplin, Selenski, Harikonow, Zetlin, Knorin.
 - 2. Deutschland : Thälmann, Lothar.
 - 3. Frankreich : Steuger (verhaftet), Tommasi.
 - 4. Italien : Rienzi, Pastorino.

- 5. Tschechoslowakei : Kreibich, Wenzel.
- 6. England : Douglas.
- 7. Jugola wien : Schumenkowitzsch.
- 8. Rumänien : Badulescu.
- 9. Griechenland : Poluopoulos.
- 10. Polen : Skutzki ; stellvertreter : Bumnojewski.
- 11. Ukraina : Hopner.
- 12. Finnland : Frieberg ; Stellvertreter : Passonen.
- 13. Estland : }
- 14. Lettland : } Andaredis.
- 15. Litauen : }
- 16. Schweden : Höglund, Olson.
- 17. Norwegen : Dahl.
- 18. Holland : Laekerveld.
- 19. Österreich : Strömer.
- 20. Vereinigte Staaten : } Philipps.
- 21. Kanada : }
- 22. Spanien : Rojas.

- 23. Argentinien :
- 24. Mexiko : } Contreras.
- 35. Brasilien : }
- 26. Ägypten : Said Suliman.
- 27. Jugendinternationale : Gypfner.
- 28. China : Wah-rew.

(11) 德國代表會

- Vorsitzender : Kolarow.
- Sekretär : Treint.
- 1. Deutschländ : Thälmann, Ruth Fischer, Freimuth.
- 2. Frankreich : Treint, Sellier.
- 3. Italien : Bordiga, Rienzi, Terracini.
- 4. Tschechoslowakei : Simeral, Neurath.
- 5. England : Douglas, Murphy.
- 6. Bulgarien, Jugoslawien, Rumänien : Kolarow.
- 7. Polen : Graszegoschewski, Kostschewa ; Stellvert : Krjewski.
- 8. Finnland : Manner.

- 9. Schweden, Norwegen, Dänemark : Hanser, Ekglund.
- 10. Holland : Synkoop.
- 11. Vereinigte Staaten : Dunne, Olgin.
- 12. Kanada : Bruce.
- 13. Japan : Katayama.
- 14. Indien : Roy.
- 15. Argentinien, Mexiko, Brasilien : Cothino.
- 16. Ägypten : Said Suliman.
- 17. Jugendinternationale : Wujowitsch, Lothar.
- 18. Spanien : Perez-Solis.
- 19. Portugal : Humbert-Droz.

(12) 執事委員會

- Vorsitzender : Smeral.
- Sekretär : Mijutin.
- 1. Union der SSR : Mijutin, Unschlicht, Smirnow, A. W. Kuibischew ; Stellvertreter : Kausinen, Piatnizki.
- 2. Deutschland : Freimuth, Linde.

3. Frankreich : Sellier, Jerrane.
4. Italien : Piemonte.
5. Tschechoslowakei : Smeral, Neurath.
6. England : Larkin.
7. Jugoslawien : Marinowitsch.
8. Rumänien : Popescu.
9. Griechenland : Maximos.
10. Ukraina : Skrüpnik, Schlichter.
11. Österreich : Fiala.
12. Jugendinternationale : Michalez, ein italienischer Genosse.
13. Spanien : Allonzo.
14. Türkei : Fawi.

(三) 奧大利委員會

Vorsitzender : Manniiski.
Sekretär : Christoph.

1. Union der SSR : Sinowjew, Manniiski, Sokolnikow, Stefanow, Rudsutak, Rakosi.
2. Deutschland : Thälmann, Ruth Fischer, Vater.

3. Frankreich : Tomasi, Danois, Doriot.
4. Tschechoslowakei : Majerowa, Bunik.
5. England : Wilson.
6. Bulgarien : Kolarow.
7. Jugoslawien : Senko.
8. Rumänien : Georgescu.
9. Griechenland : Polopulos.
10. Polen : Brand; Stellvertreter : Krajewski.
11. Schweden : Samuelson.
12. Norwegen : Hansen.
13. Schweiz : Bringolf.
14. Österreich : Riess.
15. Vereinigte Staaten : Carlson.
16. Spanien : Acevedo.
17. Argentinien : Contieras.
18. Jugendinternationale : Wujowitsch, Muton.
19. Türkei : Dschewart.

(1E) 蘇聯政府

1. Vorsitzender : Stalin.
15. Sekretär : Mizkewitsch-Kapankas.
1. Union der SSR : Molotow, Mannilski, Deerschinski; Stellvertreter : Unschlicht, Miljutin, Piatnizki, Podwoski.
2. Deutschland : Thälmann, Rwal, Kandl.
3. Frankreich : Treint, Girauld.
4. Italien : Terracini.
5. Tschechoslowakei : Kohn, Kotschek.
6. England : Fischer.
7. Bulgarien : Dimitrow.
8. Rumänien : Badulescu.
9. Ukraina : Skripnik, Schumski.
10. Finnland : Laukki.
11. Litauen : Angareitis.
12. Vereinigte Staaten : Johnson.
13. Jugendinternationale : Wujowitsch, Zetlin.
14. Weisrusland : Tschewjakow.

(1H) 英國政府

1. Vorsitzender : Kunsinen.
2. Sekretär : Ruth Fischer, Bennet.
1. Union der SSR : Sinowjew, Bucharin, Kunsinen, Petrowski; Stellvertreter : Ras-
kornikow, Losowski, Melnitschanski.
2. Deutschland : Grenz, Grün, Ulmer.
3. Frankreich : Jerram, Sellier, Marrane.
4. Italien : Ercoli, Vinci.
5. Tschechoslowakei : Kohn, Krentz.
6. Bulgarien : Dimitrow.
7. Rumänien : Badulescu.
8. Polen : Krajewski; Stellvertreter : Brand.
9. Norwegen : Eines.
10. Vereinigte Staaten : Philipp, Dunne.
11. Kanada : Buck.
12. Australien : Montefiore.
13. Japan : Katayama.
14. China : Ghina.

- 15. Ägypten : Said Suliman.
- 16. Jugendinternationale : Bamatter, Willi.
- 17. Mexiko : Wolfe.

(二) 日本委員会

Vorsitzender : Mac Manns.

Sekretär : Petrov.

- 1. Union der SSR. : Petrow, Schmidt, Sorin ; Stellvertreter : Kohn, Smidowitsch.
- 2. Deutschland : Stein, Sommer.
- 3. Frankreich : Tommasi, Pichon.
- 4. Italien : Bini.
- 5. Tschechoslowakei : Kreibich.
- 6. England : Douglas.
- 7. Polen : Dunakewski ; Stellvertreter : Brand.
- 8. Vereinigte Staaten : } Johnson.
- 9. Kanada : }
- 10. Australien : Montefiore.

- 11. Java : Semoen.
- 12. Indien : Roy.
- 13. Argentinien : } Cochino.
- 14. Mexiko. }
- 15. Brasilien : }
- 16. Jugendinternationale : Bamatter, Williamson.
- 17. Japan : } Katayama.
- 18. China : }

(1) 英國委員会

Vorsitzender : Thälmann.

Sekretär : Peluso.

- 1. Union der SSR. : Platnitzki, Mijutin ; Kandidaten : Guralaki, Reinstein.
- 2. Deutschland : Igri.
- 3. Frankreich : Chasseigne.
- 4. Italien : Rossi.
- 5. Tschechoslowakei : Wencesch, Sponer.
- 6. England : Ruak.





